

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コウナンガクイフクホウジン シュウナンコウリツガクイフク 公立大学法人 周南公立大学							
フリガナ大学の名称	シュウナンコウリツガクイフク 周南公立大学							
大学本部の位置	山口県周南市学園台843の4の2番地							
大学の目的	周南地域における知の拠点として、公正な社会観と正しい倫理観の確立を基にした「知・徳・体」一体の全人教育を通して総合的かつ専門的な知識、学術を教授研究し、世界的視野と広く豊かな教養を有し、地域に新たな価値を創造する人材を育成するとともに、地域との連携を深め、地域の政策課題の解決や活力豊かなまちづくりの実現に寄与するなどその教育研究成果を広く社会に還元することで、地域社会及び産業の持続的な振興、発展に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>&lt;人間健康科学部&gt; 生涯にわたり身体的、精神的、社会的に多様な健康状態にある人に相応しい健康で幸福な、豊かな生活（Well-being）を過ごすための環境と方法を当事者とともに創造できるスポーツ健康科学・看護学・福祉学分野の専門職者を育成することを目的とする。</p> <p>【スポーツ健康科学科】 人体の構造と機能に関する分野の基礎知識を基に、スポーツや身体運動に関する専門知識と技能を備えることによって、多様な健康状態、発育発達段階、生活環境などにあるすべての人々のWell-beingの向上や健康増進に貢献できる専門職者を養成することを目的とする。</p> <p>【看護学科】 豊かな人間性と高い倫理観、幅広い教養を備え、高度な専門知識と技術を活用し、多職種・他業種と連携協働して、あらゆる健康状態にある人びとが生涯にわたり、社会とのつながりの中で、その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護を実践、探究できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>【福祉学科】 地域のWell-being向上のため、福祉に関わる課題を発見し、多様な人材や機関等との連携・調整を図り、課題解決に主体的に取り組む能力及び、特定の分野に関する専門性だけでなく、福祉サービス全般についての基本的な知識や技能と、ソーシャルワーク能力を身につけた人材を養成することを目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間健康科学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	山口県周南市学園台 843の4の2番地
	スポーツ健康科学科	4	80	—	320	学士（スポーツ健康科学）	令和6年4月 第1年次	
	看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	令和6年4月 第1年次	
	福祉学科	4	60	—	240	学士（社会福祉学）	令和6年4月 第1年次	
計		220	—	880				

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)	経済学部(廃止) 現代経済学科 (△ 80) ビジネス戦略学科 (△150) ※令和6年4月学生募集停止									
	福祉情報学部(廃止) 人間コミュニケーション学科 (△50) ※令和6年4月学生募集停止		情報科学部情報科学科 (100) (令和5年3月認可申請) 経済経営学部経済経営学科 (160) (令和5年4月届出)							
教育 課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	人間健康科学部									
	スポーツ健康科学科		83 科目	41 科目	38 科目	162 科目	124 単位			
	看護学科		68 科目	34 科目	17 科目	119 科目	127 単位			
福祉学科		71 科目	40 科目	5 科目	116 科目	127 単位				
教 員 組 織 の 分 割 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新 設	人間健康科学部	スポーツ健康科学科	9 人 (8)	4 人 (4)	1 人 (1)	0 人 (0)	14 人 (13)	0 人 (0)	74 人 (28)
		看護学科		12 (10)	5 (2)	6 (4)	6 (2)	29 (18)	3 (2)	83 (43)
		福祉学科		8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	59 (31)
		情報科学部	情報科学科	8 (8)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	67 (43)
		経済経営学部	経済経営学科	9 (9)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	73 (27)
	計		46 (43)	24 (21)	12 (10)	7 (3)	89 (77)	3 (2)	— (—)	
	既 分 設	総合教育センター		2 (2)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		計		2 (2)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	合計			48 (45)	26 (23)	15 (13)	7 (3)	96 (84)	3 (2)	— (—)
教員 以外 の 職員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事務職員		49 人 (49)		10 人 (10)		59 人 (59)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)			
	その他の職員		0 (0)		8 (8)		8 (8)			
計		50 人 (50)		18 人 (18)		68 人 (68)				
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校舎敷地		42,432 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		42,432 m <sup>2</sup>			
	運動場用地		38,849 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		38,849 m <sup>2</sup>			
	小 計		81,281 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		81,281 m <sup>2</sup>			
	そ の 他		80,325 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		80,325 m <sup>2</sup>			
合 計		161,606 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		161,606 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		24,058 m <sup>2</sup> ( 24,058 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		24,058 m <sup>2</sup> ( 24,058 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	26 室	15 室	18 室	1 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)		大学全体			

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		人間健康科学部 スポーツ健康科学科			14 室					
		人間健康科学部 看護学科			22 室					
		人間健康科学部 福祉学科			12 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	【大学全体での 共用分】 ・図書129,570 冊		
	人間健康科学部 スポーツ健康科学科	8,476 [226] (8,226 [226])	20 [0] (20 [0])	0 [0] (0 [0])	112 (112)	687 (687)	0 (0)			
	人間健康科学部 看護学科	3,992 [101] (3,742 [101])	53 [10] (53 [10])	0 [0] (0 [0])	120 (120)	2,597 (2,597)	117 (117)			
	人間健康科学部 福祉学科	9,944 [662] (9,694 [662])	30 [4] (30 [4])	0 [0] (0 [0])	170 (170)	102 (102)	8 (8)			
	計	22,412 [989] (21,662 [989])	103 [14] (103 [14])	0 [0] (0 [0])	402 (402)	3,386 (3,386)	125 (125)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		2,262 m <sup>2</sup>		210 席		233,778 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,184 m <sup>2</sup>		陸上競技場1面、野球場1面、人工芝グラウンド1面、テニスコート2面 剣道場、柔道場、レスリング場、アーチェリー場						
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費は大学全体での経費。 図書購入費についてはデータベース整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		3,900千円	3,900千円	3,900千円	3,900千円	－千円	－千円	
		図書購入費	59,473千円	12,621千円	12,621千円	12,621千円	12,621千円	－千円	－千円	
	設備購入費	463,624千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円		
学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	市外在住者 817.8千円		535.8千円	535.8千円	535.8千円	－千円	－千円			
	市内在住者 676.8千円									
学生納付金以外の維持方法の概要			周南市からの運営費交付金等							
既設大学等の 状況	大学の名称		周南公立大学							
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員充足率	開設年度	所在地
	経済学部		年	人	年次人	人		倍		山口県周南市学園台843-4-2
	現代経済学科		4	80	－	320	学士（経済）	0.86	昭和46年度	
	ビジネス戦略学科		4	150	－	600	学士（経済）	1.09	昭和51年度	
福祉情報学部		4	50	－	200	学士（福祉情報）	0.69	平成15年度	※令和6年度より学生募集停止（経済学部、福祉情報学部）	
附属施設の概要										

教育課程等の概要																
(人間健康科学部スポーツ健康科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	の人間形成の科目群と個性伸長	周南Well-being創生入門	1前	2			○								兼1	
		周南Well-being創生論	2前	2			○			2					兼8 オムニバス	
		持続可能な社会とダイバーシティ	1前		2			○				1			兼9 オムニバス、※演習	
		教養スポーツ実習Ⅰ	1前	1					○	4	1	1			兼5 共同、※講義	
		教養スポーツ実習Ⅱ	1後		1				○	2		1			兼4 共同、※講義	
		健康とスポーツ	1後		2			○							兼1	
	小計(6科目)	—	5	5	0		—		5	1	1	0	0	兼22	—	
	創地造域のたため続的科目群と価値	自然災害と防災	2前		1			○								兼1
		地域ゼミ	2通	2					○	1	2	1				兼17 共同、※講義
		社会調査法入門	2前		2			○								兼1
周南地域文化講座		1後		2			○								兼1	
周南地域と産業		1後		2			○								兼1	
ワークショップデザインⅠ		2通		2				○		1					兼3 共同、集中	
ワークショップデザインⅡ		3通		2				○							兼2 共同、集中	
ワークショップデザインⅢ		4通		2				○							兼2 共同、集中	
小計(8科目)	—	2	13	0		—		1	2	1	0	0	兼18	—		
リベラルアーツ科目群	哲学	1前		2			○								兼1	
	日本史Ⅰ	2前		2			○								兼1	
	日本史Ⅱ	2後		2			○								兼1	
	外国史Ⅰ	2前		2			○								兼1	
	外国史Ⅱ	2後		2			○								兼1	
	日本国憲法	1前		2			○								兼1	
	心理学Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	心理学Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	社会学	1前		2			○								兼1	
	数学	1前		2			○								兼1	
	中国語Ⅰ	1後		2				○							兼1 ※講義	
	中国語Ⅱ	2前		2				○							兼1 ※講義	
	韓国語Ⅰ	1後		2				○							兼1 ※講義	
	韓国語Ⅱ	2前		2				○							兼1 ※講義	
ドイツ語Ⅰ	1後		2				○							兼1 ※講義		
ドイツ語Ⅱ	2前		2				○							兼1 ※講義		
小計(16科目)	—	0	32	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—		
リテラシー科目群	教養ゼミ	1前	2					○	7	4	1				共同	
	アカデミックライティング	1後		2				○							兼1	
	情報リテラシー	1前	2				○								兼1 メディア	
	データサイエンス入門	1後	2				○								兼2 共同、IT、※演習	
	総合英語初級Ⅰ	1前	1					○							兼1 ※講義	
	総合英語初級Ⅱ	1後	1					○							兼1 ※講義	
	総合英語初中級Ⅰ	2前	1					○							兼1 ※講義	
	総合英語初中級Ⅱ	2後	1					○							兼1 ※講義	
	総合英語中上級Ⅰ	3前		1				○							兼1 ※講義	
	総合英語中上級Ⅱ	3後		1				○							兼1 ※講義	
	英会話初級Ⅰ	1前	1					○							兼1 ※講義	
	英会話初級Ⅱ	1後	1					○							兼1 ※講義	
	留学英語	1前		1				○							兼2 共同、集中、※講義	
	グローバル英語	3後		2				○							兼1 ※講義	
キャリア形成活動Ⅰ	1通	2						○						兼2 共同、集中		
キャリア形成活動Ⅱ	2通	2						○						兼2 共同、集中		
小計(16科目)	—	16	7	0		—		7	4	1	0	0	兼9	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門基礎科目	基礎科目	人間と健康	1前	2			○			2	2					兼5	オムニバス・共同(一部)	
		解剖学	1前	2			○			2							兼5	オムニバス・共同(一部)
		生理学	1前	2			○			1								
		内科学	1後	2			○			1								
		栄養学	1後	2			○			1								
		公衆衛生学	1後		2		○										兼1	
		機能解剖学Ⅰ(総論、体幹)	2前		2		○			1	1						共同	
		機能解剖学Ⅱ(下肢、上肢)	2後		2		○			1	1						共同	
		救急処置法	2後		2		○										兼1	※演習
	小計(9科目)	—	10	8	0				4	2	0	0	0			兼7	—	
	基礎科目	スポーツ医学	1後		2		○			2							兼1	オムニバス・共同(一部)
		健康医学	2前		2		○										兼1	
		体力トレーニング論	1前		2		○				1							
		スポーツバイオメカニクス	1後		2		○				1							
		運動生理学	2前		2		○			1								※演習
		発育発達論	2前		2		○			1								
		スポーツ心理学	2前		2		○					1						
		スポーツ運動学	2前		2		○										兼1	
		体力測定と評価	2後		2		○			1								※実習
学校保健		2後		2		○										兼2	オムニバス、※演習	
スポーツ栄養学	2後		2		○										兼1			
スポーツ文化論Ⅰ(体育・スポーツ史、体育・スポーツ哲学)	2前		2		○			2								オムニバス・共同(一部)		
スポーツ文化論Ⅱ(スポーツ社会学・スポーツ史)	2後		2		○			2								オムニバス・共同(一部)		
小計(13科目)	—	0	26	0				6	1	1	0	0			兼6	—		
専門科目	応用科目	女性アスリートスポーツ論	2後		2		○			1								
		障がいに対する理解	2後		2		○									兼1		
		運動処方	3前		2		○			1						兼1	オムニバス、※演習	
		スポーツ生化学	3前		2		○			1								
		運動生理学演習	3後		2			○		2							オムニバス・共同(一部)	
		運動分子生物学	3前		2		○			1								
		運動分子生物学演習	3後		2			○		1								
		健康産業施設実習	3通		1				○	1							集中	
		小計(8科目)	—	0	15	0				3	0	0	0	0			兼2	—
	アスリートサポートに関する科目群	アスレティックトレーニング概論	1後		2		○			1								
		スポーツ傷害論Ⅰ(体幹、重篤外傷)	2前		2		○			1								
		スポーツ傷害論Ⅱ(下肢、上肢)	2後		2		○			1								
		スポーツ傷害予防論	2前		2		○			1								
		スポーツ傷害対応論	2後		2		○			1							※演習	
		スポーツ傷害評価演習	3前		2			○								兼1	※講義	
		スポーツ傷害対応演習	3後		2			○								兼1	※講義	
		検査測定評価演習	2後		2			○		1	1						オムニバス	
		スポーツ心理学実験演習	3前		2			○				1					※講義	
		メンタルトレーニング論	3前		2		○					1					※演習	
コーチング論	3前		2		○									兼1				
コンディショニング論	2前		2		○			1	1						共同			
コンディショニング実習Ⅰ	2後		1				○	1							※講義			
コンディショニング実習Ⅱ	3前		1				○	1							※講義			
リコンディショニング論	3前		2		○									兼1	※実習			
リコンディショニング実習Ⅰ	3後		1				○							兼1	※講義			
リコンディショニング実習Ⅱ	4前		1				○		1									
小計(17科目)	—	0	30	0				2	1	1	0	0			兼2	—		

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	応用科目 社会とスポーツに関する科目群	スポーツ産業学	3前		2		○			1						兼1 兼1 兼1 ※演習 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		スポーツマネジメント	3後		2		○			1						
		地域スポーツ文化論	3前		2		○			1						
		スポーツリズム論	3後		2		○									
		パラスポーツ論Ⅰ	3前		2		○									
		パラスポーツ論Ⅱ	3後		2		○									
		野外教育論	3前		2		○									
		レクリエーション論	3前		2		○									
		レクリエーション演習	3後		2			○								
		レクリエーション実習	4前		1				○							
	小計 (10科目)		—	0	19	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼4	—
	地域共創型演習・実習科目	健康運動演習	3前		2			○		2						共同、※講義 共同 ※講義 ※講義・演習 ※講義 ※講義・演習 集中 ※講義 ※講義・演習 ※講義 ※講義
		健康運動実習	3後		1			○		2						
		スポーツバイオメカニクス演習	3前		2			○			1					
		スポーツバイオメカニクス実習	3後		1				○		1					
		スポーツ産業学演習	3前		2			○		1						
		スポーツ産業学実習	3後		1				○		1					
		地域スポーツフィールド演習	3前		2			○		1						
		地域スポーツフィールド実習	3後		1				○		1					
スポーツ教育実践演習		3前		2			○			1						
スポーツ教育実践実習		3後		1				○		1						
保健体育科実践演習		3前		2			○			1						
保健体育科実践実習		3後		1				○		1						
メンタルトレーニング演習		3後		2			○				1					
小計 (13科目)		—	0	20	0	—	—	—	4	3	1	0	0	0	—	
実技科目	陸上競技	2後		1				○		1					兼1 共同 兼1 集中 兼1 陸上・水泳・共同(一部) 兼2 陸上・水泳・共同(一部) 兼1 兼1 兼1 集中 兼1 集中 兼2 共同、集中	
	水泳	2通		1				○								
	ゴール型球技	2前		1				○			1					
	ネット型球技	2後		1				○								
	ベースボール型球技	2前		1				○								
	エアロビックダンス	2後		1				○								
	野外実習 (海上)	3通		1				○								
	野外実習 (雪上)	3後		1				○								
	野外実習 (組織キャンプ)	3通		1				○		1						
	小計 (9科目)		—	0	9	0	—	—	—	2	1	0	0	兼11		—
演習科目	専門演習Ⅰ	3通	4				○		9	4	1				共同	
	専門演習Ⅱ	4通	4				○		9	4	1				共同	
	小計 (2科目)		—	8	0	0	—	—	9	4	1	0	0	0	—	
教職課程科目	関する科目の指導法に	保健体育科教育法Ⅰ	2前		2	○				1					※演習	
		保健体育科教育法Ⅱ	2後		2	○				1					※演習	
		保健体育科教育法Ⅲ	3前		2	○					1				※演習	
		保健体育科教育法Ⅳ	3後		2	○					1				※演習	
		体づくり運動	3後		1				○						兼1	
		器械運動	2前		1				○		1				兼1 共同	
		武道	2通		1				○		1				兼1 陸上・水泳(一部)、集中	
		ダンス	2前		1				○						兼1	
小計 (8科目)		—	0	0	12	—	—	0	2	0	0	0	兼3	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教職課程科目	教師論	1前			2	○										兼1	共同 兼1 集中 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 小グループ、集中、※演習 兼2 小グループ、集中、※演習 兼1 兼2 共同 兼2 共同 兼2 共同、集中 兼2 共同、集中 兼2 共同
	教育課程論	1後			2	○										兼2	
	教育原理	2前			2	○										兼1	
	教育心理学	2後			2	○										兼1	
	教育行政論	3後			2	○										兼1	
	特別支援教育	3後			2	○										兼1	
	道徳教育	2後			2	○										兼1	
	教育方法論Ⅰ	2前			2	○										兼1	
	教育方法論Ⅱ	2後			2	○										兼1	
	生徒指導論	2前			2	○										兼1	
	教育相談Ⅰ	2前			2	○										兼2	
	教育相談Ⅱ	2後			2	○										兼2	
	特別活動及び総合的な学習の時間	3前			2	○										兼1	
	教育実習基礎講座Ⅰ	3後			2		○									兼2	
	教育実習基礎講座Ⅱ	4前			2		○									兼2	
	教育実習Ⅰ	4通			2				○							兼2	
	教育実習Ⅱ	4通			2				○							兼2	
	教職実践演習	4後			2		○									兼2	
小計 (18科目)	—	0	0	36	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼7	—	
す自大 するに学 科設が 日定独	教職ボランティア実習	3前			2			○								兼2	共同
	学校体験活動	2通			2			○		1							集中、※講義
	小計 (2科目)	—	0	0	4	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼2	—	
資格 対応 科目	救急対応実践論Ⅰ	2前			2	○			1								※演習
	救急対応実践論Ⅱ	2後			2	○			1	1							小グループ、※演習
	リコンディショニング実習Ⅲ	4後			1			○	1	1							共同、※講義
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	2前			1			○	1								集中、※講義
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	2後			1			○	1								集中、※講義
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	3通			2			○	1								集中、※講義
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ	4通			2			○	1								集中、※講義
小計 (7科目)	—	0	0	11	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	兼7	—	
合計 (162科目)			—	41	184	63	—	—	9	4	1	0	0	0	兼74	—	
学位又は称号		学士 (スポーツ健康科学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)、体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
[卒業要件：124単位以上] ○総合科目 (27単位以上) ・人間形成と個性伸長のための科目群 5単位以上 ・地域の持続的発展と価値創造のための科目群 2単位以上 ・リベラルアーツ科目群 4単位以上 ・リテラシー科目群 16単位以上 ○専門基礎科目 (32単位以上) ・基盤科目 14単位以上 (必修科目10単位を含む) ・基礎科目 18単位以上 ○専門科目 (53単位以上) ・応用科目 36単位以上 「身体活動と健康に関する科目群」 10単位以上 「アスリートサポートに関する科目群」 14単位以上 「社会とスポーツに関する科目群」 12単位以上 ・地域共創型演習・実習科目 3単位以上 ・実技科目 6単位以上 ・演習科目 8単位 (全て必修科目) ○自由科目 (任意、12単位以下)								1学年の学期区分					2期				
								1学期の授業期間					15週				
								1時限の授業時間					90分				
[履修科目の登録の上限：48単位 (年間)] ※ただし、教職課程科目と資格対応科目を履修する場合はこの限りではない。																	

教育課程等の概要																
(人間健康科学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目	人間形成と個性伸長のため	周南Well-being創生入門	1前	2			○								兼1	
		周南Well-being創生論	2前	2			○			2					兼8 オムニバス	
		持続可能な社会とダイバーシティ	1前		2			○		1					兼9 オムニバス、※演習	
		教養スポーツ実習Ⅰ	1前	1											兼11 共同、※講義	
		教養スポーツ実習Ⅱ	1後		1				○						兼7 共同、※講義	
		健康とスポーツ	1後		2			○							兼1	
		人の健康生活	1後		1			○		3	1				オムニバス	
		健康と福祉	2前		2			○							兼1 ※演習	
		メンタルヘルス入門	1前		1			○		1					※演習	
	小計(9科目)	—		5	9	0		—		6	1	0	0	0	兼28	
	地域価値の持続的発展の発	自然災害と防災	2前		1			○								兼1
		社会調査法入門	2前			2		○								兼1
		地域づくり論	1後			2		○								兼1
		周南地域と産業	1後			2		○								兼1
アントレプレナーシップ入門		2前			2		○								兼1	
小計(5科目)	—		1	8	0		—		0	0	0	0	0	兼4		
リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	哲学	1前			2		○								兼1	
	生活と経済経営	1後			2		○								兼5 オムニバス	
	日本国憲法	1前			2		○								兼1	
	心理学Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	社会学	1前			2		○								兼1	
	中国語Ⅰ	1後			2			○							兼1 ※講義	
	中国語Ⅱ	2前			2			○							兼1 ※講義	
	韓国語Ⅰ	2後			2			○							兼1 ※講義	
	韓国語Ⅱ	3前			2			○							兼1 ※講義	
	ドイツ語Ⅰ	2後			2			○							兼1 ※講義	
ドイツ語Ⅱ	3前			2			○							兼1 ※講義		
小計(12科目)	—		4	20	0		—		0	0	0	0	0	兼13		
リテラシー科目群	教養ゼミ	1前		2				○		12	5	6	6		共同、※講義	
	アカデミックライティング	1後			2			○							兼1	
	情報リテラシー	1前			2			○							兼1 デイ	
	データサイエンス入門	1後			2			○							兼2 共同、17、17、※演習	
	情報倫理	1後			2			○							兼1	
	情報社会論	2前			2			○							兼1	
	総合英語初級Ⅰ	1前		1				○							兼1 ※講義	
	総合英語初級Ⅱ	1後		1				○							兼1 ※講義	
	総合英語初中級Ⅰ	2前		1				○							兼1 ※講義	
	総合英語初中級Ⅱ	2後		1				○							兼1 ※講義	
	英会話初級Ⅰ	1前		1				○							兼1 ※講義	
	英会話初級Ⅱ	1後		1				○							兼1 ※講義	
	留学英語	1前			1			○							兼2 共同、集中、※講義	
小計(13科目)	—		12	7	0		—		12	5	6	6	0	兼8		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人間と健康	1前	2			○			1						兼8	オムニバス・共同（一部）
	生涯発達論	1後	1			○									兼1	
	公衆衛生	2後	2			○									兼1	
	社会福祉学	2後	2			○									兼1	
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			○									兼3	オムニバス
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2			○									兼3	オムニバス
	栄養代謝学	2前	2			○									兼1	
	微生物・感染制御学	2後	2			○									兼1	
	臨床薬理学	2前	2			○									兼1	
	周産期小児期疾病治療論	2前	2			○									兼4	オムニバス
	成人期疾病治療論	2前	2			○									兼9	オムニバス
	高齢期疾病治療論	2前	1			○									兼4	オムニバス
	精神疾病治療論	2前	1			○									兼1	
	安全な患者介助	2後		1		○			1							
	コミュニケーションスキル	3前		1		○				1						オムニバス
	臨床遺伝学	3前		1		○									兼4	
	健康まちづくり論	2前		2		○									兼1	
小計（17科目）	—	—	23	5	0	—	—	—	3	1	0	0	0	兼36		
専門科目	基礎看護分野科目	看護学概論	1前	2			○		2							オムニバス
	コミュニケーション論	1後	1			○			1							
	基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助）	1後	2				○		2	2	1	1	1		共同	
	基礎看護技術Ⅱ（診療に伴う技術）	2前	2				○		2	2	1	1	1		共同	
	ヘルスアセスメント	2前	1				○		2	2	1	1	1		共同	
	看護過程	2後	2				○		2	2	1	1	1		オムニバス・共同（一部）	
	看護倫理	2後	1				○		1							
	看護管理学	4前	1				○		1							オムニバス
	小計（8科目）	—	—	12	0	0	—	—	—	2	2	1	1	1	兼0	
	生涯発達看護分野科目	セクシュアルリプロダクティブ看護学概論	1後	1			○		1							
	セクシュアルリプロダクティブ看護方法	2前	2				○		2		1					オムニバス・共同（一部）
	セクシュアルリプロダクティブ看護実践	3前	1				○		2		1		1			オムニバス・共同（一部）
	小児看護学概論	2前	1				○		1							オムニバス・共同（一部）
	小児看護方法	2後	2				○		2	1						オムニバス・共同（一部）
	小児看護実践	3前	1				○		2	1						オムニバス・共同（一部）
	成人看護学概論	2前	2				○		2							オムニバス
	成人看護方法	2後	2				○		2	1	1	2				オムニバス・共同（一部）
成人急性期看護実践	3前	1				○		1		1	1				オムニバス・共同（一部）	
成人慢性期看護実践	3前	1				○		1	1		2				オムニバス・共同（一部）	
高齢者看護学概論	2前	1				○		1							オムニバス・共同（一部）	
高齢者看護方法	2後	2				○		1		1	1				オムニバス・共同（一部）	
高齢者看護実践	3前	1				○		1		1	1	2			オムニバス・共同（一部）	
小計（13科目）	—	—	18	0	0	—	—	—	7	2	3	3	2	兼0		
広域看護分野科目	地域・在宅看護概論	1後	1			○		1								オムニバス
地域・在宅支援論	2後	2				○		2		1	1					オムニバス
地域包括支援論	3前	1				○		1		1	1	1				オムニバス・共同（一部）
地域・在宅看護実践	3前	2				○		1		1	1	1				オムニバス・共同（一部）
精神看護学概論	2前	1				○		1	1							オムニバス
精神看護方法	2後	2				○		1	1							オムニバス・共同（一部）
精神看護実践	3前	1				○		1	1			1				オムニバス・共同（一部）
小計（7科目）	—	—	10	0	0	—	—	—	2	1	1	1	1	兼0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	統合分野科目	災害看護論	4前	1			○									兼1
		へき地・地域医療	4前	1			○									兼1
		多職種連携	3前	1				○		1	1	1				兼1
		研究方法論	3後	2			○			4						兼1
		卒業研究	4通	4				○		12	5	6	6			兼1
		家族看護学	3前	1			○									兼1
		国際保健	4後	1			○									兼1
		看護政策論	4後		1		○									兼1
		看護教育	4後		1		○			1						兼1
		医療経済学	4後		1		○									兼1
	小計(10科目)	—	11	3	0	—			12	5	6	6	0		兼7	
	実習科目	well-being実習Ⅰ(地域の成人・高齢者)	1前	1					○	9	4	5	5			共同
		well-being実習Ⅱ(地域の幼児・学童期)	1前	1					○	8	4	3	2			共同
		well-being実習Ⅲ(地域の健康課題)	4前	2					○	12	5	6	6			共同
		基礎看護実習Ⅰ	2前	1					○	2	2	6	6	2		共同
基礎看護実習Ⅱ		2後	2					○	2	2	6	6	2		共同	
地域・在宅看護実習		3後	2					○	2	0	2	2			共同	
成人急性期看護実習		3後	2					○	2	1	1	2	1		共同	
成人慢性期看護実習		3後	2					○	2	1	1	2	1		共同	
高齢者看護実習		3後	2					○	1		1	1	2		共同	
小児看護実習		3後	2					○	2	1			1		共同	
母性看護実習		3後	2					○	2		1		1		共同	
精神看護実習		3後	2					○	1	1			1		共同	
統合実習		4前	2					○	12	5	6	6			共同	
小計(13科目)	—	23	0	0	—			12	5	6	6	3		兼0		
保健師課程科目	公衆衛生看護学概論	2前		1		○			1		1	1			兼3	
	公衆衛生看護活動Ⅰ	2後		2		○			1		1	1			兼3	
	公衆衛生看護活動Ⅱ	2後		2		○			1						兼3	
	公衆衛生看護方法	3前		2			○		1		1	1			兼3	
	地区活動論	4前		2		○			1		1	1			兼3	
	疫学演習	4前		2			○		1						兼3	
	地域保健活動展開論	4前		1		○			1						兼3	
	公衆衛生看護管理論	4前		1		○			1			1			兼3	
	保健医療福祉行政論	4前		1		○			1		1	1			兼3	
	保健活動評価	4後		1		○			1		1	1			兼3	
	公衆衛生看護実習Ⅰ	4通		3			○		1		1	1			兼3	
	公衆衛生看護実習Ⅱ	4通		2			○		2		2	2			兼3	
小計(12科目)	—	0	20	0	—			2	0	2	2	0		兼3		
合計(119科目)			—	119	72	0	—		12	5	6	6	3		兼83	
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
看護学科の卒業要件は、必修科目119単位(「総合科目」における必修科目22単位、「専門基礎科目」における必修科目23単位、「専門科目」における必修科目74単位)、「総合科目」の選択科目から4単位以上、「専門基礎科目」及び「専門科目」から4単位以上を履修し、合計で127単位以上修得することとする。保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件(127単位)に加えて、保健師課程科目の20単位を履修し、合計147単位以上を修得することとする。  (履修科目の登録上限:48単位(年間)、ただし、保健師課程科目は、CAP制対象外科目とする)							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要														
(人間健康科学部福祉学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	1前	2			○							兼1
	周南Well-being創生論	2前	2			○			1					兼9 オムニバス
	持続可能な社会とダイバーシティ	1・2・3・4前		2			○		1	1				兼8 オムニバス、※演習
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4後		2			○							兼4 オムニバス、共同（一部）
	教養スポーツ実習Ⅰ	1前	1					○						兼11 共同、※講義
	健康とスポーツ	1・2・3・4後		2			○							兼1
	人の健康生活	1・2・3・4後		1			○							兼4 オムニバス
	健康と福祉	2・3・4前		2			○			1				※演習
	メンタルヘルス入門	1・2・3・4前		1			○							兼1 ※演習
	小計（9科目）	—	5	10	0		—		2	2	0	0	0	兼33
地域の伝統的発展と価値創造のための科目群	自然災害と防災	2・3・4前		1			○							兼1
	地域ゼミ	2通	2				○		4	2				共同、※講義
	地域づくり論	1・2・3・4後		2			○							兼1
	周南地域文化講座	1・2・3・4後		2			○							兼1
	周南地域と産業	1・2・3・4後		2			○							兼1
	ワークショップデザインⅠ	2・3・4通		2				○						兼4 共同、※講義
	ワークショップデザインⅡ	3・4通		2				○						兼2 共同
ワークショップデザインⅢ	4通		2				○						兼2 共同	
小計（8科目）	—	2	13	0		—		4	2	0	0	0	兼7	
リベラルアーツ科目群	倫理学Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							兼1
	倫理学Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							兼1
	哲学	1・2・3・4前		2			○							兼1
	生活と経済経営	1・2・3・4後		2			○							兼5 オムニバス
	日本国憲法	1・2・3・4前		2			○							兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3・4後		2				○						兼1 ※講義
	中国語Ⅱ	2・3・4前		2				○						兼1 ※講義
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4後		2				○						兼1 ※講義
	韓国語Ⅱ	2・3・4前		2				○						兼1 ※講義
	ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4後		2				○						兼1 ※講義
ドイツ語Ⅱ	2・3・4前		2				○						兼1 ※講義	
小計（11科目）	—	0	22	0		—		0	0	0	0	0	兼11	
リテラシー科目群	教養ゼミ	1前	2				○		3	1				共同
	情報リテラシー	1前	2				○							兼1
	データサイエンス入門	1後	2				○							兼2 共同
	情報倫理	1・2・3・4後		2			○							兼1
	Python入門	1・2・3・4前		2			○							兼1 ※演習
	総合英語初級Ⅰ	1前	1					○						兼1 ※講義
	総合英語初級Ⅱ	1後	1					○						兼1 ※講義
	総合英語初中級Ⅰ	2前	1					○						兼1 ※講義
	総合英語初中級Ⅱ	2後	1					○						兼1 ※講義
	総合英語中上級Ⅰ	3・4前		1				○						兼1 ※講義
	総合英語中上級Ⅱ	3・4後		1				○						兼1 ※講義
	英会話初級Ⅰ	1前	1					○						兼1 ※講義
	英会話初級Ⅱ	1後	1					○						兼1 ※講義
小計（13科目）	—	12	6	0		—		3	1	0	0	0	兼7	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	医学概論	1後	2			○									兼1
	心理学と心理的支援	1前	2			○									兼1
	社会学と社会システム	1前	2			○									兼1
	社会福祉の原理と政策 I	1前	2			○			2						
	社会福祉の原理と政策 II	1後	2			○			3	1					オムニバス
	社会保障 I	2前	2			○			1						オムニバス
	社会保障 II	2後	2			○			1						
	権利擁護を支える法制度	2前	2			○			1						
	地域福祉と包括的支援体制 I	3前	2			○				1					※演習
	地域福祉と包括的支援体制 II	3後	2			○			1						※演習
	高齢者福祉	2後	2			○			1						※演習
	障害者福祉	3前	2			○			1						※演習
	児童・家庭福祉	2前	2			○				1					
	貧困に対する支援	2前	2			○			1						
	保健医療と福祉	4前	2			○			1						※演習
	刑事司法と福祉	2後	2			○			1						
	社会福祉調査の基礎	3前	2			○				1					
	福祉サービスの組織と経営	3前	2			○				1					
	社会福祉法制	2前	2			○			1						
	人間と健康	1前	2			○			2	2					兼5
	NPO・ボランティア論	3後	2			○				1					オムニバス、共同（一部）
	地域福祉キャリア形成活動指導 I	1後	2				○		3	3					共同
	地域福祉キャリア形成活動指導 II	2前	2				○		3	3					共同
	地域福祉キャリア形成活動 I	1後	2					○	3	3					共同
	地域福祉キャリア形成活動 II	2前	2					○	3	3					共同
小計 (25科目)		—	50	0	0	—	—	—	8	4	0	0	0	兼8	
専門科目	多職種協働演習	3前		2			○		1						※講義
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	1前	2			○				1					
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	1後	2			○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法 I	2前	2			○				1					
	ソーシャルワークの理論と方法 II	2後	2			○			1						
	ソーシャルワークの理論と方法 III	3前	2			○			1						※演習
	ソーシャルワークの理論と方法 IV	3後	2			○			1						※演習
	ソーシャルワーク演習 I	2前	2				○		1	2					共同
	ソーシャルワーク演習 II	2後	2				○		2	1					共同
	ソーシャルワーク演習 III	3前	2				○		2	1					共同
	ソーシャルワーク演習 IV	3後	2				○		3						共同
	ソーシャルワーク演習 V	4前	2				○		3						共同
	ソーシャルワーク実習指導 I	2後	2				○		3						共同、※講義
	ソーシャルワーク実習指導 II	3前	2				○		3						共同、※講義
	ソーシャルワーク実習指導 III	3後	2				○		3						共同、※講義
	ソーシャルワーク実習 I	2後・3前	5					○	5	2					共同
	ソーシャルワーク実習 II	3後・4前	1					○	5	2					共同
	卒業研究 I	3前	2				○		3	2					共同
卒業研究 II	4通	4				○		3	2					共同	
小計 (19科目)			40	2	0	—	—	—	7	3	0	0	0	兼0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 子ども系科目	保育原理	1・2・3・4後		2		○				1					兼1  兼1 兼1 ※講義 兼1 兼1 ※講義 兼1 ※講義
	保育ソーシャルワーク論	3・4後		2		○				1					
	保育ソーシャルワーク演習	4前		2			○			1					
	社会的養護	3・4前		2		○									
	子どもの理解	1前	2			○				1					
	子どもの遊びと援助	1・2・3・4後		2		○				1					
	子どもの保健	2・3・4前		2		○									
	幼児体育	3・4前		2			○								
	音楽理論	1・2・3・4後		2			○								
	子どもの遊びと造形	2・3・4前		2			○								
	子どもの遊びと言葉	3・4後		2			○				1				
小計 (11科目)		—	2	20	0	—			0	3	0	0	0	兼5	
シニア系科目	介護基礎理論Ⅰ	1前	2			○			1					兼2 オムニバス ※講義 ※講義 ※講義	
	介護基礎理論Ⅱ	1後		2		○				1					
	こころとからだのしくみ	1後		2		○									
	介護演習Ⅰ	1後		2			○			1					
	介護演習Ⅱ	2前		2			○			1					
	介護演習Ⅲ	2後		2			○			1					
	福祉的ターミナルケア	2前		2		○				1					
	ケアマネジメント論	2・3・4後		2		○			1						
小計 (8科目)		—	2	14	0	—			1	1	0	0	0	兼2	
地域系科目	地域観光まちづくり論	1前	2			○			1					兼1 兼1	
	健康まちづくり論	1・2・3・4後		2		○			1						
	やまぐち地域福祉発達史	1・2・3・4後		2		○									
	福祉自治論	1・2・3・4後		2		○									
	地域公共政策論	1・2・3・4後		2		○			1						
	地域マネジメント論	2・3・4前		2		○			1						
	地域福祉経済論	2・3・4前		2		○			1						
	政策評価	2・3・4後		2		○			1						
	地域企業会計	1・2・3・4後		2		○			1						
	社会福祉法人会計	2・3・4前		2		○			1						
	地域企業分析	2・3・4前		2		○			1						
	地域企業運営	2・3・4後		2		○			1						
小計 (12科目)		—	2	22	0	—			3	0	0	0	0	兼2	
合計 (116科目)		—	115	109	0	—			8	4	0	0	0	兼59	
学位又は称号		学士 (社会福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目115単位に加え、すべての科目区分から選択科目12単位以上を履修し、合計127単位以上を修得すること。 なお、選択科目12単位以上には、「専門科目」の「子ども系科目」「シニア系科目」「地域系科目」の選択科目6単位以上を含むこと。  (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))						1 学年の学期区分			2 期						
						1 学期の授業期間			15 週						
						1 時限の授業時間			90 分						

授 業 科 目 の 概 要 (人間健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	人間 形成 と 個性 伸長 の ため の 科 目 群	周南Well-being創生入門	
	周南Well-being創生論	<p>本講義では「Well-beingとは何か？」について基礎的な知識の習得を目的とする。Well-beingとは身体、心、社会的に良好な状態を意味し、健康・幸福・福祉などと表されている。well-beingは、単に病気がないことや、経済的な豊かさだけでなく、心の状態が良好であることが影響する。このことから具体的には、Well-beingに関係する様々な要因を挙げ、それらのメカニズムや高め方について、周南地域を事例としながら講義する。その際、EQ（心の知能指数）も要因の1つとして取り上げる。本講義を受けることにより、基礎的なWell-beingに関する知識を習得し、Well-beingの創生と課題についての視点をもつことができ、のちに展開される各論や応用の学習の準備とすることができる。</p> <p>（概要）『周南Well-being創生入門』で総論的に学んだことを受けて、本講義では各論的なWell-beingを扱う。経済経営、スポーツ、福祉、看護、情報などの学内の多様な分野の教員がそれぞれの立場から自身の研究分野についてWell-beingの観点から論じる。全回を通じて、学部学科横断的な視野で個人、地域、社会全体のWell-beingについての認識を深めるとともに、各学科の専門分野におけるWell-beingの重要性を改めて確認していく。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>① 渡部明／3回 本講義のオリエンテーション、Well-being創生について総括的に論じるとともに、講義全体を俯瞰して概説する。また、周南地域におけるWell-beingについて、経済経営、スポーツ、福祉、看護、情報、まちづくりの視点から概説する。最後に全体のまとめと総括。</p> <p>① 中嶋健／1回 「スポーツのWell-being」：スポーツの高潔性を保ち、その価値や意義をより一層良い状態にするためには何が必要なのか？スポーツ健康科学の多様な視点から説明する。</p> <p>③ 清原泰治／1回 「スポーツによるWell-being」：スポーツには、人と人、地域と地域の交流を促進し、地域社会の一体感や活力を醸成する力がある。このようなスポーツの力を高めるためには何が重要なのかについて考える。</p> <p>⑮ 大平光子／1回 対象者のもつ価値や信念に寄り添う、看護学分野におけるその人らしいより豊かな健康生活の考え方について概説する。</p> <p>⑳ 木全晃／1回 地球環境、社会環境の一部である企業、そして経営層や従業員がその役割や存在意義を認識、実践するうえで求められることを、SDGsやCSR等をもとに考える。</p> <p>㉒ 土屋敏夫／2回 ①ポジティブコンピューティングとは：概要およびDX、UX/UI、感性工学との関係について概説する。 ②ポジティブコンピューティングの実践：ミニワークショップによる地域課題へのアプローチ。</p> <p>㉓ 鶴田来美／1回 公衆衛生看護学の視点における、すべての人が健康に暮らせる社会の創生に関する考え方について概説する。</p> <p>㉕ 脇野幸太郎／3回 ①Well-beingの基盤となる「地域」のあり方について、現在国が推進している「地域共生社会の実現」を手がかりに考える。 ②個人々のWell-beingに大きく関わる「住宅」や「居住」のあり方について、現在進められている「居住支援」の観点から考える。 ③同様の犯罪を複数回にわたって繰り返す「累犯高齢者」や「累犯障害者」に対する社会復帰支援の取り組みの検討を通じて、改めて”well-being”の意義について考える。</p> <p>㉗ 赤木真由／1回 住民のWell-beingを目指すまちづくりの事例を学んだうえで、周南地域らしさを活かして実践していきたいことを考える。</p> <p>㉙ 田島正士／1回 経済的な豊かさと幸福（幸福度）の関係を考える。経済成長に対する定常経済、GDPに対する包括的福祉指標など、豊かさと幸福度の考え方やその意味を説明する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	<p>持続可能な社会とダイバーシティ</p> <p>(概要) 本科目は、持続可能な社会作りのために学生各自が現在どのような課題があり、その課題解決に向けて何ができるのかを考えられるようにすることが目的である。持続可能な社会というと、環境問題や経済的な格差問題に目が向きがちであるが、本科目はそれだけではなく、例えば男女共同参画における女性の地位、障がいをもった人々、LGBTQの人々などマイノリティに置かれている、社会参加の側面において「弱い」立場に立たされている人々の人権を福祉の立場から論じてみたり、スポーツの立場から、あるいは言語学の立場からも論じていく。本科目を通して、社会の持続的成長に向けて、学生は自分たちは何ができるのかを考え、行動に移す手段を考えていく力を育むとともに、社会の中では多様な生き方を選択する人々がいることを認めることができる豊かな教養やマインドを養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19 井上浩／5回) 障がいとは何か、なぜ障がいがあるというだけで差別が生じてきたのかについて考える。また、ゲスト講師を迎え、子どもの貧困問題、企業の発展と社会的責任、経済と持続可能な社会作りについて講義を行い、まちづくりと持続可能な社会の観点から最後に全体でワークショップを行う。</p> <p>(14 水崎佑毅／1回) 「すべての人に健康と福祉を」をテーマに、現状と課題を学び、今後何が必要かについて議論をしていく。また、スポーツとテーマの関係についても議論を行う。</p> <p>(25 田中数恵／1回) 言語と性 [ジェンダー] と社会との関係を究明しようとする新しい分野の研究から、現代の英語や日本語に見られる女性と男性の姿を紹介し、言語を意識的に変えることで社会を変えることの可能性について考える。</p> <p>(32 渡邊淳子／2回) セクシュアリティとジェンダー役割、性の多様性について考える。</p> <p>(33 呉贇／1回) 持続可能な社会とダイバーシティの概念、目標、相互関係について説明し、本講義のオリエンテーションを行う。</p> <p>(35 金子幸／1回) 子どもの健やかな成長に影響を及ぼす諸問題について取り上げ、問題解決のための方策について考える。</p> <p>(38 小林啓祐／1回) 男性と女性がおかれた社会的状況について学んだうえで、その問題点について考える。</p> <p>(39 田尾真一／1回) 環境と経済の両立を目指す国際的な取り組みの歴史的な経緯や現状について、主に地球温暖化（気候変動）問題を中心に講義する。</p> <p>(41 赤木真由／1回) 持続可能な社会につながる地域デザインを実現するための多様性の活かし方や創造性の発揮について取り上げる。</p> <p>(44 寺田篤史／1回) ゼミや部活を含むこれまでの大学での取り組みを紹介する。大学として、大学生としてどのようなことができるか考える。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義 28時間 演習 2時間</p>	
		教養スポーツ実習 I	生涯にわたって健康的な生活を主体的に送るために、スポーツ活動を通じた健康づくりの基礎知識、実践力の修得を目指す。また身体的な健康だけでなく、精神的な健康および社会的な健康づくりのために、スポーツ活動を通じた多種多様な交流を行い、言語的・非言語的コミュニケーションスキルの向上を目指す。	<p>共同</p> <p>講義 10時間 実技 20時間</p>
		教養スポーツ実習 II	生涯にわたって健康的な生活を主体的に送るために、様々なスポーツの基礎知識、基礎技術の修得を目指す。スポーツ活動を通じて、多種多様な交流を行い、言語的・非言語的コミュニケーションスキルの向上を目指す。スポーツ活動を通じて、身体的な健康だけでなく、精神的な健康および社会的な健康づくりに貢献できる力を身につけることを目指す。	<p>共同</p> <p>講義 2時間 実技 28時間</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 の人た間め形の成科と目群性伸長 地域の持続的発展と価値創造のための科目群	健康とスポーツ	「健康とは何か？」という問いは、これからの未来社会を生きる私たちにとって今後切っても切れない課題である。IT普及社会における子どもの体力低下抑止、社会保障負担の軽減などが喫緊の課題とされる一方、遺伝子工学の発展やトップスポーツの興隆が目覚しいこの時代の中でこの問いへの答えを見つけるためには、幅広い「教養としての健康・スポーツ」の知識が必須となる。本講義では、運動・栄養・休養の3つの観点から健康・スポーツに関する教養の幅と深さを広げ、主体的に課題解決に取り組むための基盤を築くことを目標とする。	
	自然災害と防災	自然災害に関する様々なリスクに対して、自治体、学校・企業は防災や減災の対策を講じる必要がある。本授業では、自然災害の種類や災害リスクの種類及び災害の影響を減じるための対策及び被災者の心理について理解する。講義を通じて組織における防災、減災のためのリスクマネジメントの基礎的知識やリスクコミュニケーションの手法を身につける。	
	地域ゼミ	課題解決型学習（PBL; Project/Problem Based Learning）の入門編として、地域が抱える課題の発見・解決に取組み、課題対応能力の伸長を目指す。各ゼミはそれぞれのテーマに応じて、また連携相手となる地域のニーズに応じて、取り組むべき課題を見出し、まちづくり、ボランティア、イベント企画・開催、商品づくり、コンテンツ制作、情報発信など課題解決活動を行う。ゼミの実施にあたっては、多様なゼミ活動に共通する課題解決プロセス（現状認識、問題発見、課題解決、結論・総括）を意識し、課題解決の方法論の習得を目指す。また、他者との協働を通じてEQ力の伸長も図る。	共同 講義 2時間 演習 28時間
	社会調査法入門	本授業では、これから社会調査を本格的に学ぶ学生を対象に、社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得することを目的とする。さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、調査倫理などについて、調査の実例や実践を踏まえて学ぶ。複数の手法を取り上げ、基礎知識、方法論、分析と解釈の考え方について学ぶことで、「量的・質的に調査する」ことの意味を考える。また、小規模な調査を自ら実践することによって実際に調査を行なう際の基本的な行程を理解する。単にテクニックを身につけるのではなく、授業を通じて履修生が向き合う「社会や日常を見るまなざし」の面白さと難しさを体験的に理解することを目指す。	
	周南地域文化講座	本学は、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての活動する「地（知）の拠点」（COC）構想を展開している。本授業では、この趣旨を理解し、その一員として学生が活動できるようになるために、自治体と連携し、学生が主体的に教育・研究・地域貢献を進めるための基礎的な知識を身につけることを目的とする。とりわけ、周南地域について深い見識を有する、歴史博物館の関係者や学校関係者などを講師に招き、「周南地域の地理的特色と防災」「周防の国を治めた武将たち」「明治維新と周南地域」「周南をはじめとする周防の国にゆかりの文化人たち」といったテーマについて理解を深める。	
	周南地域と産業	本学は、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての活動する「地（知）の拠点」（COC）構想を展開している。本授業では、この趣旨を理解し、その一員として学生が活動できるようになるために、本学が存在する「周南」という地域について注目し、深く広く学ぶ。具体的には、周南の地域の産業について深い見識を有する本学教職員や外部講師を講師に招き、周南地域の産業の歴史、主要産業の内容、都市計画、地域とコミュニティー等について学び、地域の抱える問題や課題を取り上げその解決策と将来の発展の構図についても取り上げる。この科目の受講により、ゼミ等での地域課題解決活動に向けた基礎的知識を身につけるとともに、周南地域での就職や産業のあり方について見識を深めたいと考える学生に必要な情報と知識を身につける。	
	ワークショップデザインⅠ	本講義では、ワークショップデザインの基礎を学び、チームビルディングのアクティビティを計画、実践する。具体的には新1年生を対象にした「EQスタートアップ」にて、自己理解と他者理解を深めるためにチームで実施するアクティビティをデザインする。トライアルを経て、アクティビティをブラッシュアップし、チームで自律的にワークショップをデザインできるようになることを目指す。	共同
	ワークショップデザインⅡ	本講義では、ワークショップのデザインとファシリテーション、プロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。体系的にワークショップデザインの手法を学んだうえで、学生同士で企画したワークショップのトライアルを繰り返し実施する。トライアルを経て、ワークショップをブラッシュアップし、チームで自律的にワークショップをデザインできるようになることを目指す。その後、自治体、地域の企業や団体が参加する「周南リビングラボ」におけるワークショップを教員と共にデザインする。	共同



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目 の地域価値の創造的発展	ワークショップデザインⅢ	本講義では、ワークショップのデザインとファシリテーション、プロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。ワークショップデザインⅡでデザインした「周南リビングラボ」の開催に向けて準備し、当日のマネジメントまで実行する。リビングラボで生まれたコミュニティの持続的活動に伴走し、実際に地域の方々とアイデアの実現に向けて取り組む。デザインしたワークショップを参加者などの状況により柔軟に組み換えながら、チームで実践的なワークショップがデザイン、実践できるようになることを目指す。	共同	
	リベラルアーツ科目群	哲学	日常において常識的に前提とされていることを問い直し、その意味をあらためて説き明かそうとするのが哲学である。本講義では論理的思考力を培い、多様かつ柔軟な視点を持ち、ひいては諸問題にも対処できる力をつけることを目指し、6つのテーマで講義を行う。すなわち「人間らしさとは何か」、「私」の身体、「生と死の接点」、「心の問題」、「言語と論理」、「責任と自由」である。	
	日本史Ⅰ	本科目は古代から近世期にかけての日本の歴史を学ぶものである。同期間は「日本文化のあけぼの」から「幕藩体制の確立」までを学ぶものであり、いわば日本が国家としてどう成り立っていくかを学ぶものであると言える。天皇制や武家社会といったキーワードも扱う時代によって大きく意味も変わってくる。本科目では、歴史事象を対象としながら、その意味を「考える」ということを重視する。本科目を通して、歴史の因果関係を精査し、理解することで、現代社会における問題解決力の育成を目指す。		
	日本史Ⅱ	本科目は近世期から現代にかけての日本の歴史を学ぶものである。同期間は「幕藩体制の確立」から「高度経済成長期」の日本について学ぶものである。この期間はおよそ400年間であるが、政治体制だけでなく、経済構造も大きく変化する時代である。むろん、明治以降の外国との度重なる戦争も大きな意味を持つ。こうした事例を対象としながら、今を生きる我々が何を学ぶことができるのか考えていきたい。本科目では、歴史事象を対象としながら、その意味を「考える」ということを重視する。本科目を通して、歴史の因果関係を精査し、理解することで、現代社会における問題解決力の育成を目指す。		
	外国史Ⅰ	世界の歴史の流れを我が国の歴史と関係深いものを中心に引き上げ講義していく。また、世界史の転換点と言われる事象に焦点を当て、それぞれの事象について、為政者の立場、民衆の立場から講義を進める。本科目では、外国史の中でも、ヨーロッパ、中東、アジアに注目し、先史時代からルネサンスと宗教改革の時期までの年代を取り扱う。本科目を通して、世界史における政治、社会経済、思想・文化発展のダイナミズムの中で現代社会をもトータルで把握できる能力を身につける事を目的とする。		
	外国史Ⅱ	世界の歴史の流れを我が国の歴史と関係深いものを中心に引き上げ講義していく。また、世界史の転換点と言われる事象に焦点を当て、それぞれの事象について、為政者の立場、民衆の立場から講義を進める。本科目では、外国史の中でも、ヨーロッパ、北米、アジアの歴史に注目し、近代国家の形成から植民地・帝国主義、2つの世界大戦と戦後世界の形成に至る現代までの歴史を取り扱う。本科目を通して、世界史における政治、社会経済、思想・文化発展のダイナミズムの中で現代社会をもトータルで把握できる能力を身につける事を目的とする。		
	日本国憲法	この講義では、憲法にかかわる身近な問題を提示しながら、憲法の意味や歴史、さらには人権や統治機構の諸問題について学習し、「日本国憲法」の基礎知識を身につけることをねらいとしている。具体的には、幸福追求・プライバシーをめぐる問題、法の下での平等をめぐる問題、思想・良心の自由をめぐる問題、表現の自由をめぐる問題、信教の自由・政教分離をめぐる問題、経済的自由をめぐる問題、生存権をめぐる問題、民主主義を実現するための制度（選挙権と選挙制度）をめぐる問題、憲法をめぐる新しい問題などについて取り扱う。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 リベラルアーツ科目群	心理学Ⅰ	私たちの心にまつわる謎は、病や性格に関するものだけではない。たとえば、せっかく勉強して覚えたことを忘れてしまうのはなぜだろうか。気をつけているはずでも、交通事故や医療ミスはなかなか防ぐことができない。世の中には道を覚えるのが得意な人がいる一方で、方向音痴の人たちもいるのはなぜなのか。何かを見聞きしたり、考えたり、といった何気ない行動の裏側ではいつも、私たちの心にあるプログラムが働いており、こうした謎の答えもそこにあると考えられる。本講義では「行動科学としての心理学」という視点に立ち、私たちの様々な行動について、心理学的に理解するための方法や基礎知識について解説する。また、日常場面と関わりの深い応用的な研究事例についても紹介する。	
	心理学Ⅱ	何かを考えたり、決めたり、発言したり。私たちがふだん何気なくとっているこれらの行動は、いつも同じあり方をするのだろうか。たとえば、少人数クラスと受講生であふれる大教室とでは、発言や挙手のしやすさは同じだろうか。ストレスを感じている時も、元気な時と同様に振る舞えるだろうか。歴史も文化も異なる国においても、人は同じように感じ考えるのだろうか。本講義では、私たちの行動を生み出す「心のプログラム」が、他者の存在や特別な環境・状況の中でどう変化するかに焦点を当てながら解説する。また、これらの知識を応用した、技術・技法についても紹介する。	
	社会学	社会とは人と人の関わり合いの連なりである。私たちの生活は、社会によって成り立ち、支えられている。その反面、社会は差別や排除などによって一部の人々の生活や生存を脅かすこともある。私たちは、今よりも少しでも良い社会につくり変えていくために社会のあり方について問い続けなければならない。問い続けるためにはまず社会にどのようなしくみが存在するのかを理解する必要がある。本授業では、社会学に関する入門的知識を学ぶ。社会学が何を探求しているのか、また社会学の基本的な理論と概念について学び、それらを基に、現実の社会問題にアプローチする力が身につくことを目指す。本授業を通して、社会学の理論と概念を理解し説明できるようになること、ならびに、今日の社会について社会学的視点から批判的に考えることができるようになることを目指す。	
	数学	この科目では、経済学や情報学など大学における専門科目の基礎としての数学を学ぶ。高校までに学んだ関数と方程式、微分法、確率の内容を踏まえたうえで、偏微分や線形変換などといった、大学レベルの解析学、線形代数、確率論の入門を学ぶ。また、これらの内容が、経済学や情報学の学びにおいて、どのように応用されるかということ、実例を用いて紹介する。	
	中国語Ⅰ	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、中国語習得の基礎を築く。文字と音の対応規則を学び、ピンインで平易な文を正しく読んだり書いたりできるようになる。日常会話でよく使われる表現や単語を学び、あいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができるようになる。また、中国語圏の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、中国語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、話す・聞く・読む・書くの四技能を高める。また、中国語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	韓国語Ⅰ	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、韓国語習得の基礎を築く。文字と音の対応規則を学び、平易な文を正しく音読できるようになる。日常会話でよく使われる表現や単語を学び、あいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができるようになる。また、韓国の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、韓国語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、辞書を使いながら短いエッセイや手紙文などを読んだり書いたりできるようになる。また、韓国の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	ドイツ語Ⅰ	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、ドイツ語習得の基礎を築く。日常会話でよく使われるあいさつ表現や文字と音の対応規則を学び、平易な文を聞き取ったり書いたりできる。また、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、ドイツ語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、辞書を使いながら平易な文を読んだり書いたり話したりできる。また、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	リテラシー科目群		
	教養ゼミ	この授業は、本学が推進するEQ教育をベースとして、大学での学びに必要な基本的な技術・作法（アカデミックスキル）の修得・向上を目指す。大学での学びをスタートさせるにあたって自己開示やコミュニケーションの意義・方法を学ぶとともに、自身の考えを表現するレポートの作成法やグループ活動を通じてのプレゼンテーションの技術を学ぶ。こうした力は2年次以降のPBL（課題発見・解決型の学習）による学びの基礎となるのみならず、EQ力を涵養することを目指す本学での4年間の学生生活の基盤となる。	共同
	アカデミックライティング	この授業では大学で書く文章（アカデミック・ライティング）の基礎、とりわけ意見を述べるレポートに求められる最低限の体裁の整った文章を作成するスキルの習得を目指す。受講者に対して前期期間に他の授業で課されたレポートの課題を振り返り、レポート作成に共通に求められる注意点を確認する。意見を述べるレポートとしては、そうした文章の核心となる「結論」⇒「理由」⇒「説明」⇒「結論」の型でのレポート作成を行う。その他必要に応じて、インターンシップにおける受入れ企業や大学教員とのやり取りを行う際に用いる文章についても扱う。	
	情報リテラシー	現代の情報化社会では ICT活用能力は必須である。情報ネットワークに接続しそこにある有用な情報を余すことなく活用して生きていく、基本的な技術と習慣を身につけておく必要がある。情報教育システム活用への導入編となる講義科目が「情報リテラシー」である。	
	データサイエンス入門	今後の情報を基盤とした社会においては、データサイエンスの基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となってくる。そのためデータサイエンスを基盤的リテラシーと捉え、全員が身につけていくことが重要である。この科目はデータサイエンスの入門科目として位置づけられる科目である。データサイエンスが、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかを理解し、社会の実データ・実課題を適切に読み解き、判断できることを念頭に置きながら、そのための基礎的な分析手法を、表計算ソフトを用いながら学んでいく。この講義により、受講者は、データサイエンスの基礎を修得することができ、社会で活用されるデータサイエンスの基礎知識、データサイエンスの基礎的な分析手法を身につけることができる。	共同 講義 17時間 演習 13時間
	総合英語初級 I	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力の基礎を固める。リスニングでは、連結、同化、脱落などの音声変化を理解して、自然なスピードで話されるあいさつや簡単な問いかけを聞き取る訓練をし、身近な話題についての易しい会話を聞いて話の主旨がある程度理解できるようになる。また、日常のコミュニケーションでよく使用される依頼や提案など基礎的な会話表現を学ぶ。リーディングでは、英語の語順（文型）と語の働き（品詞）を学んで、簡単な語彙、よく使用される句で書かれた短い英文を読んで理解したり書いたりできるようになる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初級 II	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力の基礎を固める。リスニングでは、写真・イラストを見ながらそれについての平易な文構造の短い記述を聞いたり話したりする練習を通して、日常生活の中でよく見られる人々の行動等について簡単な語彙で表現できるようになる。また、やや長い聴解文を聞く練習を通して、情報の繰り返しや言い換えがあれば話の詳細が一部理解できるようになる。リーディングでは、文構造が単純な英文を後戻りなしで意味のまとめごとにより読む練習を繰り返し、短い簡単なEメールなどをより速く、全体の意味をより正確に理解しながら読めるようになる。学期の終わりにTOEIC L&R IPテストを受験して、学習の進捗をはかる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初中級 I	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を向上させる。事実に基づく情報を同じ単語や句を使わずに表現する訓練をして、長い英文の聴解や読解で言い換えられた情報に気づき、話の主旨や基本的な文脈をより理解できるようになる。文中に難しい語彙が使用されている場合でも、推測をしながらその意味を理解できるようになる。	講義 10時間 演習 20時間
総合英語初中級 II	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を向上させる。短い会話で、間接話法や否定構文など難しい構文や語彙が使用されている場合でも、ある程度理解できるように訓練する。やや長めの英文読解で、一つの情報を他の情報と関連付けながら読むことができるようになる。学期の終わりにTOEIC L&R IPテストを受験して、学習の進捗をはかる。	講義 10時間 演習 20時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 リテラシー 科目群	総合英語中上級Ⅰ	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を実践的にさらに高める。短い会話で、応答が婉曲的であったり予想外の内容であったりする場合でも、話の主旨がある程度理解できるようになる。手紙文・Eメール・広告文・記事など様々なジャンルの英文を読んで、それらの内容構成を理解したうえで読むことができるようになる。規則に基づいた文法構造を理解して、文中に難しい語彙が使われていても文法的な構造が理解できるようになる。学期の終わりに、希望者にはTOEIC L&R IPテストの受験を推奨する。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語中上級Ⅱ	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を実践的にさらに高める。短い会話や長い文の聴解において、語彙・構文が難しくない場合は、話の主旨や基本的な文脈を推測しながら聞くことができるようになる。複数の関連ある文書の読解練習で、二つ以上の文にわたって述べられている情報を関連付けて読むことができるようになる。接続詞や文と文をつなぐ表現の意味を理解して、話の展開を予測しながら読むことができるようになる。学期の終わりに、希望者にはTOEIC L&R IPテストの受験を推奨する。	講義 10時間 演習 20時間
	英会話初級Ⅰ	ネイティブスピーカーが話す英語の音声への抵抗感をなくし言葉のリズムに慣れるとともに、日常生活に根ざした場面でよく使われる単語や表現を学び、身近な話題について臆さずに英語で発話できるようになることを目指す。	講義 10時間 演習 20時間
	英会話初級Ⅱ	英会話初級Ⅰに引き続き、ネイティブスピーカーと共に英語を用いて自分の考えを表現し、意思疎通が図れるよう訓練する。相手の質問に答えるだけでなく、自ら不明点や疑問点などを問いかけることを意識しながら英語を聞き話す経験を積み、自信をつけることを目的とする。	講義 10時間 演習 20時間
	留学英語	留学中に求められる英語でメモを取る技術、学術的な英語の記事を効率的に読む技術、講義や記事の内容を自分の英語で伝える能力、自分の考えを英語で論理的に述べる英語力を身につける。また、留学先での生活や授業に早く適応するための情報収集と心構えもする。学期の終わりに、希望者には留学英語試験TOEFLまたはIELTSの受験を推奨する。	共同 講義 10時間 演習 20時間
	グローバル英語	環境、貧困、人権などの地球規模の問題を扱う英文テキストを使って、読解力を訓練する。さらに関連したトピックについて英語でクラス討論や作文をしながら、これらの問題について興味を持ち視野を広げることも目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	キャリア形成活動Ⅰ	この授業では、周南地域にある企業での就業体験を含む3～5日程度のキャリア形成活動を行う。学生は、就業体験に向けた目標設定やマナー研修等の所定の事前学習を行う。その後、企業や公官庁等で実習・研修的な就業体験に参加する。就業体験ののち、目標の達成度の振り返り、体験の共有等の事後学習を行う。1年次にこのようなキャリア形成活動に参加することで、在学中の早い段階から自分の適性を確認する機会になるだけでなく、周南地域での就業の可能性に接し、キャリア形成意識を高めることを目指す。社会が求める能力を具体的に把握することができ、卒業までの成長の目標が明確にすることができる。また、アルバイトとは異なり、企業の組織・ビジョン・マネジメント等の企業研究の場にもなる。	共同
	キャリア形成活動Ⅱ	この授業で学生は就業体験を含む計2週間以上のキャリア形成活動を行う。学生は所定の事前学習の後に、インターンシップやその他のキャリア形成活動に参加する。その後、活動の振り返りを含む事後学習を行う。学生が参加するキャリア形成活動は、2週間以上または5日間以上のインターンシップ、2週間以上または5日間以上のキャリア形成活動、3～5日間程度のキャリア形成活動などである。どのような仕方でも合計2週間以上のキャリア形成活動を行うかは受講学生が選択する。いずれの場合でも、計2週間以上という比較的長期間のキャリア形成活動への参加により、就職活動に向けた適性の確認や業界研究に資することになる。こうした体験を通じて社会が求める能力を具体的に把握することは、就職活動に向けたキャリア形成に役立つ。一連の体験・学習を通じて、学生は職業観と人生観を涵養する。また、アルバイトとは異なり、企業の組織・ビジョン・マネジメント等の企業研究の場にもなるとともに、本学が推進するEQ教育とりわけソーシャリティの実践の場ともなる。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	基盤 科目  人間と健康	<p>(概要) 人の健康の概念は社会環境に即して変化する。本授業では胎児期から生の終焉まで、発達し続ける生活者である人間の健康とは何かについて、スポーツ健康科学、看護学、福祉学の視点から捉え、どのような健康状態であっても自身の持てる力を発揮して、その人らしいより豊かな健康生活 (Well-being) を支援する方略について考察する。本授業を通して、人間の健康及びその人らしいより豊かな健康生活を支援および探究していく基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 中嶋健・15 大平光子・16 難波利光/2回) (共同) 看護学とスポーツ健康科学、社会福祉学の学問分野が協働融合して人間の健康を追究する理由を概説し、人間と健康に関して総括する。</p> <p>(1 中嶋健/1回) スポーツによって地域社会の健康を向上させるために必要なスポーツの社会科学的基础理論について概説する。</p> <p>(2 江崎和希/1回) 予防医学の観点から、多様な年齢・健康状態にある人々の健康増進、生活の質向上と運動について概説する。</p> <p>(10 瀬尾賢一郎/1回) あらゆる年齢、発育発達段階にある子ども達の健康の維持・増進に必要なスポーツ教育学の基礎理論について概説する。</p> <p>(11 小野高志/1回) スポーツや運動による外傷・傷害の予防・回復に必要な医学的基礎知識及びスポーツ医学について説明する。</p> <p>(15 大平光子/5回) 人間、健康、環境、看護の概念について概説し、人間の健康に関する看護学分野の捉え方 (ウエルネス理論、エンパワメント、セルフケアなど) について考え、環境 (自然・物理化学的・社会・文化・価値) が健康に及ぼす影響について概説する。さらにあらゆる健康状態にある人々のwell-beingについて概説する。</p> <p>(16 難波利光/1回) 地域の中で健康について考えるシステムについて、民間組織、行政機関、地域自治組織などの事例を挙げて述べる。</p> <p>(21 梅田勝利/1回) 社会福祉法人活動と健康について、企業が取り組んでいる健康管理のあり方について法制度と現状について述べる。</p> <p>(35 金子幸/1回) 乳幼児期にふさわしい生活を通して心身ともに健康に育つための必要なかわりについて概説する。</p> <p>(36 北村光子/1回) シニアの健康について、高齢者がもつ健康意識の現状を踏まえ、介護施設などの健康プログラムについて述べる。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	基盤科目	解剖学	<p>(概要) ヒトの健康や運動・スポーツを理解する上で必要とされる身体の構造や機能を理解するとともに、運動やスポーツに関連する傷害や疾病の基礎知識を得ることを目標とする。人体の基本構造(骨格、関節、筋肉、神経)、人体を構成する臓器(呼吸器、循環器、消化器、感覚器、泌尿器、生殖器、内分泌器官)の位置・形態を一連の機能系統別に学修し、健康状態を系統的に把握するために必要な解剖学的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(4 小笠博義・6 尾形聡/2回) (共同) 解剖学とは何か理解した上で、人々が紀元前から人体を客観的に観察しようとした人体解剖の歴史を説明する。最終回は、講義全体のまとめとし、解剖学全体について理解を深める。</p> <p>(4 小笠博義/6回) 人体の基本構造である、全身の骨格、骨の構造、関節の仕組み、金人の構造、筋の種類、神経の仕組み、神経伝達の仕組み、脳神経・脊髄神経の仕組みなど「系統解剖学」について説明する。</p> <p>(6 尾形聡/7回) 循環器系の概要として全身の血管、血液の成分と働き、免疫のしくみなどを説明する。また、内分泌系・呼吸器系・消化器系・感覚器系・泌尿器系・生殖器系の仕組みなど、位置関係を学ぶ「局所解剖学」について解説する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		生理学	<p>生理学とは、人体を構成する細胞・組織・臓器がどのような機能を持ち働いているかを解き明かし理解する学問である。本授業では健康・スポーツ・生命科学の分野を中心に解説しながら、摂取した栄養素が生体内でどのように利用されているかも学修する。おもに講義形式で授業を進めていくが、ICTを利用しリアルタイムに進達度を確認しながら教員と学生の考え方を共有し相互理解を深めていく。</p>	
		内科学	<p>内科学とは身体の臓器を原因とする疾患に対し、栄養・運動・薬物療法など外科手術によらない方法で診療とその研究を行う医学の一分野である。この授業では健康の維持、病気・ケガからの回復、再発予防を目的として、代表的な各種疾患の原因・病態とその予防・治療法について学修する。おもに講義形式で授業を進めていくが、ICTを利用しリアルタイムに進達度を確認しながら教員と学生の考え方を共有し相互理解を深めていく。</p>	
		栄養学	<p>生体は摂取した食物(栄養素)を、生存のためのエネルギーへ変換し、その生体構成成分を合成する事によって、生命を維持している。本講義では、生命を保持し、あらゆる活動のために必要とされている栄養素が、1. どのように摂取・消化・吸収・代謝され、どのように機能するか。2. 食事・栄養療法を実践するためにどういった手法を使うか。3. 各ライフステージや各種疾患でどのような食品を利用し、いかに食事を行うか。について学修する。おもに講義形式で授業を進めていくが、ICTを利用しリアルタイムに進達度を確認しながら教員と学生の考え方を共有し相互理解を深めていく。</p>	
		公衆衛生学	<p>公衆衛生学について概説したうえで、人口統計及び保健衛生統計、健康教育、保健福祉サービス及び保健福祉事業、保健医療計画などの公衆衛生活動について学修する。また、健康を維持するうえでの生活の役割や慢性疾患など健康の概念について理解するとともに、疾病予防と健康管理や感染症と感染症の予防対策、環境衛生と生活環境について学修する。さらに、学校保健と産業保健、地域保健と国際保健、衛生行政と保健医療の役割や制度について学修する。</p>	
		機能解剖学 I (総論、体幹)	<p>運動・スポーツのメカニズムを理解する上で必要な筋骨格系および神経系の構造および機能に関する基礎知識を習得することを目標とする。解剖学で学んだ運動器としての筋骨格系、神経系の基礎知識を基に、人体の動きを理解する上で必要となる骨、関節、筋、神経などのより詳細な構造を理解するとともに、運動学的側面から人体の機能について理解を深める。また、スポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導と関連付けて学ぶことにより、アスレティックトレーニングやストレングス&amp;コンディショニングについての基礎知識を身につける。なお、本科目では主に運動器の機能解剖に関する総論と体幹の構造と機能について学ぶ。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	機能解剖学Ⅱ（下肢、上肢）	機能解剖学Ⅰで学んだ内容を踏まえ、さらに股関節、足関節、肩甲帯、肩関節、肘関節、手関節・手の運動・スポーツのメカニズムを理解する上で必要な筋骨格系および神経系の構造および機能に関する基礎知識を習得することを目標とする。解剖学で学んだ運動器としての筋骨格系、神経系の基礎知識を基に、人体の動きを理解する上で必要となる骨、関節、筋、神経などのより詳細な構造を理解するとともに、運動学的側面から人体の機能について理解を深める。また、スポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導と関連付けて学ぶことにより、アスレティックトレーニングやストレングス&コンディショニングについての基礎知識を身につける。	共同
	救急処置法	本講義のテーマは、日常生活・スポーツ活動での急病・外傷の知識と、それに対する救急処置・対応の習得である。講義内容として、外科的（頭部・顔面・脊椎・脊髄・胸部・腹部・骨盤・四肢の外傷）および内科的障害（心停止、アナフィラキシー、感染症、喘息、過換気症候群、肺塞栓、一酸化炭素中毒、熱傷、低体温・凍傷、災害対応など）を概説し、各種の手法・処置法（心肺蘇生法、AED、気道異物除去、止血法、RICE 処置など）について解説する。本講義により、救急処置法の基本を理解し、実践のための行動力・実行力を身につけることを目指す。	講義 26時間 演習 4時間
基礎科目	スポーツ医学	（概要）運動・スポーツの指導者あるいは実践者として、場合によっては健康づくりの仕事に従事する者に必要となる、スポーツ医学の基本的な知識を修得することを目標とする。ドーピングをテーマとしてスポーツにおける医療倫理や課題について学修する。代表的なスポーツ外傷・障害およびスポーツ活動と関連する代表的な循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患、精神疾患等に関する疫学、病態、発生病機、予防、一般的治療プロセスについて学ぶ。また、特殊環境下での対応やコンディショニングの手法、アスリートの健康管理や指導上の安全対策について学ぶ。  （オムニバス方式／15回）  （4 小笠博義・6 尾形聡／3回）（共同） スポーツ医学の概要について説明し、全体的な内容を説明する。また、予防のためのリコンディショニングについても解説する。  （4 小笠博義／7回） 整形外科領域における代表的な眼科、耳鼻科、皮膚科に関連するスポーツ外傷・障害などについて説明する。また、年齢別のスポーツ外傷・障害、女性のスポーツ外傷・障害の特徴についても解説する。  （6 尾形聡／4回） 内科的領域における代表的な心臓突然死、労作中熱中症など循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患、血液疾患、精神疾患等などについて説明する。  （83 山野渉／1回） 歯科領域における代表的なスポーツ外傷・疾患について説明する。	オムニバス方式・共同（一部）
	健康医学	本講義では、健康と健康づくりの概念と歴史、それを推進する保健医療の制度について学修するとともに、生活習慣病とは何か、その予防における身体活動・運動の重要性、特定健診・保健指導の制度について学習する。特にメタボリックシンドローム、肥満症、高血圧、脂質異常、耐糖能異常、虚血性心疾患、ロコモティブシンドロームなど生活習慣病に関する内容について詳しく学習する。また、特定保健指導における健康運動指導士の役割や知識についても学習する。本講義の受講により健康・保健の観点に立脚した運動の指導者となるに相応しい知識や科学的思考を習得する。	
	体力トレーニング論	本講義では、トレーニングの原理・原則を理解し、目的と対象に応じたトレーニング方法を説明できることを目標とする。トレーニング目的に応じて、トレーニングの強度や量、頻度、休息時間などのトレーニング変数を適切に組み合わせ、対象に応じて、レジスタンスエクササイズのアイスोटニックトレーニング、アイソメトリックトレーニング、サーキットトレーニングなどの体力トレーニングを適切に処方できるようになることを目指す。そのため、スポーツバイオメカニクスの視点から対象者の特性に応じたトレーニングの在り方や効果、メカニズムを解説する。	
	スポーツバイオメカニクス	本講義では、生理学、解剖学などの基礎知識を応用し、実際の身体運動の仕組みを力学的に理解することを目標とする。そのため、基礎領域として、筋系やエネルギー供給系、神経系、骨格系などについて解説した後、実践・応用領域では、走る、跳ぶ、投げるなどの基本的なスポーツ動作の成り立ちについて力学的観点から解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	運動生理学	運動生理学は、スポーツや身体活動によって身体にどのような応答および適応が生じるのか、その現象と仕組みを研究する学問である。本講義では、筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の代謝調節、ホルモン分泌や神経系・呼吸・循環調節など、様々な観点から運動時の生理的な調節機序を学修する。これにより、運動やトレーニングによる骨格筋や呼吸循環器の適応効果などについて理解を深めることができる。	
	発育発達論	本授業では、乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と加齢変化を理解し、健康な生活を営むためにライフステージに応じたよりよい発育発達のための課題を発見し、課題を解決する能力を身に付けることを目的とする。特に、身体活動（運動）がヒトの発育発達、加齢変化におよぼす影響について理解を深める。講義形式で授業を進めていくが、授業内容に応じて演習（グループワークとプレゼンテーション）を行い、よりよい発育発達のための生活の在り方について知識を確実に身に付けることができるようになる。	講義 26時間 演習 4時間
	スポーツ心理学	運動・スポーツに関わる行動や諸問題、また実践の中で感じる疑問について着目し、それらの現象をスポーツ心理学の知見から深く理解することを目指す。さらに、学修した知識や知見を、競技者・指導者という視点に立って実践現場で活かすことを目指す。学習内容の展開についてはスポーツ心理学の小史と学問領域について学び、その後、学問領域ごとに講義を展開する。主として「スポーツと動機づけ」「スポーツの社会心理」「健康スポーツ心理」「競技スポーツの心理」「スポーツの運動学習」について講義する。	
	スポーツ運動学	運動学は指導者が運動動作を把握し、効果的な指導を行う際の拠り所となる理論を提供することを目的とする。本授業を通して、運動の技術とは何か、運動の良否をどう判断するか、運動を学修するときどのような過程をたどるのか、成長に伴ってどのように運動技能が発達していくのかといった、運動学の基本的な問題について自分の意見を述べるができるようになることを目指す。	
	体力測定と評価	体力は、ヒトの活動の源であり、健康の保持・増進のほか意欲や気力の充実に大きくかかわっており、発達・成長を支える基本的な要素である。本授業では、スポーツと健康の観点から体力を測定し評価する意義を学んだ上で、発達および加齢変化に応じた適切な体力の測定法と評価法を修得し、対象者の特性に適した活用方法を身に付けることを目的とする。主に講義形式で授業を進めていくが、実施可能なものは実際に形態測定や体力測定の実習を行い、得られた測定結果を適切に評価することで、実践への応用・活用する力を確実に身に付けることができるようにする。	講義 19時間 実習 11時間
	学校保健	（概要）学校保健は、児童生徒等および教職員の健康の保持増進を図るとともに、集団教育としての学校教育活動に必用な応急手当を含む保健安全的配慮を行い、児童生徒等が自ら健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することを目指している。本授業では、学校保健の基礎理論と実際に行われている学校保健活動を学修し、多様化、深刻化する児童生徒の健康課題とその対応に必要な知識と実践力を身に付けることを目的とする。講義形式で授業を進めていくが、授業内容に応じて演習（グループワークとプレゼンテーション）を行い、実践力を確実に身に付けることができるようにする。  （オムニバス方式／15回）  （③ 川崎 裕美／13回） 学校保健の基礎理論と実際について概説し、児童生徒の健康課題とその対応について説明する。  （80 村瀬訓生／2回） 応急手当の意義を概説し、胸骨圧迫やAEDの使用方法についても説明する。	オムニバス方式  講義 24時間 演習 6時間
スポーツ栄養学	身体は食物が原料となり、適切な食事が健康な身体を作る。アスリートは高強度の身体活動量が多く、摂取エネルギーや様々な栄養素の不足が生じないよう留意する必要がある。また、競技特性により求められる身体づくりも異なる。さらに同じ競技のアスリートであっても個人によって求める身体づくりは異なる。この授業では栄養についての基礎知識や、様々な目的や状況における応用方法を学ぶことができる。自分の食事についてのレポート作成を課し、自分の食生活を見直す演習的要素も含む。		



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	基礎科目 スポーツ文化論Ⅰ（体育・スポーツ史、体育・スポーツ哲学）	<p>（概要）現代社会におけるスポーツは単に競技種目として存在するだけでなく、教育、政治、経済をはじめ科学技術、医療、地域コミュニティ、娯楽・レクリエーション、ファッション、文学、芸術など人々のあらゆる生活文化に多様に関わっている。本講義では、現代スポーツ文化の特徴と課題を理解するために、体育及びスポーツの概念とその原理と意味、価値を様々な歴史的背景を踏まえ考察し、理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 中嶋健・3 清原泰治／3回）（共同） オリエンテーションを行う。担当教員それぞれのレクチャーをリフレクションすると同時に学生グループ毎に議論を行う。</p> <p>（1 中嶋健／2回） 現代スポーツ文化の特徴と課題を理解するために、体育及びスポーツ概念とその意味と価値、近代スポーツの成立過程及びイギリスにおける身体運動の歴史を歴史学理論と社会学理論によって整理・検討する。また、成立した近代スポーツが、クーベルタンによるオリビズム運動によっていかに国際化していったのかについて解説する。</p> <p>（3 清原泰治／10回） 近代国民教育としての『体育』の成立過程をドイツ汎愛学校におけるグーツムツの身体教育、ヤーンによる国民体育運動としてのツルネンの内容を検討することによって明らかにする。また、近代中央集権国家における軍事と身体教育の関係を明確にし、戦争と体育・スポーツの負の遺産について認識を深める。さらに、近現代日本における地域及びコミュニティ形成に身体文化及びスポーツがいかなる役割を果たしたのかについて理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	スポーツ文化論Ⅱ（スポーツ社会学・スポーツ史）	<p>（概要）現代社会におけるスポーツは単に競技種目として存在するだけでなく、教育、政治、経済をはじめ科学技術、医療、地域コミュニティ、娯楽・レクリエーション、ファッション、文学、芸術など人々のあらゆる生活文化に多様に関わっている。本講義では、「スポーツ文化論Ⅰ」の内容を踏まえ、現代スポーツ文化の特徴と課題について理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 中嶋健・3 清原泰治／2回）（共同） オリエンテーションを行う。担当教員それぞれのレクチャーをリフレクションすると同時に学生グループ毎に議論を行う。</p> <p>（1 中嶋健／8回） 現代社会におけるスポーツの構造と機能をスポーツと経済、スポーツ産業及びスポーツのビジネス化の発展と変容並びにその背景にあるスポーツ政策及びスポーツ制度の現状を整理検討する。また、スポーツマンシップ、スポーツインテグリティや障がい者スポーツの重要性について解説する。</p> <p>（3 清原泰治／5回） 現代社会におけるスポーツのトピックを主にスポーツ社会学の視点から説明する。取り上げるトピックは、国民のレジャー・レクリエーション活動、eスポーツ、キャンプブーム、スポーツツーリズムやヘルスツーリズムと地域活性化、スポーツコミッションの働きとまちづくりである。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	応用科目	身体活動と健康に関する科目群	女性アスリートスポーツ論	女性の月経周期と心身のコンディションとのかかわりについて理解を深めながら、運動やスポーツ活動における性差を中心とし、骨格筋の肥大や身体組成の変化・適応、加齢にともなう女性の身体変化等について概説する。授業の後半では、女性が運動やスポーツを実施する際の弊害、問題点について学生が調査し、発表する。	
			障がいに対する理解	障害者基本法に定められた三障がい（身体障がい、知的障がい、精神障がい）について学習する。特に近年の障がい層の変化や障がい者の高齢化、障がいの重度化など、障がい、障がい者の状況について理解を深める。また、それぞれの障がいの特性や判定（診断）基準、または生活面やスポーツ実施時の留意点など、障がいに関して専門的（医学的）な知識を学ぶ。さらに補装具の種類や特徴を理解し、用具の点検や持ち運び時の留意点について学ぶ。この講義によって、各障がいについて理解を深めることを目指す。	
			運動処方	（概要）運動指導者は、年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが出来る知識と運動指導力を有する必要がある。本講義では、健康運動指導に関わる運動処方について、健康に関する施策、メディカルチェックの手法、運動負荷試験の手法など運動プログラムの作成に必要な知識と指導法について解説する。授業を通して、運動処方に関する専門的な知識を身につける。  （オムニバス方式／15回）  （2 江崎和希／11回） 健康づくりのための身体活動基準を理解した上で、運動プログラム作成について学修する。特に過体重、肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病に対する適切な運動療法プログラムを作成について説明する。また、運動行動変容の理論と実際についても紹介する。  （80 村瀬訓生／4回） 自転車エルゴメーター、トレッドミルを用い、血圧計や心電計、呼吸ガス分析器による生体情報をモニターしながら運動負荷を与え、最大酸素摂取量を測定法について説明する。また、各被験者の健康づくりに適した運動強度を評価する。さらに、投薬者に対する運動プログラム作成上の注意についても解説する。	オムニバス方式  講義 24時間 演習 6時間
			スポーツ生化学	スポーツ健康科学を学ぶ学生にとって、解剖学と生理学、生化学は運動やトレーニングによる生体の変化を構造、機能、物質化学から理解するために重要な科目である。この講義では、運動やトレーニングが生体に引き起こす変化を主に物質（分子）レベルから検討していくことによって、生体や運動の特性を理解し、それを実際の運動指導において活用できる能力を身につけることを目的としている。	
			運動生理学演習	（概要）運動生理学やスポーツ生化学で学んだ知識について、運動生理学的手法を用い安静時や運動時の身体の生理学的変化の観察を通じて、理解を深める。この講義では、心拍計、血圧計、呼吸ガス分析器など多くの測定機器の正しい使い方や得られた結果の意味や内容を理解し、他者へ伝える能力を身につける。また、運動指導やトレーニング、コンディショニングづくりにおいて測定機器で得られたデータを活用できる能力を身につける。  （オムニバス方式／15回）  （5 奥本正／7回） 運動生理学やスポーツ生化学で行われる代表的な測定について、マニュアルを用いて正しく測定し、得られたデータを分析し、実験レポートを作成する。  （2 江崎和希／4回） 運動生理学実験の測定機器の説明、操作方法、得られたデータの解釈、利用方法について教授する。  （2 江崎和希・5 奥本正／4回）（共同） 実験実習にて得た測定方法をもとに、グループにて課題を決めて、研究立案、測定、データ測定を実施する。また、得られたデータをまとめ、プレゼンテーションを行う。	オムニバス方式・ 共同（一部）
		運動分子生物学	本講義は、運動や外部環境の変化が身体へ及ぼす影響について、分子レベルでとらえた内容について説明する。特に運動や心身のストレスに対する身体の適応について理解を深めながら、遺伝子とスポーツ、外部環境変化と身体適応、遺伝と持久性運動パフォーマンスなどについて講義する。さらに運動やスポーツ活動における骨格筋の肥大や身体組成の変化・適応、加齢や疾病にともなう身体の変化等について理解を深める。授業を通して、運動分子生物学に関する専門的な知識を身につける。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	応用科目	身体活動と健康に関する科目群	運動分子生物学演習	運動分子生物学で学んだ内容をもとに運動や心身のストレスに対する身体の適応について理解を深めながら、身近に経験する身体活動、運動やスポーツ活動における骨格筋の肥大や身体組成の変化・適応、加齢や疾病にともなう身体の変化等について各自がテーマを持参して議論する。授業の後半では、運動や健康に関わる分子生物学的な情報を各自で調べ、近年の運動分子生物学に関連するトピックスについて興味ある題材を基に、新聞を作成し、発表・ディスカッションの時間を設ける。この講義を通じて、世の中の運動に関わる情報について、心身の機能や役割について説明できる能力を習得する。	
		健康産業施設実習	本実習は、健康産業施設において、実際の運動指導現場に触れ、健康運動指導を体験する科目である。現場実習を通じて、これまで学んできた事を実践し、将来の指導に生かせるような知識と技術を養うとともに、現場での実務等への理解を深める。また、実践を通じて知識と技術を身につけると共に社会性、コミュニケーション能力、前向きに対応する力、応用力、課題解決力を養う。		
	サポートに関する科目群	アスレティックトレーニング概論	アスレティックトレーニングにおいて重要な役割を果たすアスレティックトレーナーの位置づけと役割、専門性、業務を遂行する上で必要とされる具体的な知識や技能、態度などを習得することを目標とする。スポーツ医・科学チームを構成する関連資格の特徴とアスレティックトレーナーの役割や連携について理解する。また、指導者に求められる倫理や責任などについて理解するとともに、指導現場において起こり得るリスクやそのマネジメント法を習得する。		
		スポーツ傷害論Ⅰ（体幹、重篤外傷）	運動・スポーツの実践者に対する安全・健康管理および傷害・疾病予防のために必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識を身に付けることを目標とする。運動・スポーツの実践者を医科学的側面からサポートする際に欠かすことのできないスポーツ外傷・障害の基礎知識について、主に体幹に起こる外傷・障害と重篤な外傷の病態、発生機序、治療法および予防のためのスポーツ整形外科的メディカルチェックなどについて解説する。		
		スポーツ傷害論Ⅱ（下肢、上肢）	運動・スポーツの実践者に対する安全・健康管理および傷害・疾病予防のために必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識を身に付けることを目標とする。運動・スポーツの実践者を医科学的側面からサポートする際に欠かすことのできないスポーツ外傷・障害の基礎知識について、主に下肢および上肢に起こる外傷・障害の病態、発生機序、治療法および予防のためのスポーツ整形外科的メディカルチェックなどについて解説する。		
		スポーツ傷害予防論	スポーツ外傷・障害予防の概念について理解し、スポーツ選手にとって必要とされる安全・健康管理とスポーツ外傷・障害予防の具体的な実践方法について説明できることを目指す。環境整備や具体的な実践方法、組織体制の構築について理解し、安全・健康管理につながるスポーツ外傷や障害、疾病などの予防計画の立案ができるための知識を身につける。		
		スポーツ傷害対応論	スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について理解し、適切な予防対策を講じるための基礎知識を習得する。また、スポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種の要因について理解し、適切な対応方法について習得することを狙いとする。	講義 20時間 演習 10時間	
		スポーツ傷害評価演習	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関連する対象者の基本データの収集とその活用、対象者の特徴や動作、各種環境が及ぼし得る要因の把握ができるようになることを目標とする。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に関連する対象者の基本データ（各種画像検査の読影を含む）を収集する目的や意義とその活用方法を理解する。対象者の特徴や動作、各種環境が安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防に及ぼす影響を理解し、それらを適切に評価する方法を身に付ける。	講義 2時間 演習 28時間	
		スポーツ傷害対応演習	スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因について正しく理解し、科学的根拠に基づいたスポーツ傷害の予防を計画・実践するための知識、態度や技能を習得することを目標とする。スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因、疫学調査の意義や手法について正しく理解する。装具・防具やストレッチング、テーピングの予防効果、再発予防を踏まえたスポーツ活動への復帰の考え方について正しく理解し、計画・実践できるようになるための方法を身に付ける。	講義 4時間 演習 26時間	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	応用科目	アスリートサポートに関する科目群	検査測定評価演習	<p>(概要) アスリートをサポートするうえで必要とされる検査・測定・評価について、その目的と意義を学び、具体的な評価プロセスを理解し実践できる能力を習得することを目標とする。また、形態・関節可動域・関節動揺性・筋力・筋パワー・持久力・敏捷性・バランス機能の評価および一般的な体力測定および心理アセスメントに関する目的と意義を理解し、その実践方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(11 小野高志/14回) JSPO-ATが指定する検査・測定・評価について学習する。形態・関節可動域・関節動揺性・筋力・筋パワー・持久力・敏捷性・バランス機能の評価法を学習し、その実践方法を身につける。</p> <p>(14 水崎佑毅/1回) 心理的アセスメントについての基礎知識を学ぶ。特に、質問紙法の心理検査について、目的の異なる数種類の心理検査を実際に受検し、基本的知識習得とともに体験学習を通じた実践的知識を身につける。</p>	オムニバス方式
			スポーツ心理学実験演習	<p>スポーツ心理学の領域では、主に実験法と調査法の2つの方法で研究が行われ、本講義においてもその両方について学修する。実験法では、実験心理学をベースに実験機材を用いた基礎実験を行い、実験手法の理解と手続きへの理解を深めることを目指す。また調査法では、社会心理学をベースにアンケート調査に必要な基礎知識と調査法への理解を深めることを目指す。また、反応時間測定機器や錯視図形といった機材を用いた基礎実験や質問紙 (DIPCA, 3やTAISなど)を用いた学修や、実際に質問紙の作成を行うことで、調査法への理解をさらに深める学修も展開する。得られたデータはレポートやプレゼンテーション形式でまとめ、発表する場を設ける。</p>	講義 6時間 演習 24時間
			メンタルトレーニング論	<p>本講義では、心のサポート (メンタルサポート) に関する基礎的・専門的知識を学び、心の重要性への理解を深めることを目指す。心理検査やメンタルトレーニング (自己分析、目標設定技法、リラクゼーション・サイキングアップ技法、イメージ技法、注意・集中技法) の体験学習を通して理論と方法について学ぶ。またこれら応用的な知識の学修を行うことにより、競技者・指導者という立場に立った際の実践に活かすことを目指す。</p>	講義 20時間 演習 10時間
			コーチング論	<p>スポーツ指導の現場におけるコーチの役割及びコーチングの理論について理解し学修することを目的とする。スポーツ指導者の役割としてコーチの倫理、心構え、視点、アスリートの発掘・育成の重要性などについて学ぶ。また、スポーツの現場における暴力やハラスメント、ドーピングなどの諸問題を学ぶとともに、安全管理やリスクマネジメントについて理解し学修する。</p>	
			コンディショニング論	<p>アスリートをサポートするうえで必要とされるコンディショニングについて理解する。また、各種のコンディショニング法とコンディショニング計画の立案、安全かつ効果的な指導をするために必要な知識と技能について説明できることを目指す。対象者に安全で効果的なサポートを行うための環境整備やコンディショニング計画の立案方法を習得する。</p>	共同
			コンディショニング実習 I	<p>各種スポーツ種目の競技特性の分析、体力測定、対象者の特徴や環境変化等の情報に基づいてコンディショニング計画を立案し、実践に活用できるようになる。特定の競技の特性を運動生理学的側面とバイオメカニクスの側面から分析し、競技特性に応じた体力測定を企画・実践する方法を学ぶ。また、外的環境の変化がコンディショニングに及ぼす影響、年齢・性別・障害などの対象者の特徴、増量や減量などの目的を安全かつ効果的に達成するために留意すべきこと等を理解し、コンディショニング計画と実践に活用する方法を学ぶ。</p>	講義 10時間 実習 20時間
			コンディショニング実習 II	<p>各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解し、安全で効果的に実践できるようになることを目標とする。各種体力・運動能力向上の背景となる運動連鎖の考え方や解剖学・生理学的知識を理解した上で、対象者の身体的・動作的特徴や体力・運動能力を様々な測定によって評価する方法を身につける。また、対象者個々の特徴や問題点に応じたトレーニング・コンディショニングプログラムを適切に計画し、実践できる方法を身につける。</p>	講義 14時間 実習 16時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	応用科目	アスリートサポートに関する科目群	リコンディショニング論	アスレティックトレーナーの役割としてのリコンディショニングの位置づけと必要な知識、技能や態度について説明でき、用いられる代表的な手法（各種エクササイズや補装具、物理的刺激および徒手のアプローチ）の基礎理論と方法、対象者の特徴や機能障害・機能不全の状態を検査・測定、観察する手法を選択、実施する方法を理解することを目標とする。アスレティックトレーナーとしてのリコンディショニングの位置づけや概要について理解する。スポーツ外傷・障害発生後の組織の修復や機能の回復過程について理解し、その過程において用いられる各種の手法とそれらを安全かつ効果的に実践するためのリコンディショニングプログラムの立案方法を習得する。また、対象者の特徴や機能障害・機能不全の状態を検査・測定、観察する手法を選択、実施する方法を理解、習得する。	講義 18時間 実習 12時間
		リコンディショニング実習 I	スポーツ傷害に伴う運動機能障害・機能不全の状態を観察するための手法を選択し、その結果に応じた機能回復のためのリコンディショニングプログラムを計画し、実践できるようにすることを目標とする。スポーツ傷害に伴う運動機能障害・機能不全の状態をあらゆる検査・測定方法を用いて観察し、その特徴を正確に把握する手法を実践的に身に付ける。また、その結果に応じた安全で効果的な機能回復のためのリコンディショニングプログラムを計画する。最終的に、立案したリコンディショニングプログラムを安全かつ効果的に実践できる技能を身に付ける。	講義 4時間 実習 26時間	
		リコンディショニング実習 II	スポーツ傷害に伴う部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状や対象者の競技・種目特性を想定し、対象者の状態に応じて安全で効果的なリコンディショニングプログラムを計画し、実践できるようにすることを目標とする。スポーツ傷害に伴う部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状に応じて安全で効果的なリコンディショニングプログラムを計画し、実践するための技能を身に付ける。		
社会とスポーツに関する科目群		スポーツ産業学	スポーツ産業は、私たちがスポーツを享受するために必要なモノ・場・サービスを提供するビジネスの総体であり、スポーツ用品産業、スポーツ施設・空間産業、スポーツサービス産業とその複合領域によって構成される。本講義では、日本における各スポーツ産業領域の歴史の変遷と現状認識を深めると共に、様々な側面から急速に拡大することを期待されているスポーツのビジネス化が、スポーツ文化にどのように影響し、私たちの豊かな生活の実現に役立つべきなのかについて考える。		
		スポーツマネジメント	スポーツマネジメントは、スポーツ関連事業の促進又はその組織化に関与する人、活動、業務等の研究と実践に関わる理論である。本講義では、スポーツマネジメントの定義と理論を理解した上で、グローバルビッグスポーツイベントとしての近代オリンピック大会マネジメントの歴史の変容とこれがスポーツ界に及ぼした影響について理解する。また、日本のスポーツ政策及び行政財政制度を理解した上で、地域スポーツの振興に密接な公共スポーツ施設マネジメントの個別事例を理解する。さらに、世界的なスポーツ企業であるNIKE、アディダス、プーマ、コンバース社などの経営史からスポーツ関連企業マネジメントに関する理解を深める。		
		地域スポーツ文化論	スポーツは、地域の歴史や風土及び身体運動文化の伝統と運動することによって、その地域独自の思想や形態を有する。本講義では、まず、主に地域の都市部、中山間部及び島嶼部におけるスポーツの文化的独自性について理解する。そして、これら様々な地域で生活する人々の健康や幸福を高めるために何が重要であるのかについて議論を深める。この講義は「地域スポーツフィールド演習」「地域スポーツフィールド実習」に必要な基礎的知識と問題意識を醸成することも目的としている。		
		スポーツツーリズム論	今日、スポーツは地域活性化の重要なツールとしてその価値を高めている。スポーツが地域独自の観光資源やそこでの人々の生活・文化と有効に結びつき、社会関係資本を増大させるためには、どのような方法が必要なのか？本講義では、この問題に対して、スポーツツーリズムということに焦点を当て理解を深める。受講生は、スポーツツーリズムの概念と基礎知識について学修するとともに、スポーツツーリズムを通じた地域活性化の個別事例を分析することによって、スポーツによる地域活性化の具体策を作成する。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	応用科目	社会とスポーツに関する科目群	パラスポーツ論Ⅰ	パラスポーツの意義と理念ならびに障がい者スポーツの指導における留意点について学習する。講義は「障がいに対する理解」で学んだ内容をもとに、障がい者スポーツにおける文化的特性、諸施策などを学習する。また、地域における障がい者スポーツ振興、キャリア形成、指導上の留意点と工夫についても学習する。この講義を通じて、障がい者スポーツに関する専門的な知識と障がい者に対応するための技術を得ることができる。	
			パラスポーツ論Ⅱ	パラスポーツ論Ⅱでは、各障害の理解を深め、障がい者スポーツを自ら実践しつつ、指導者としての教授法を学ぶ。講義は、全国障害者スポーツ大会の概要、歴史と目的と意義、実施競技と障害区分について学ぶ。また、全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割について学ぶ。さらに全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学ぶ。加えて、最重度障がい者のスポーツについても学習する。障がい者スポーツの競技規則と指導法について専門的な知識と障がい者に対応する指導技術を得ることができる。	講義 16時間 演習 14時間
			野外教育論	本授業は、野外教育の概念や意義、教育的価値を学ぶことを目的とし、実際の活動を通じた学びである体験学習によって行われる野外教育の特性を理解すること、および野外教育における指導者の資質やリスクマネジメントについて理解することをねらいとしている。授業では体験学習について学ぶとともに、国内外の野外教育に関する理論から野外教育の概念や意義、教育的価値、学校教育における自然体験活動の位置付けについて学修する。また、指導者としてのあり方や自己表現・コミュニケーション、対象理解、リスクマネジメントについても学修する。	
			レクリエーション論	現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会や障害者を取り巻く社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。また、楽しさを原動力としたレクリエーション事業について理解を深め、計画・実施・評価の方法、安全管理について学修し、主体的に活動を起こすノウハウを身につける。現代社会において、余暇やレクリエーションがもつ意味も単なる気晴らしではなく、充実した人生づくりの基盤のひとつへと変化してきている。レクリエーション活動は生活の自立を促すとともに協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えられることから、レクリエーションがもつプラスの価値の支援体制について解説をする。	
			レクリエーション演習	実技を通してコミュニケーション・ワークを理解し、実際のレクリエーション支援ができるようになる。また、対象者に合わせたレクリエーション・ワークのためのアレンジ法について理解を深める。本授業は、レクリエーション論を踏まえ日常生活に不可欠なレクリエーション活動の支援者として必要なコミュニケーション能力を高めるためのプログラムを紹介する。人々の生きがいや健康づくり、地域づくりの支援者として基本的な活動や支援の方法、技術の演習解説をする。	
			レクリエーション実習	講義や実技で学んだ知識や技術をベースに、老若男女・様々な世代のレクリエーション事業に参加し、支援技術等の深化を図ることを目標とする。また、現場への実習に行くことにより、地域でのレクリエーション事業の現状や、参加者に合わせたアレンジ力を身につける機会とする。本授業は、地域で展開されているレクリエーション事業についての情報収集を行い、活動事業体に参加をする。また、レクリエーション事業の内容・コミュニケーション・安全管理等について事前に学修し、自己の目標を明確にして参加をする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域共創型演習・実習科目	健康運動演習	本授業では、地域において展開される健康増進・介護予防を目指し、運動を中心とした健康づくり教室の企画・立案・指導を適切に行うための知識や技術を修得し、様々なケースに対応した健康づくり教室を提供・支援するための方法を理解することを目的とする。健康づくり教室を運営するための知識や技術を確実に身に付けることができるようにする。	共同 講義 2時間 演習 28時間
	健康運動実習	本授業では、地域において展開される健康増進・介護予防を目指した健康づくり教室を企画・立案・実施し、様々なケースに適切に対応できる実践能力を修得する。またそれに伴い、対象者や自己が生活習慣を振り返り、身体機能や健康状況を客観的に把握し、生涯にわたって健康を獲得するために、身体活動、食習慣や食行動、睡眠や休養に関するヘルスリテラシーの向上を目指すことを目的とする。実際に地域に出向き、地域の健康課題を把握し、対象者の特性に応じた健康づくり教室を行い、実践へ応用・活用する力を確実に身に付けることができるようにする。	共同
	スポーツバイオメカニクス演習	スポーツバイオメカニクスの研究を遂行するためには、目的に応じて実際の身体運動を正確に計測し、測定値を解析し、結果を的確に考察する能力が求められる。本講義ではスポーツ科学の現場で用いられるモーションキャプチャを用いて身体運動を解析する。具体的には、身体運動を撮影し、得られた映像データをもとに専用ソフトを用いた座標計算を行う。また、得られた座標データから身体運動に関する力学的な考察を行う。これらを通して、スポーツバイオメカニクスの研究に求められる諸能力の獲得を目指す。	講義 2時間 演習 28時間
	スポーツバイオメカニクス実習	本実習では、スポーツバイオメカニクスの手法を用いて、運動・スポーツの現場における課題解決を目指す。そのため、まずは運動・スポーツの現場における課題に対して、スポーツバイオメカニクスの手法を用いた課題解決の方法を立案する。次に、立案された方法の試行を通して、実験計画の見直しを行う。この後に、実際の現場における身体動作に関するデータ収集のための実験を実行する。実験から得られたデータをもとに、現場にフィードバックするべき情報を精査し、それらを取りまとめて運動・スポーツの現場に対する報告を行う。	講義 2時間 演習 12時間 実習 16時間
	スポーツ産業学演習	本演習では、スポーツ産業業界紙を分析し、日本におけるスポーツ用品産業界の現状と課題を明らかにする。分析対象のスポーツ産業業界紙は、中嶋所蔵「日本スポーツ産業新報」（1995～2020）」とする。演習では、まず分析対象とする新聞記事目録の作成とそのデジタル化作業を行う。記事分析枠組並びに分析方法は、グループ討議によって決定し、各グループが最終的に記事分析結果を報告・討議する。この演習は、スポーツ産業学実習にとって有益なスポーツ用品産業界の専門知識を獲得することになる。	講義 8時間 演習 22時間
	スポーツ産業学実習	本実習では、スポーツ産業学演習で修めた日本スポーツ用品産業界の歴史、全国的現状と課題に基づいて、地域におけるスポーツ用品産業の実態と課題及びその解決方法を明確にするための研究資料収集及び調査研究を行う。本実習では、まず地域のスポーツ用品小売店への聞き取り調査を行い、各店舗における現状と課題を調査する。これらの結果に基づいて、その解決策を導き出すために必要なアイデアをスポーツ用品製造業及び流通業に関する研究・統計調査資料を収集・検討することを通じて提言することを目的とする。	講義 2時間 演習 12時間 実習 16時間
	地域スポーツフィールド演習	地域における運動やスポーツはそのためにもどう寄与することができるのか。そもそも、地域における運動やスポーツが目指す「健幸づくり」とはどういうことなのか。そして、その実現のためにはどのような考え方のもとに、どのような方法が必要で、どのような組織的な取り組みが求められるのか。演習は、主としてグループワークで行う。「健幸づくり」の理念を理解することから始めて、それを運動やスポーツでどのように実現するのかという具体的な方法を目指して、学生が工程表を作成し、そのステップを踏みながらグループワークを行う。その中で、本学の関連する研究分野の教員や、社会福祉協議会などの地域支援団体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して知識や情報を得る。さらに、先進事例となる地域があれば実際に地域を訪問し、聞き取り調査を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域共創型演習・実習科目	地域スポーツフィールド実習	日本における伝統的・代表的な地域スポーツイベントである地区運動会は、明治時代から地域の祭礼と並ぶ地域行事として受け継がれ、大切にされてきた。地区運動会は地域の人々を熱狂させるほど魅力的で、人と人とのつながりを再生産し、地域社会をより発展させる機能を持っていた。太宰治は小説『津軽』で故郷の地区運動会の風景を描き、「美しく賑やかな祭礼」と表現している。しかし、少子高齢化が進み、地域のコミュニティが弱体化し、人と人との繋がりが希薄化している中で、この「美しく賑やかな祭礼」が消えようとしている。それは、スポーツを通じたまちづくりの機会を失うことにもなる。そこで、周南圏域で開催されている地区運動会に学生が参画し、地域の方と一緒に競技に参加し運営を手伝う体験を通して、地域の魅力や課題を理解し、地区運動会の社会的機能を認識する。そして、この伝統的地域スポーツ文化を継続し、まちづくりを活性化する方法について考える。	
	スポーツ教育実践演習	本授業は「スポーツ×教育」をテーマに、初等・中等教育の各発育発達段階に応じたスポーツ教育・研修プログラムの基本的な知識・理解を深める。また、実際に教育・研修プログラムを計画・実践し、このリフレクションを通して、スポーツ教育活動能力を高める。具体的には、前半で体育科教育理論、スポーツ庁・日本スポーツ振興センター・日本オリンピック委員会等のスポーツ統括組織の教育活動を学び、それらを踏まえた指導計画案を作成する。後半では、この指導計画案に基づき模擬授業を行う。また、これらの一連のプロセスにおける教材研究、指導案の改善および教育実践の評価は協同学習形式で行い、グループのメンバーとのディスカッションを通して、教育実践に必要な思考・判断・表現力を高める。	講義 6時間 演習 24時間
	スポーツ教育実践実習	本授業は「スポーツ×教育」をテーマとし、スポーツ教育実践演習で修得した「日本のスポーツ教育活動」に関する基礎知識および学内での模擬教育実践経験を基に、地域のスポーツ振興・教育活動に参加する。具体的には、スポーツの価値教育、フェアプレイ、ライフスキル、デュアルキャリアの4つのテーマを教育実践の主軸とし、初等・中等教育の各発育発達段階におけるスポーツ教育・研修プログラムの知識・理解を深め、現場のニーズと対象に応じた指導計画を作成する。そして、この実践とリフレクションを通して、スポーツ教育活動能力を高める。また、成果発表を通じて個々の成果と課題を履修者全員で共有し、本授業の目標に対する取り組みと達成度を確認する。	講義 2時間 演習 4時間 実習 24時間
	保健体育科実践演習	中学校、高等学校の教諭を目指す学生が、児童や生徒を取り巻く運動や体力に関する諸問題や、学校体育に関する様々な課題に対し、どのような方法で対処することができるかを受講生同士でディスカッションしながら検討していく。とりわけ地域の児童や生徒の実情に着目し、身近な課題として捉えつつその解決のための方策を探る。また現職教諭から学校現場に関する児童や生徒の運動ならびに体力のこと、また学校体育に関する様々な問題・課題を聞く機会や、実際に学校現場を訪れて授業の参観・学習支援を行うなど、様々な経験を通して各人における気づきを促すとともに、そこで得られた気づきを皆に発信・共有する場を設ける。	講義 10時間 演習 20時間
	保健体育科実践実習	保健体育科実践実習は、保健体育科実践演習において学習した「児童や生徒を取り巻く運動や体力に関する諸問題や、学校体育に関する様々な課題に対する検討を行う」という学習内容からの系統的学習であり、これらの課題意識を持って児童や生徒に対する体育授業及び運動教室の実践を行うという授業である。4年次に実施される教育実習を見据え、学習指導案の作成やリフレクションの実施など、PDCAサイクルを回しながら学生自身の授業実践力の向上を図ることを目的とする授業である。	講義 6時間 実習 24時間
	メンタルトレーニング演習	スポーツの現場では、技術や体力面のトレーニングだけでなく、実力発揮を目指したメンタルトレーニングも行われる。本演習では、スポーツ現場へのメンタルサポートを通じて、メンタルトレーニングに関する基礎的・専門的知識の応用を目指す。さらに、地域のスポーツチームや指導者と関わり合うことで、スポーツ現場の問題意識への理解を深め、将来のキャリアビジョンの明確化になることを目指す。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実技科目	陸上競技	本講義では陸上競技の特性・ルール・トレーニング方法を理解できることや、陸上競技に意欲・関心を持って取り組めること、陸上競技の技能・トレーニング方法を実践できるようになることを目標とする。「陸上競技」では、年齢や競技レベルを問わず、記録という客観的な指標の追求を通して、他者や自分自身との競争を楽しむ、卓越や達成の喜びを得られるという、陸上競技の本質的な価値や楽しさを伝えられるようになることを目的とする。そのため、陸上競技における走・跳・投の基本的な種目に取り組みこととする。授業は実習を中心に進行しながら、各種目のルールの知識や技能、トレーニング方法について解説する。また、スポーツライフスタイルや競技レベルに応じた適切な指導の在り方についても解説する。	共同
	水泳	水泳は、水の中で浮く、沈む、呼吸動作、潜る等の水中運動に必要な基礎能力を学修し、泳ぎの基本となる4泳法（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の技術習得・向上を目指すとともに、水泳指導案の作成・実技を学修する。また、水泳の安全に関わる水中運動時の運動強度やそのコントロール法に関する知識や技術を習得する。本授業においては、「水泳」の授業や指導を行う際、4泳法における手と足の動き、呼吸動作、水中姿勢のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだり、水中運動と健康増進に関わる指導が出来ることを目指す。	
	ゴール型球技	（概要）ゴール型球技の特性やルールの理解、対象の発育・発達段階に応じた指導法の理解を通じた実践的な指導法の修得を目指す。また、スポーツの本質ともいえる「楽しさ」への認識も深めることを目標とする。バスケットボールやサッカーといった球技を通じて、ドリブルやパス、シュートといった基本的なボールスキルの獲得、数的有意な状況での判断力の育成や状況に応じた戦術の理解を深める。また、リスクマネジメントへの理解も深め、現場に求められる安全面に配慮した指導法の修得も目指す。  （オムニバス方式／15回）  （14 水崎佑毅・78 武藤克宏／1回）（共同） 本講義の目的と概要について説明する。  （14 水崎佑毅／7回） バスケットボールにおける基本的なルールや特性を理解し、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにすることを目指す。また、指導に必要なスキルや態度も学ぶ。  （78 武藤克宏／7回） 中学校、高校の体育実技の一つ、サッカー（ゴール型種目）の理解を目指す。一番大切なことは、ゲーム全体を見る眼を持つことである。その上で戦略をもってプレイできるよう学修する。	オムニバス方式・共同（一部）
	ネット型球技	（概要）ネット型球技はコート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを開いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本授業では様々なネット型球技のうちバドミントンならびにバレーボールの2種目を実施し、ネット型球技及び各種目の特性に触れるとともに、基本的な実技能力の修得を目指す。またルールや審判法を学び、さらに各種目のゲーム構造や教育効果を学ぶことによって、実践的な指導に役立つ知識・技能を身につけることができる。  （オムニバス方式／15回）  （70 西博史・82 山崎将幸／1回）（共同） 本講義の目的と概要について説明する。  （70 西博史／7回） バレーボールは幅広い年代においてプレーされているスポーツである。また、学校体育ではネット型の運動種目として取り上げられている。そこで本授業では、バレーボールのパス・トス・スパイクなどの基礎技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めるとともに仲間との連携プレーなどのチーム戦術についての理解を深めることを目的とする。  （82 山崎将幸／7回） バドミントンに必要とされる基本的知識・技能・ルール・コンディショニング法について理解し、実践・指導できるようになることを目的とする。ネット型ゲームの一つであるバドミントンに親しみ、その競技特性やルールを理解し、チームの目的にあった動きができるための知識や技能を身につける。授業では各種の技能、コンディショニング法、指導法について実践的な学修を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実技科目	ベースボール型球技	ベースボール型とは身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手より多くの得点を競い合うゲームである。そのため、授業内においては走・投・打といった個人に求められる基本的技能の習得を目指すとともに、ゲーム内での連携プレイを通してベースボール型球技の特性に触れる授業内容とする。またルールや審判法に関する知識を学ぶとともに、ベースボール型球技に対する理解や指導方法を身につけることを目的とする。	
		エアロビックダンス	エアロビックダンスは、有酸素性運動の他に、ストレッチや筋力トレーニングの要素も含んでおり、脂肪燃焼効果に加えて、心肺機能の向上のみならず柔軟性や筋力を高めることも可能である。また、実践者の幅広い運動レベルに応じたプログラムを行うことが可能である。本科目では、上記の観点から踏まえながら、エアロビックダンスを実践し、音に合わせた様々な動きを習得するとともに、指導できるようになることを目標とする。	
		野外実習（海上）	本実習は、生涯スポーツとしてのマリンスポーツの技術や知識について学ぶ。特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について、物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることを目的とする。これらにより、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることが理解できる。	
		野外実習（雪上）	本実習は、野外活動を行うために必要となる基本的な知識・技能・練習法・指導法について理解し、実践できるようになることを目的とする。また、これらの知識・技術を生かした指導を行うことができる資質能力の育成を目指す。講義においては、ウィンタースポーツ（とりわけ、スキー及びスノーボード）に関する理論・基礎技術・指導法に関する解説を行う。実技においては、スキー及びスノーボードの運動特性・技能構造・練習法について実践的に学修する。	
		野外実習（組織キャンプ）	自然環境の中での共同生活や様々な自然に親しむ活動を通して、好ましい人間関係や自然を愛する心を育むといった特性について理解したうえで、実施計画の作成、テントの設営や生活の仕方、野外料理、キャンプクラフト、キャンプファイヤー、自然観察、野外レクリエーションについて学ぶ。また、実施計画における、キャンプ地の選定、プログラムの作成、食糧や装備の計画と準備、組織の編成と役割分担、健康チェック、自然環境の変化への対応などについて学修する。	共同
演習科目	専門演習Ⅰ	各自が興味を抱いた医学及びスポーツ健康科学分野について、これまで修得してきた専門的知識と技術を基に、卒業論文として報告できる基礎的力を養うことを目的とする。具体的には、自ら興味を抱いた分野についての先行研究を調べ、自らの研究テーマを設定し、問題解決に至る中・長期的に研究計画を立て何をどこまで明らかにしようとするのか、また継続して研究ができるよう見通しを立てることができるようになる。	共同	
	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅰに引き続き、自ら設定したテーマに即して、医学及び自然科学系・人文社会学系スポーツ科学それぞれに適応した科学的手法により、調査、実験等を行い、これによって得られた結果を考察し、論文として完成させ、これを発表することを目的とする。また、これら研究に対する姿勢を身に付けることで、社会生活における問題解決能力を身に付ける。	共同	
教職課程科目	教科及び教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	本講義では、保健体育科の授業とはどのような理論に即して実施されているのかについて、学習指導要領解説などを踏まえて講義を行い、中学校・高等学校の保健体育科の授業づくりに必要な知識と方法、ならびに授業場面の指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法について学ぶ。具体的には、体育授業を編成することに必要な教科内容論、教材研究論、評価論、技術指導の系統性、学習集団論について学ぶ。	講義 26時間 演習 4時間
		保健体育科教育法Ⅱ	本講義では、保健体育教師として求められる授業運営に関する基本的な知識や技能、実践力を養うことを目的としている。とりわけ、①体育授業設計能力（体育授業をつくる力）、②体育授業運営能力（授業をまわす力）、③体育授業実践能力（生徒に教える力）、④運動観察・分析能力（見取る力）の4つの知識や技能を理解し、これらを模擬授業や授業観察を通して習得する。また保健体育科教育の目標、内容、方法、評価に関する今日的課題を学習指導要領や保健体育科教育研究の動向を通して分析・検討し、その視点をもって保健体育科教員としての資質を向上させる。	講義 16時間 演習 14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目 教科及び教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅲ	体育授業の科学的研究成果をはじめとする幅広い知識や教養を学ぶとともに、そこで得られた情報をもとに学習指導案を作成ならびにそれに基づく模擬授業の実践を行うことにより、対人調整力やコミュニケーション力など、より高度な応用力及び表現力を身につけることを目指す。また、体育授業の計画、実践、ふり返りという一連の流れを模擬授業形式で実践的に経験することを通して、授業づくりや授業運営に必要となる視点（授業の構成要素）を理解する。また、実践を通して授業を観察、分析する方法を体験し、反省的な授業実践の意義を検討する。	講義 16時間 演習 14時間
	保健体育科教育法Ⅳ	保健授業の科学的研究成果をはじめとする幅広い知識や教養を学ぶとともに、そこで得られた情報をもとに学習指導案を作成ならびにそれに基づく模擬授業の実践を行うことにより、対人調整力やコミュニケーション力など、より高度な応用力及び表現力を身につけることを目指す。また、保健授業の計画、実践、ふり返りという一連の流れを模擬授業形式で実践的に経験することを通して、授業づくりや授業運営に必要となる視点（授業の構成要素）を理解する。また、実践を通して授業を観察、分析する方法を体験し、反省的な授業実践の意義を検討する。	講義 16時間 演習 14時間
	体づくり運動	本授業は学習指導要領（保健体育編）の体育分野領域の一つ「A 体づくり運動」である。本実技科目に関する知識、技術を学習し、実際に指導する上での基礎となるものを身につける。また、模擬授業を通して、教職に就く者の資質向上を目指す。授業は、講義として「体づくり運動」に関する歴史と理論、学習指導要領における「体づくり運動」の解説、体づくり運動の教材研究、指導案作りを行う。実技授業として体づくり運動の教材体験、各班の模擬授業を行う。特に模擬授業では、学生が「教員」「生徒」の役に別れ、授業を展開する。その後のディスカッションにおいて、理解を深めていく。	
	器械運動	学習指導要領（保健体育編）の体育分野領域の一つ「B 器械運動」は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本授業では主にマット運動及び跳び箱運動に関する知識や技能を修得し、最終的には、それぞれの技を組み合わせた連続技の試技によって、技能の定着を確認する。また、器械運動における各種目の技術を段階的・系統的に学習し修得することを通して、それらの技の補助法・指導法についても学び、実践的な指導技術の修得を目指す。	共同
	武道	（概要）柔道・剣道の基本動作・対人的技能・審判法・ルールおよび指導方法に関する基本的な知識を学び、学校教育現場における安全な武道の指導技能を習得する。  （オムニバス方式／15回）  （12 岡井理香・62 香田郡秀／1回）（共同） 本講義の目的と概要について説明する。  （12 岡井理香／7回） 柔道で必要とされる高度な専門的知識・技能・ルールなどを理解し、実践できるよう学修する。  （62 香田郡秀／7回） 剣道で必要とされる高度な専門的知識・技能・ルールなどを理解し、実践できるよう学修する。	オムニバス方式・共同（一部）
	ダンス	ダンスの基礎技術を習得し、楽しく踊るとともにダンスの表現課題や作品の構成方法について学習する。授業内容として、指導要領の理解、道具を手掛かりにした「ひと流れ」の動きづくり、対極の動き、群（集団）の動きなどを学習すると同時に、マイクロティーチングによって指導法についても習得していく。また、日本の民族舞踊、外国の民族舞踊を習得し、創作ダンスの制作・発表なども行う。この授業を通じ、指導者としてダンスを親しみ、楽しさや喜びを味わえるようステップや表現方法、歴史的背景などの技能や知識を身につけ、ダンスを自ら創作しかつ指導できるようになることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等		
	教師論	教師論は「教師とは何か」がテーマの教職入門的な科目であり、教職の意義についての基本的理解と教師に必要な基本的資質の理解を目的とする。そのため、教師の仕事の内容（職務や服務）を整理し、教師に求められる資質能力（とりわけ今後必要となる力量など）を多面的に学ぶ。また、教員採用の実態を明らかにし、教師の待遇や研修など、学校制度と管理運営の概要を学ぶ。講義を通して、教員としての基本的な資質を実践的に養うとともに、教職に就くための覚悟を形成する。	
	教育課程論	本講義は、教員免許状取得に必要な教職課程科目のうち、「教育課程の意義及び編成の方法」に該当する。「教育課程」とは、学校教育の目的を実現するために、児童・生徒の心身の発達や科学の系統に応じて教育すべき内容を選択し、組織化し、排列したものである。本講義では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解することを目指す。また、教育課程が各自治体や学校の実情に合わせてどのように運用されているか（カリキュラム・マネジメント）を学ぶとともに、その意義を理解した上で、実際に教師として行うことになるカリキュラム・マネジメントの方法を習得することを目指す。	共同
	教育原理	教育原理は「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」について学ぶ科目である。それ故、あらためて、「教育とは何か」、「こどもとは何か」、「学校とは何か」といった原理的次元の問いで基礎から考えることを通して、教育そのものを捉え直す。また、教育思想の変遷を振り返ることで過去の思想を現在に繋がる実践として理解する。さらには、現代の学校教育が抱える諸問題や実践例をめぐり、その背景にある社会状況及び教育の意義と課題を検討し、思索できる力を身に付ける。	
	教育心理学	学校で学ぶ生徒たちは成長途上にあり、教科学習の遂行はもちろん、学級内での人間関係の構築やグループ活動を通じた協働など多種多様な課題に取り組みながら、日々発達変化を遂げている存在である。教育対象である生徒たちの心理について、とくに認知（記憶・学習）・発達・社会・臨床など諸側面から解説し、効果的な教育指導の前提となる基礎知識を得ることを目的とする。基礎的事項は講義形式で解説するが、簡単な実験や心理検査など実習の課題も可能な限り採り入れる。履修を通じて受講学生は、学校教育に関わる心理的問題の諸側面について知ることができる。またそれらの知識を様々な教育場面に適用する、具体的な手法について理解することができる。	
	教育行政論	教育行政論は教育制度や組織についての基礎となる科目であり、教職課程にとっても基本となるものである。したがって、本講義を学ぶことにより、今日の教育の在り方を考えることにつながり、教育上の諸課題を探究していく姿勢を培うことになる。本講義では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のそれぞれについて、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につけることを目指す。	
	特別支援教育	通常の学級にも在籍している発達障害等をはじめとする様々な事情により特別の支援を必要とする児童・生徒の現状を概観する。本講義では特に、当該児童・生徒が学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、講義や実技を通して児童・生徒の学習上又は生活上の困難を理解していく。本講義ではこれらを通して個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することをねらいとする。	
	道徳教育	道徳教育の目標は、道徳的な心情、判断力、実践意欲、態度などの道徳性を養うことである。このことは、道徳の時間はもちろんのこと、その他の学校の教育活動全体を通じて、すなわち、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、行うものである。そして、その道徳教育の内容は、小学校高学年、中学校では二十二の項目になる。本講義では、理論編と実践編に内容を分け、道徳の意義や原理を踏まえた上で、指導要領に示された内容項目を理解し、子どもたちに実践的に教授できるようにする。	
教育方法論Ⅰ	本講義は、高等学校教員免許状取得に必要な教職課程科目のうち、「教育の方法及び技術」に該当する。本講義では、①高校教師に求められる専門性、②教える／学ぶを深める、③授業づくりの方法論、④ICTを活用した授業づくりと指導技術、の4つの内容を中心に扱う。これらの学習を通して、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。あわせて、教育方法の理論を活用して、教師は教科指導を中核として子どもの成長にどのように関わることができるかについて考えていく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教育方法論Ⅱ	本講義は、中学校教員免許状取得に必要な教職課程科目のうち、「教育の方法及び技術」に該当する。本講義では、①授業づくりの方法論、②授業実践の技術、③授業や子どもをとりまく問題状況、④教師の権利と責任、の4つの内容を中心的に扱う。これらの学習を通して、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。あわせて、教育方法の理論を活用して、教師は教科指導を中核として子どもの成長にどのように関わることができるかについて考えていく。	
		生徒指導論	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身につける。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。	
		教育相談Ⅰ	(概要) 教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。「教育相談Ⅰ」では、中学生（児童期後期から青年期前期）の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学ぶことが主眼となる。また、それらを基本とした事例検討を通して、中学校におけるアセスメント及び対応策についても理解し、その応用についても学ぶ。  (オムニバス方式／全15回)  (74 本田真／8回) 前半8回では、中学生（児童期後期から青年期前期）の発達状況や、個々の心理的特質・教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を修得する。講義およびディスカッションを中心に実施する。  (76 前田美穂／7回) 後半7回では、8回目までの知識を基本とした事例検討を通して、中学校におけるアセスメント及び対応策についても理解し、その応用についても学ぶ。講義に加え、ディスカッションや演習を中心に実施する。	オムニバス方式  講義 20時間 演習 10時間
		教育相談Ⅱ	(概要) 教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。「教育相談Ⅱ」では、高校生（青年期）の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学ぶことが主眼となる。また、それらを基本とした事例検討を通して、高等学校におけるアセスメント及び対応策についても理解し、その応用についても学ぶ。  (オムニバス方式／全15回)  (76 前田美穂／8回) 前半8回では、高校生（青年期）の発達状況や、個々の心理的特質・教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を修得する。講義およびディスカッションを中心に実施する。  (74 本田真／7回) 後半7回では、8回目までの知識を基本とした事例検討を通して、高等学校におけるアセスメント及び対応策についても理解し、その応用についても学ぶ。講義に加え、ディスカッションや演習を中心に実施する。	オムニバス方式  講義 20時間 演習 10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教職課程科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別活動及び総合的な学習の時間		
		特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につける。総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して促え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。		
		教育実習基礎講座Ⅰ	教育実習基礎講座は、大学で学んだ専門教科と教職関係科目で学習した理論研究を教育の現場（中学校・高等学校）において実践できるようにその基礎を獲得することをねらいとする。よって、教壇実習を想定した教育実習の意義を明らかにするとともに、学級経営・教材研究の仕方や指導案の作成・指導法等を習得することをねらいとしている。また教育実習を終えた学生には、教壇実習等の改善計画と改善した計画に基づく研究授業ならびに研究協議会を行う。	共同
		教育実習基礎講座Ⅱ	教育実習基礎講座Ⅱでは、教育実習に際しての心構え・準備をする。教壇実習を想定しながら研究授業ならびに研究協議会を行い、教師として最低限必要な実践的力量を育成する。そして、教育実習を終えた者には教壇実習を踏まえて、改善計画と、改善した計画に基づく研究授業ならびに研究協議会を行う。さらに、循環型教育の一環として、一定回数は教育実習基礎講座Ⅰにおいて、3年生の指導にあたることとする。（事前・事後指導を含む。）	共同
		教育実習Ⅰ	教育実習Ⅰは、高等学校において今まで学んできた種々の教育理論を実際に適用する機会を提供するものである。これは、「理論の実践化」である。しかし、実際に現場に臨むと予想したように簡単なものではない。教育は、実際に体験して分かるものである。しかるに実際に教育実習を経験するということは、教育を学ぶものにとり重要な意味を持つ。	共同
		教育実習Ⅱ	教育実習Ⅱは、中学校において今まで学んできた種々の教育理論を実際に適用する機会を提供するものである。これは、「理論の実践化」である。しかし、実際に現場に臨むと予想したように簡単なものではない。教育は、実際に体験して分かるものである。しかるに実際に教育実習を経験するということは、教育を学ぶものにとり重要な意味を持つことになる。	共同
	教職実践演習	中学校や高等学校の教育現場で求められる教育実践力の向上を目指し、教育現場における具体的問題についての討議や、模擬授業を実施する。模擬授業においては他の受講生の批評を含めた研究協議の場を設け、教職実践力の習熟状況について検討する。実際には「履修カルテ」（学生の履修履歴）や、学外での教育活動実績を総合的に吟味し、各教科の指導力はもとより、教員としての使命感や職業倫理、また学級経営や学校運営についての理解を深める。さらに、教育実習を含めたこれまでの活動の振り返りと足りない側面の洗い出しを行い、課題解決（能力獲得）に向けた行動計画の策定、行動の実施と振り返りにかかわる活動を行う。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教職課程科目	大学が独自に設定する科目	教職ボランティア実習	本講義は、本学において小学校及び中学校教員免許状の取得を希望する教職課程の履修学生が参加する「介護等の体験」に関する科目である。「介護等の体験」は、教育職員免許法の特例等に関する法律改正によって平成10年度から義務付けられたもので、中学校教員免許を取得する者は原則として特別支援学校で2日間、社会福祉施設等で5日間の体験を行うことが必要となっている。2日間の特別支援学校では介護及び介助、児童生徒の話し相手や付き添い等、また掃除・洗濯等の職員に必要とされる業務の補助などを体験する。5日間の社会福祉施設では、障害者・高齢者等に対する介護・介助や職員に必要とされる業務の補助などを体験する。本講義では、「介護等の体験」の事前指導として、体験に必要な知識・技能、そして体験に向かうにふさわしい態度を、講義や演習を通して習得することを目的とする。	共同
	学校体験活動	中学校、高等学校の教諭を目指す学生が、学校で生活する児童生徒の姿や教職員の業務活動を観察するとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童生徒の実態と学校教育活動の特色を理解することを目的としている。学校教育現場での授業、特別活動、学校行事、部活動など教員の日常業務を観察・体験し、教育活動の実際の、具体的理解を深めるとともに、各々が各学校で経験したことや学んだことを、中間及び活動終了後の報告会にて発表を行う。これらの体験により、自己の適性を把握するとともに将来の職業生活への見通しを立てることへと繋げることが出来る。さらには児童生徒および教職員との関係構築の中で、人間的成長や社会意識の向上を目指す。	講義 20時間 実習 40時間	
資格対応科目	救急対応実践論Ⅰ	スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築におけるアスレティックトレーナーとしての心得や役割について理解し、医療資格保持者に引き継ぐための現場でできる最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度、技術を習得することを目標とする。スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築におけるアスレティックトレーナーとしての心得や役割、スポーツ現場における救急対応の特性や意義、緊急時対応計画（EAP）の重要性とその立案・計画方法、事故発生時の一連の初期評価の手順、重傷度に応じた体位管理・保温・運搬、創傷・出血・挫傷・骨折・脱臼・その他の特殊外傷への救急対応の方法（各種止血・固定・RICE法）を学ぶ。	講義 24時間 演習 6時間	
	救急対応実践論Ⅱ	（概要）スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築におけるアスレティックトレーナーとしての心得や役割について理解し、医療資格保持者に引き継ぐための現場でできる最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度、技術を習得することを目標とする。救急対応演習Ⅰの内容を踏まえ、スポーツにおける脳震盪や頭頸部・脊椎における重篤外傷、心停止、労作性熱中症、その他の内科的疾患への対応、競技・種目特性に応じた対応を計画し、実践する方法を学ぶ。  （オムニバス方式／15回）  （7 佐野村学／9回） 外傷時の救急対応について学習する。特に脳震盪への対応、頭部・頸部・脊椎における重篤外傷への対応、特殊な外傷への対応に関する理論と実践を身につける。また、各競技における救急対応の実践についても学ぶ。  （11 小野高志／6回） 外傷時の救急対応について学習する。特に打撲・捻挫・肉離れ・骨折・脱臼への対応に関する理論と実践を身につける。また、各競技における救急対応の実践についても学ぶ。	オムニバス方式 講義 22時間 演習 8時間	
	リコンディショニング実習Ⅲ	この授業では、様々な外傷や障害に対するリコンディショニングで用いられる評価、プログラムの立案と作成、安全で効果的な指導、再発予防、効果検証などを実践し、スポーツ外傷・障害発生から競技復帰に至るまでの過程における適切な対応ができることを目指す。	共同 講義 2時間 実習 28時間	
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	アスレティックトレーナーがスポーツ現場などで活動している内容を見学し、具体的な役割や業務内容について理解することを目標とする。アスレティックトレーナーがスポーツ現場などで活動している内容を見学するとともに、具体的な役割、業務内容、チームスタッフとの連携方法などについて理解する。本授業の学修から、アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ～Ⅵへつなげるものとする。	講義 6時間 実習 24時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格対応科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	アスレティックトレーナーとしてのスポーツ現場での活動を通じて、求められる役割を理解し、適切な対応を行うために必要な技能を総合的に身に付けられるようになることを目標とする。アスレティックトレーナーとしてのスポーツ現場での活動を通じて、求められる役割を理解し、選手の健康・安全管理およびスポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、様々な環境に応じた対応を適切に行うために必要な技能を総合的に習得する。	講義 4時間 実習 26時間
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	アスレティックトレーナーとしてのスポーツ現場での活動を通じて、求められる役割を理解し、適切な対応を行うために必要な技能を総合的に身に付けられるようになることを目標とする。アスレティックトレーナーとしてのスポーツ現場での活動を通じて、求められる役割を理解し、選手の健康・安全管理およびスポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、様々な環境に応じた対応を適切に行うために必要な技能を総合的に習得する。	講義 4時間 実習 56時間
	アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ	アスレティックトレーナーとしてのスポーツ現場での活動を通じて、求められる役割を理解し、適切な対応を行うために必要な技能を総合的に身に付けられるようになることを目標とする。アスレティックトレーナーとしてのスポーツ現場での活動を通じて、求められる役割を理解し、選手の健康・安全管理およびスポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング、リコンディショニング、救急対応、様々な環境に応じた対応を適切に行うために必要な技能を総合的に習得する。	講義 4時間 実習 56時間



授 業 科 目 の 概 要			
(人間健康科学部看護学科)			
区科分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	人間形成と個性伸長のための科目群	周南Well-being創生入門	
		周南Well-being創生論	オムニバス方式

本講義では「Well-beingとは何か？」について基礎的な知識の習得を目的とする。Well-beingとは身体、心、社会的に良好な状態を意味し、健康・幸福・福祉などと表されている。well-beingは、単に病気がないことや、経済的な豊かさだけでなく、心の状態が良好であることが影響する。このことから具体的には、Well-beingに関係する様々な要因を挙げ、それらのメカニズムや高め方について、周南地域を事例としながら講義する。その際、EQ（心の知能指数）も要因の1つとして取り上げる。本講義を受けることにより、基礎的なWell-beingに関する知識を習得し、Well-beingの創生と課題についての視点をもつことができ、のちに展開される各論や応用の学習の準備とすることができる。

『周南Well-being創生入門』で総論的に学んだことを受けて、本講義では各論的なWell-beingを扱う。経済経営、スポーツ、福祉、看護、情報などの学内の多様な分野の教員がそれぞれの立場から自身の研究分野についてWell-beingの観点から論じる。全回を通じて、学部学科横断的な視野で個人、地域、社会全体のWell-beingについての認識を深めるとともに、各学科の専門分野におけるWell-beingの重要性を改めて確認していく。

(オムニバス方式／全15回)

(③ 渡部明／3回)

本講義のオリエンテーション、Well-being創生について総括的に論じるとともに、講義全体を俯瞰して概説する。また、周南地域におけるWell-beingについて、経済経営、スポーツ、福祉、看護、情報、まちづくりの視点から概説する。最後に全体のまとめと総括。

(57 田島正士／1回)

経済的な豊かさとは幸福(幸福度)の関係を考える。経済成長に対する定常経済、GDPに対する包括的福祉指標など、豊かさと幸福度の考え方やその意味を説明する。

(36 木全晃／1回) 地球環境、社会環境の一部である企業、そして経営層や従業員がその役割や存在意義を認識、実践するうえで求められることを、SDGsやCSR等をもとに考える。

(38 土屋敏夫／2回)

①ポジティブコンピューティングとは：概要およびDX、UX/UI、感性工学との関係について概説する。②ポジティブコンピューティングの実践：ミニワークショップによる地域課題へのアプローチ。

(34 中嶋健／1回)

「スポーツのWell-being」：スポーツの高潔性を保ち、その価値や意義をより一層良い状態にするためには何が重要なのか？スポーツ健康科学の多様な視点から説明する。

(37 清原泰治／1回)

「スポーツによるWell-being」：スポーツには、人と人、地域と地域の交流を促進し、地域社会の一体感や活力を醸成する力がある。このようなスポーツの力を高めるためには何が重要なのかについて考える。

(1 大平光子／1回)

対象者のもつ価値や信念に寄り添う看護学分野における、その人らしいより豊かな健康生活の考え方について概説する。

(4 鶴田来美／1回)

公衆衛生看護学の視点における、すべての人が健康に暮らせる社会の創生に関する考え方について概説する。

(39 脇野幸太郎／3回)

①Well-beingの基盤となる「地域」のあり方について、現在国が推進している「地域共生社会の実現」を手がかりに考える。  
②個々人のWell-beingに大きく関わる「住宅」や「居住」のあり方について、現在進められている「居住支援」の観点から考える。  
③同様の犯罪を複数回にわたって繰り返す「累犯高齢者」や「累犯障害者」に対する社会復帰支援の取り組みの検討を通じて、改めてWell-beingの意義について考える。

(58 赤木真由／1回)

住民のWell-beingを目指すまちづくりの事例を学んだうえで、周南地域らしさを活かして実践していきたいことを考える。

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間形成と個性伸長のための科目群 総合科目	持続可能な社会とダイバーシティ	<p>本科目は、持続可能な社会作りのために学生各自が現在どのような課題があり、その課題解決に向けて何ができるのかを考えられるようにすることが目的である。持続可能な社会というと、環境問題や経済的な格差問題に目が向きがちであるが、本科目はそれだけではなく、例えば男女共同参画における女性の地位、障がいをもった人々、LGBTQの人々などマイノリティに置かれている、社会参加の側面において「弱い」立場に立たされている人々の人権を福祉の立場から論じてみたり、スポーツの立場から、あるいは言語学の立場からも論じていく。本科目を通して、社会の持続的成長に向けて、学生は自分たちは何ができるのかを考え、行動に移す手段を考えていく力を育むとともに、社会の中では多様な生き方を選択する人々がいることを認めることができる豊かな教養やマインドを養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(49 呉賛／1回) 持続可能な社会とダイバーシティの概念、目標、相互関係について説明し、本講義のオリエンテーションを行う。</p> <p>(51 田尾真一／1回) 環境と経済の両立を目指す国際的な取り組みの歴史的な経緯や現状について、主に地球温暖化(気候変動)問題を中心に講義する。</p> <p>(50 小林啓祐／1回) 男性と女性がおかれた社会的状況について学んだうえで、その問題点について考える。</p> <p>(40 田中数恵／1回) 言語と性[ジェンダー]と社会との関係を究明しようとする新しい分野の研究から、現代の英語や日本語に見られる女性と男性の姿を紹介し、言語を意識的に変えることで社会を変えることの可能性について考える。</p> <p>(41 井上浩／5回) 障がいとは何か、なぜ障がいがあるというだけで差別が生じてきたのかについて考える。また、ゲスト講師を迎え、子どもの貧困問題、企業の発展と社会的責任、経済と持続可能な社会作りについて講義を行い、まちづくりと持続可能な社会の観点から最後に全体でワークショップを行う。</p> <p>(59 水崎佑毅／1回) 「すべての人に健康と福祉を」をテーマに、現状と課題を学び、今後何が必要かについて議論をしていく。また、スポーツとテーマの関係についても議論を行う。</p> <p>(52 金子幸／1回) 子どもの健やかな成長に影響を及ぼす諸問題について取り上げ、問題解決のための方策について考える。</p> <p>(12 渡邊淳子／2回) セクシュアリティとジェンダー役割、性の多様性について考える。</p> <p>(58 赤木真由／1回) 持続可能な社会につながる地域デザインを実現するための多様性の活かし方や創造性の発揮について取り上げる。</p> <p>(60 寺田篤史／1回) ゼミや部活を含むこれまでの大学での取り組みを紹介する。大学として、大学生としてどのようなことができるか考える。</p>	オムニバス方式
	教養スポーツ実習Ⅰ	生涯にわたって健康的な生活を主体的に送るために、スポーツ活動を通じた健康づくりの基礎知識、実践力の修得を目指す。また身体的な健康だけでなく、精神的な健康および社会的な健康づくりのために、スポーツ活動を通じた多種多様な交流を行い、言語的・非言語的コミュニケーションスキルの向上を目指す。	共同
	教養スポーツ実習Ⅱ	生涯にわたって健康的な生活を主体的に送るために、様々なスポーツの基礎知識、基礎技術の修得を目指す。スポーツ活動を通じて、多種多様な交流を行い、言語的・非言語的コミュニケーションスキルの向上を目指します。スポーツ活動を通じて、身体的な健康だけでなく、精神的な健康および社会的な健康づくりに貢献できる力を身につけることを目指す。	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間形成と個性伸長のための科目群  総合科目	健康とスポーツ	「健康とは何か?」という問いは、これからの未来社会を生きる私たちにとって今後切っても切れない課題である。IT 普及社会における子どもの体力低下抑止、社会保障負担の軽減などが喫緊の課題とされる一方、遺伝子工学の発展やトップスポーツの興隆が目覚しいこの時代の中でこの問いへの答えを見つけるためには、幅広い「教養としての健康・スポーツ」の知識が必須となる。本講義では、運動・栄養・休養の3つの観点から健康・スポーツに関する教養の幅と深さを広げ、主体的に課題解決に取り組むための基盤を築くことを目標とする。	
	人の健康生活	病気や障がいの有無にかかわらず、あらゆる健康状態にある人びとの健康を身体的、精神的、社会的側面から捉えることは、一人ひとりの人間の、その人らしいより豊かな健康生活を考える重要な視点である。本授業では人の健康生活について、人間を全人的に理解し、健康を身体的側面、精神的側面、社会的側面から理解することを通して、人の健康生活のための知識とスキルを理解する。本授業を通して、人の健康に影響を及ぼす環境や要因、人の健康に関する価値、その人らしいより豊かな健康生活に関する考え方の基礎的知識を身につける。  (オムニバス方式/全8回)  (1 大平光子/4回) 人の健康の捉え方、多様性を尊重しあう社会における健康生活の捉え方、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツ (SRHR)、セルフケア、ヘルスプロモーション及び暴力が健康に及ぼす影響と暴力防止に関する基礎的知識を概説する。また、総括として、地球規模での健康課題解決に関して考察する。  (7 山本八千代/2回) 子どもの健康と成長発達の関係、病気や障がいがある子どものより豊かな生活の実現に関わる社会環境や子どもの健康状態が親、家族に及ぼす影響を概説する。  (10 岡田純也/1回) 病気や障がいがある人の健康生活の考え方や健康生活とソーシャルサポートについて概説する。  (15 大達亮/1回) 人の生活におけるストレスとストレスが健康に及ぼす影響及びストレスコーピングについて概説する。	オムニバス方式
	健康と福祉	本授業の目的は、誰もが健康で安心して暮らせるために、あらゆる年齢のすべての人々の健康について学び、それを支える福祉について理解を深めることである。そのために授業では、健康な生活について日本や諸外国の現状について学び、人々の健康な生活に関心をよせながら疾病や介護予防、さらに、地域で安心して暮らすための福祉の増進について理解を深める。 主に講義形式で授業を進めていくが、学生の主体的な学びも重視して演習を取り入れながら授業を進める。身近な生活課題について学生自身が疑問を抱いたことを調べ、授業内で共有しながら進めることで、健康と福祉についての理解を深めていく。	講義 28時間 演習 2時間
	メンタルヘルス入門	現代社会は多くのストレスにさらされ、メンタルヘルスの危機に直面しやすい。本授業では、こころの健康、こころの健康の維持、こころの病気の予防、日々の生活とストレス、ストレス因子と対処法、主なこころの病気等、精神保健にかかわる問題解決に必要な基礎的知識を理解する。本授業を通して、現代社会における精神的健康にかかわる諸課題、こころの健康の維持、ストレス対処に関する基礎的知識を身につける。	兼任
価値域創の持続的発展の展 目群	自然災害と防災	自然災害に関する様々なリスクに対して、自治体、学校・企業は防災や減災の対策を講じる必要がある。本授業では、自然災害の種類や災害リスクの種類及び災害の影響を減じるための対策及び被災者の心理について理解する。 講義を通じて組織における防災、減災のためのリスクマネジメントの基礎的知識やリスクコミュニケーションの手法を身につける。	兼任

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	社会調査法入門	本授業では、これから社会調査を本格的に学ぶ学生を対象に、社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得することを目的とする。さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、調査倫理などについて、調査の実例や実践を踏まえて学ぶ。 複数の手法を取り上げ、基礎知識、方法論、分析と解釈の考え方について学ぶことで、「量的・質的に調査する」ことの意味を考える。また、小規模な調査を自ら実践することによって実際に調査を行なう際の基本的な行程を理解する。単にテクニックを身につけるのではなく、授業を通じて履修生が向き合う「社会や日常を見るまなざし」の面白さと難しさを体験的に理解することを目指す。	
	地域づくり論	「超高齢化社会の到来」、「人生100年時代」と言われるように、日本では、長く生きながらえることが可能になった。他方、近年急速な少子・高齢化、生産年齢人口の減少による地域社会の構造変化や地域経済の停滞など、生活する場としての地域社会、共助の基盤としてのコミュニティの力は低下している。近年では、東日本大震災、そして新型コロナウイルス感染症拡大等の予測できない大規模な災害によって、再び「地域」の在りようへの関心が高まっている。本授業では、こうした社会環境の変化を踏まえながら、私たちが暮らしている地域社会の現状を把握するとともに、地域を維持・創造する主体としての自覚を持つこと、さらに具体的事例を元に、諸問題や実践への理解を深める。地域コミュニティの果たしうる役割やこれからの時代や社会において、なぜこうした連帯や関わり合いが必要なのか、地域の構造変容の過程と持続的な地域の在りようについて、複眼的に探求する。	
	周南地域と産業	本学は、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての活動する「地（知）の拠点」(COC) 構想を展開している。本授業では、この趣旨を理解し、その一員として学生が活動できるようになるために、本学が存在する「周南」という地域について注目し、深く広く学ぶ。具体的には、周南の地域の産業について深い見識を有する本学教職員や外部講師を講師に招き、周南地域の産業の歴史、主要産業の内容、都市計画、地域とコミュニティ等について学び、地域の抱える問題や課題を取り上げその解決策と将来の発展の構図についても取り上げる。この科目の受講により、ゼミ等での地域課題解決活動に向けた基礎的知識を身につけるとともに、周南地域での就職や産業のあり方について見識を深めたいと考える学生に必要な情報と知識を身につける。	
	アントレプレナーシップ入門	アントレプレナーシップとは、企業家精神のことであり企業家活動のことでもある。そのうちの企業家とは、イノベーションを興す人のことである。そこで、本科目では、まず企業家精神/活動の意味するところやイノベーションの諸概念について理解を深める。その上で、アントレプレナーシップの方法論として、①人々の未だ解決されていない問題/課題(ジョブ)の発見、②そのための新しいアイデアとしてのイノベーションの発想、③イノベーションの収益化のためのビジネスモデルの設計について順番に学習する。受講生が、本科目の受講を通じて、アントレプレナーシップを涵養し、起業・創業を志すとともに、そのための方法論を獲得できることを目標とする。	
リベラル アーツ 科目群	倫理学 I	「幸福」を鍵概念として倫理学の基本的な考え方を概論的に学ぶ。幸福は古代より倫理学の重要な対象であり、多くの思想家が扱ってきた。この授業では幸福を軸に倫理学説の通史的な講義を行うとともに、講義で得た知識をもとに現代の社会問題について「倫理的に考える」活動を行う。ディスカッションを通じて学生はそれぞれの思考を深め、レポートの形でアウトプットする。こうした一連の活動を通じて、学生各人の生き方の見直し倫理観の涵養を目指す。	
	哲学	日常において常識的に前提とされていることを問い直し、その意味をあらためて説き明かそうとするのが哲学である。本講義では論理的思考力を培い、多様かつ柔軟な視点を持ち、ひいては現代の諸問題にも対処できる力をつけることを目指し、6つのテーマで講義を行う。すなわち「人間らしさとは何か」、「「私」の身体」、「生と死の接点」、「心の問題」、「言語と論理」、「責任と自由」である。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目  リベラル アーツ 科目群	生活と経済経営	<p>本講義では、経済学や経営学を専門としていない学生でも日常生活を送るうえで必要となる経済学や経営学に関する知識をオムニバス方式形式で教授する。また、学んだことを踏まえて、最終的にアウトプットする手法についても学び、今後の生活にも活かせるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(51 田尾真一／3回) 社会生活をするうえで我々は様々な公共サービスを利用し、その財源としての税を負担している。本講義ではそうした身近にある公共部門の役割やそれが抱える問題について概説し、自分事としてそれらの問題について考察する。</p> <p>(57 田島正士／3回) 本講義では経済学の想定する合理的な人間像と実際の人間行動を比較し、経済学の長所と短所を考える。その合理性に基づく経済活動から外れた人間性や、合理性では考慮されない周辺への影響を考慮する意味を考察する。</p> <p>(46 長澤賢一／3回) 金融は、我々が生活していくうえで極めて重要な役割を担っている。本講義では、貨幣における基礎的な概念に加え、法定通貨と仮想通貨(暗号資産)の違いを説明し、貨幣の役割について考察する。</p> <p>(63 百武仁志／3回) 企業の中には地域に密着した企業がある。この企業は人々の暮らしに必要な不可欠な存在であるが、どのような特徴があり、また、どのような問題を抱えているのかを理解する。</p> <p>(58 赤木真由／3回) これまでの講義で学んだ経済学、経営学の知識を活用して、どのように自分自身や地域社会の生活を豊かにするか考える。具体的には、実際の事例やアイデア創出の手法を学び、ワークを通じて自分の考えをアウトプットする。</p>	オムニバス方式
	日本国憲法	<p>この講義では、憲法にかかわる身近な問題を提示しながら、憲法の意味や歴史、さらには人権や統治機構の諸問題について学習し、「日本国憲法」の基礎知識を身につけることをねらいとしている。具体的には、幸福追求・プライバシーをめぐる問題、法の下での平等をめぐる問題、思想・良心の自由をめぐる問題、表現の自由をめぐる問題、信教の自由・政教分離をめぐる問題、経済的自由をめぐる問題、生存権をめぐる問題、民主主義を実現するための制度(選挙権と選挙制度)をめぐる問題、憲法をめぐる新しい問題などについて取り扱う。</p>	
	心理学 I	<p>私たちの心につわる謎は、病や性格に関するものだけではない。たとえば、せっかく勉強して覚えたことを忘れてしまうのはなぜだろうか。気をつけているはずでも、交通事故や医療ミスはなかなか防ぐことができない。世の中には道を覚えるのが得意な人がいる一方で、方向音痴の人たちもいるのはなぜなのか。何かを見聞きしたり、考えたり、といった何気ない行動の裏側ではいつも、私たちの心にあるプログラムが働いており、こうした謎の答えもそこにあると考えられる。本講義では「行動科学としての心理学」という視点に立ち、私たちの様々な行動について、心理学的に理解するための方法や基礎知識について解説する。また、日常場面と関わりの深い応用的な研究事例についても紹介する。</p>	
	社会学	<p>社会とは人と人の関わり合いの連なりである。私たちの生活は、社会によって成り立ち、支えられている。その反面、社会は差別や排除などによって一部の人の生活や生存を脅かすこともある。私たちは、今よりも少しでも良い社会につくり変えていくために社会のあり方について問い続けなければならない。問い続けるためにはまず社会にどのようなしくみが存在するのかを理解する必要がある。本授業では、社会学に関する入門的知識を学ぶ。社会学が何を探求しているのか、また社会学の基本的な理論と概念について学び、それらを基に、現実の社会問題にアプローチする力が身につくことを目指す。本授業を通して、社会学の理論と概念を理解し説明できるようになること、ならびに、今日の社会について社会学的視点から批判的に考えることができるようになることを目指す。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目 群       総 合 科 目	中国語Ⅰ	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、中国語習得の基礎を築く。文字と音の対応規則を学び、ピンインで平易な文を正しく読んだり書いたりできるようになる。日常会話でよく使われる表現や単語を学び、あいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができるようになる。また、中国語圏の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、中国語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、話す・聞く・読む・書くの四技能を高める。また、中国語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	韓国語Ⅰ	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、韓国語習得の基礎を築く。文字と音の対応規則を学び、平易な文を正しく音読できるようになる。日常会話でよく使われる表現や単語を学び、あいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができるようになる。また、韓国の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、韓国語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、辞書を使いながら短いエッセイや手紙文などを読んだり書いたりできるようになる。また、韓国の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	ドイツ語Ⅰ	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、ドイツ語習得の基礎を築く。日常会話でよく使われるあいさつ表現や文字と音の対応規則を学び、平易な文を聞き取ったり書いたりできる。また、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、ドイツ語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、辞書を使いながら平易な文を読んだり書いたり話したりできる。また、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
リ テ ラ シ ー 科 目 群	教養ゼミ	この授業は、本学が推進するEQ教育をベースとして、大学での学びに必要な基本的な技術・作法（アカデミックスキル）の修得・向上を目指す。大学での学びをスタートさせるにあたって自己開示やコミュニケーションの意義・方法を学ぶとともに、自身の考えを表現するレポートの作成法やグループ活動を通じてのプレゼンテーションの技術を学ぶ。こうした力は2年次以降のPBL（課題発見・解決型の学習）による学びの基礎となるのみならず、EQ力を涵養することを目指す本学での4年間の学生生活の基盤となる。	共同  講義 14時間 演習 16時間
	アカデミックライティング	この授業では大学で書く文章（アカデミック・ライティング）の基礎、とりわけ意見を述べるレポートに求められる最低限の体裁の整った文章を作成するスキルの習得を目指す。受講者に対して前期期間に他の授業で課されたレポートの課題を振り返り、レポート作成に共通に求められる注意点を確認する。意見を述べるレポートととしては、そうした文章の核心となる「結論」⇒「理由」⇒「説明」⇒「結論」の型でのレポート作成を行う。その他必要に応じて、インターンシップにおける受入れ企業や大学教員とのやり取りを行う際に用いる文章についても扱う。	
	情報リテラシー	現代の情報化社会では ICT活用能力は必須である。情報ネットワークに接続しそこにある有用な情報を余すことなく活用して生きていく、基本的な技術と習慣を身につけておく必要がある。情報教育システム活用への導入編となる講義科目が「情報リテラシー」である。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区 科 分 目	授 業 科 目 の 名 称	講 義 等 の 内 容	備 考
総 合 科 目  リ テ ラ シ ー 科 目 群	データサイエンス入門	今後の情報を基盤とした社会においては、データサイエンスの基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となってくる。そのためデータサイエンスを基盤的リテラシーと捉え、全員が身に付けていくことが重要である。 この科目はデータサイエンスの入門科目として位置づけられる科目である。データサイエンスが、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかを理解し、社会の実データ・実課題を適切に読み解き、判断できることを念頭に置きながら、そのための基礎的な分析手法を、表計算ソフトを用いながら学んでいく。 この講義により、受講者は、データサイエンスの基礎を修得することができ、社会で活用されるデータサイエンスの基礎知識、データサイエンスの基礎的な分析手法を身につけることができる。	共同  講義 17時間 演習 13時間
	情報倫理	今日の社会では、Facebook、Twitter、LineといったSNSや情報サービスを抜きにして我々の日常生活は語れないほど情報技術が進展し、浸透しており、またコミュニケーション形態も変化している。しかし、その一方で今までの常識を覆すような、さまざまな問題が生起している。今までの常識を吟味しなおす時期にきているのかもしれない。ともあれ、情報化社会における基本的人権であるプライバシー、情報化社会における情報流通の基本ルールである著作権、この二つのテーマが情報倫理の柱である。我々にとって、著作権(知的財産)やプライバシーを守る意識(コンプライアンス)が、今ほど求められる時はないことも事実である。この講義では、情報倫理の根本的問題から、具体的な現象まで詳説する。	
	情報社会論	情報化社会とはどのような社会なのだろうか？ 情報化の進展は私たちの生活をどのように変えるのだろうか？そもそも「情報」とは何か？本講義では、メディア社会の展開と現実をマスメディア、スマホ、インターネットなどの情報メディアを題材に論じる。そして情報化社会で生じているさまざまな社会現象を解説していくことを通して、視野の拡大をはかっていく。その際に情報メディアの産業・技術的側面だけに注目するのではなく、そのようなテクノロジーが発達するようになった社会的背景や、私たちの社会や意識への影響についても思考を深めることを目標とする。	
	総合英語初級 I	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力の基礎を固める。 リスニングでは、連結、同化、脱落などの音声変化を理解して、自然なスピードで話されるあいさつや簡単な問いかけを聞き取る訓練をし、身近な話題についての易しい会話を聞いて話の主旨がある程度理解できるようにする。また、日常のコミュニケーションでよく使用される依頼や提案など基礎的な会話表現を学ぶ。 リーディングでは、英語の語順(文型)と語の働き(品詞)を学んで、簡単な語彙、よく使用される句で書かれた短い英文を読んで理解したり書いたりできるようになる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初級 II	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力の基礎を固める。 リスニングでは、写真・イラストを見ながらそれについての平易な文構造の短い記述を聞いたり話したりする練習を通して、日常生活の中でよく見られる人々の行動等について簡単な語彙で表現できるようになる。また、やや長い聴解文を聞く練習を通して、情報の繰り返しや言い換えがあれば話の詳細が一部理解できるようになる。 リーディングでは、文構造が単純な英文を後戻りなしで意味のまとまりごとに読む練習を繰り返し、短い簡単なEメールなどをより速く、全体の意味をより正確に理解しながら読めるようになる。 学期の終わりにTOEIC L&R IPテストを受験して、学習の進捗をはかる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初中級 I	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を向上させる。 事実に基づく情報と同じ単語や句を使わずに表現する訓練をして、長い英文の聴解や読解で言い換えられた情報に気づき、話の主旨や基本的な文脈をより理解できるようになる。文中に難しい語彙が使用されている場合でも、推測をしながらその意味を理解できるようになる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初中級 II	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を向上させる。 短い会話で、間接語法や否定構文など難しい構文や語彙が使用されている場合でも、ある程度理解できるように訓練する。 やや長めの英文読解で、一つの情報を他の情報と関連付けながら読むことができるようになる。 学期の終わりにTOEIC L&R IPテストを受験して、学習の進捗をはかる。	講義 10時間 演習 20時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目	リテラシー 科目群	英会話初級Ⅰ	ネイティブスピーカーが話す英語の音声への抵抗感をなくし言葉のリズムに慣れるとともに、日常生活に根ざした場面でよく使われる単語や表現を学び、身近な話題について臆さずに英語で発話できるようになることを目指す。	講義 10時間 演習 20時間
		英会話初級Ⅱ	英会話初級Ⅰに引き続き、ネイティブスピーカーと共に英語を用いて自分の考えを表現し、意思疎通が図れるよう訓練する。相手の質問に答えるだけでなく、自ら不明点や疑問点などを問いかけることを意識しながら英語を聞き話す経験を積み、自信をつけることを目的とする。	講義 10時間 演習 20時間
		留学英語	留学中に求められる英語でメモを取る技術、学術的な英語の記事を効率的に読む技術、講義や記事の内容を自分の英語で伝える能力、自分の考えを英語で論理的に述べる英語力を身につける。また、留学先での生活や授業に早く適応するための情報収集と心構えもする。 学期の終わりに、希望者には留学英語試験TOEFLまたはIELTSの受験を推奨する。	共同  講義 10時間 演習 20時間
専門基礎科目	専門基礎科目	<p>人間と健康</p> <p>人の健康の概念は社会環境に即して変化する。本授業では胎児期から生の終焉まで、発達し続ける生活者である人間の健康とは何かについて、スポーツ健康科学、看護学、福祉学の視点から捉え、どのような健康状態であっても自身の持てる力を発揮して、その人らしいより豊かな健康生活 (well-being) を支援する方略について考察する。本授業を通して、人間の健康及びその人らしいより豊かな健康生活を支援および探究していく基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 大平光子／5回)</p> <p>人間、健康、環境、看護の概念について概説し、人間の健康に関する看護学分野の捉え方(ウエルネス理論、エンパワメント、セルフケアなど)について考え、環境(自然・物理化学的・社会・文化・価値)が健康に及ぼす影響について概説する。さらにあらゆる健康状態にある人々のwell-beingについて概説する。</p> <p>(42 江崎和希／1回)</p> <p>予防医学の観点から、多様な年齢・健康状態にある人々の健康増進、生活の質向上と運動について概説する。</p> <p>(55 小野高志／1回)</p> <p>スポーツや運動による外傷・傷害の予防・回復に必要な医学的基礎知識及びスポーツ医学について説明する。</p> <p>(34 中嶋健／1回)</p> <p>スポーツによって地域社会の健康を向上させるために必要なスポーツの社会科学的基础理論について概説する。</p> <p>(56 瀬尾賢一郎／1回)</p> <p>あらゆる年齢、発育発達段階にある子ども達の健康の維持・増進に必要なスポーツ教育学の基礎理論について概説する。</p> <p>(61 北村光子／1回)</p> <p>シニアの健康について、高齢者がもつ健康意識の現状を踏まえ、介護施設などの健康プログラムについて述べる。</p> <p>(47 梅田勝利／1回)</p> <p>社会福祉法人活動と健康について、企業が取り組んでいる健康管理のあり方について法制度と現状について述べる。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)	



**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人間と健康	<p>(35 難波利光/1回)</p> <p>地域の中で健康について考えるシステムについて、民間組織、行政機関、地域自治組織などの事例を挙げて述べる。</p> <p>(52 金子 幸/1回)</p> <p>乳幼児期にふさわしい生活を通して心身ともに健康に育つための必要なかわりについて概説する。</p> <p>(34 中嶋健、1 大平光子、35 難波利光/2回) (共同)</p> <p>看護学とスポーツ健康科学、社会福祉学の学問分野が協働融合して人間の健康を追究する理由を概説し、人間と健康に関して総括する。</p>	
	生涯発達論	<p>本授業は、人間を全人的に捉え、人が生まれてから死ぬまでに経験するさまざまな変化を発達の視点から考え、それぞれの発達段階の心理的発達やそれを取り巻く課題について学ぶ。本授業では胎児期から老年期までの発達段階をおいながら、家族や社会といった周囲の環境が心や身体の発達に及ぼす様々な影響に関して、その基本的な考え方・理論や基礎的な知識を理解する。本授業を通して、人間の生涯発達に関する理論、発達段階と発達課題、生涯発達における家族や社会が心身の発達に及ぼす影響の基礎的知識を身につける。</p>	
	公衆衛生	<p>公衆衛生は集団の中の健康状態や発生する疾病の原因について、生活環境から関連する要因を考察し、疾病予防や健康増進など、集団の健康を衛することを指す。本授業では、集団の健康を捉えるための手法や指標、環境と健康、地域、学校・職場における健康、医療制度やシステム、健康危機管理、集団を対象とした活動や対策に関する基礎的知識を理解する。本授業を通して、集団の健康を捉える基礎的知識、集団の健康を維持・増進・改善し、疾病を予防するための制度や施策に関する基礎的知識を身につける。</p>	
	社会福祉学	<p>現代社会における社会福祉の意義と社会制度の実施体系（高齢者、障害者、児童・家庭、人権等）について学び、現代社会の諸情勢（高齢者、障害者、児童・家庭、人権等）の動向や医療及び介護保障、福祉施策の基本を理解する。また、利用者が社会福祉サービスを利活用するにあたっての多職種・他機関の連携協働の在り方を考察する。本授業を通して、看護の対象である生活者が利活用する社会保障制度の基礎的知識及び社会福祉サービスを提供における多職種・他機関の連携協働の方法に関する知識を身につける。</p>	
	人体の構造と機能 I	<p>人体の正常な構造及び機能に従って系統的に人体の構造と機能を学ぶことは人の日常生活の営みを支える看護職者が人間の身体を理解し、フィジカルアセスメントを行う基盤となる。本授業では人間の解剖生理を理解する基礎的知識、消化器系、呼吸・循環器系、腎泌尿器系の構造と機能について、人体の各部位の形態や位置関係と機能を結びつけ、組織や細胞の構造と機能を理解する。授業を通して、生活者である人の個々の身体的特徴を理解するための正常な身体構造と機能に関する知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(84 岸博子/5回)</p> <p>医の倫理、人間の尊厳について考え、その上で身体各部の区分について概説する。呼吸器系の構造と機能（鼻腔、喉頭、気管、肺）、肺と循環と血流について概説する。</p> <p>(85 板橋岳志/5回)</p> <p>人体の構造（細胞）、血液、組織液（細胞内液・外液など体を構成する水分）、循環器の構造と機能（心臓、心臓と動脈と静脈）について理解する。</p> <p>(83 宮本達雄/5回)</p> <p>泌尿器系の構造と機能（腎臓、尿管、膀胱、尿道）について理解する。消化器系の構造と機能（口腔、食道、胃、肝臓、膵臓、小腸、大腸）について理解する。皮膚の機能と構造、体温と体温調節を理解し、全体を通して生活者である人の身体的特徴を身体構造と機能から理解をする。</p>	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	人体の構造と機能Ⅱ	<p>人体の正常な構造及び機能に従って系統的に人体の構造と機能を学ぶことは人の日常生活の営みを支える看護職者が人間の身体を理解し、フィジカルアセスメントを行う基盤となる。本授業では人体の構造と機能Ⅰに引き続き、自立神経系・内分泌系、骨格・筋・神経・運動器系の構造と機能、さらに生体防御機構と適応、生殖・発生・老化について、人体の各部位の形態や位置関係と機能を結びつけ、組織や細胞の構造と機能を理解する。授業を通して、生活者である人の個々の身体的特徴を理解するための正常な身体構造と機能に関する知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(84 岸博子／5回)</p> <p>運動器系の構造と機能(骨格系、関節、筋系の構造と末梢神経支配、運動器系と末梢神経支配)について概説する。神経系の構造と機能(大脳皮質、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄、髄膜と脳室、脳神経と脊髄神経、自律神経)および大脳皮質の機能、レム睡眠、ノンレム睡眠について概説する。</p> <p>(85 板橋岳志／5回)</p> <p>シナプスと神経(ニューロン、シナプス、Kイオン、Naイオン、興奮性シナプス、抑制性シナプス電位)、感覚器の構造と機能(感覚の分類、皮膚感覚、皮膚筋、痛覚、体性感覚の伝導路、前庭感覚と平衡、視覚器、網膜、視覚の伝導路、聴覚器、味覚器、嗅覚器、体性感覚器、平衡感覚器)について概説する。</p> <p>(83 宮本達雄／5回)</p> <p>内分泌系の構造と機能(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓)について理解する。生殖器の構造と機能として女性生殖器(子宮、卵巣、卵管、陰道、外陰部、性腺、卵巣および月経周期)と男性生殖器(精巣、精巣上体、精管、前立腺、陰茎)について理解する。最後に生体の防御機構、免疫について学び、人々の健康な生活を理解するうえで基礎となる身体機能を理解する。</p>	オムニバス方式
	栄養代謝学	<p>生体の生命活動や生体内で生じる種々の反応やその反応系に異常を来たして生じた疾患について代謝栄養学的に学ぶ。本授業では、栄養素の生理的役割を理解し、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。授業を通して、各ライフステージにおける人体の構造や機能の変化および疾患や栄養状態の評価の考え方に関する基礎知識を修得する。</p>	
	微生物・感染制御学	<p>感染症の病原体となる、ウイルス、細菌、真菌、原虫等の構造、人への感染様式及び感染を防御する機能、感染防御の原理を学ぶ。本授業では、感染症の病原体、病原体の感染により生じる疾患と治療の基礎を理解するとともに、感染制御の原理を理解する。本授業を通して、感染症の症状、感染症の治療、感染防御に関する基礎的知識を身につける。</p>	
	臨床薬理学	<p>臨床の場で遭遇する病態の臨床症状を改善するための薬物療法、薬理作用、治療効果と副作用について学ぶ。本授業では、各種疾患の治療に用いられる代表的な医薬品の薬理学的特徴、薬剤の有効性と安全性について理解する。授業を通して、各疾患の治療に用いられる代表的な医薬品の薬理学的特性、薬剤の有効性と安全性を踏まえた医薬品の使用上の留意事項、副作用に関する知識を身につける。</p>	
	周産期小児期疾病治療論	<p>人の成長発達を理解し、女性(妊娠期・分娩期・産褥期を含む)及び小児期の健康障害に対する人間の反応や、女性の性・生殖機能が障害された際の疾患の病態、主要症状、検査、治療方法、予後について学ぶ。本授業では、女性生殖器疾患の病態と治療及び妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の生理的経過と正常からの逸脱状態、異常時の診断・治療について理解する。また、小児特有の発達と臨床所見の主要症状、検査、関連器官への影響、主な治療方法と効果、予後について理解する。授業を通して、女性及び小児期の健康障害に関する基礎的知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(89 平林啓／5回)</p> <p>ライフサイクル各期の女性生殖器疾患の病態と治療(不妊治療を含む)、妊娠期分娩産褥期の生理と異常及び、産科手術、産科危機的出血に関して概説する。</p> <p>(92 立石浩／5回)</p> <p>新生児の生理と新生児期の健康障害と治療及び小児の呼吸器疾患、感染症、循環器疾患、腎疾患、消化器疾患、腫瘍疾患、血液疾患の病態と治療に関して概説する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目		(91 山本滋／1回) 乳腺外科疾患の病態と治療について概説する。 (90 市山高志／4回) 染色体異常・代謝異常、運動器/骨系統疾患及び脳神経系疾患の病態と治療について概説する。また、自閉スペクトラム症、子ども虐待等、小児期の精神・心理・社会的健康への影響に関して概説する。	オムニバス方式
	成人期疾病治療論	成人期にある人の代表的な疾患について学ぶ。本授業では、疾患に罹患した対象者の症状を正しく理解するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療及び予防に関して理解する。本授業を通して、患者の疾患の病態生理、症状、診断、治療に関する科学的根拠に基づく基礎的知識を修得するとともに、疾患が生活に及ぼす影響や生活が疾患に及ぼす影響を考慮して看護を行う基礎的知識を身につける。 (オムニバス方式 全15回) (48 尾形 聡／6回) 病気とは、病気の原因、疾病からの回復過程、細胞および生体の障害、診断方法について概説する。また呼吸器疾患、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、末梢神経系疾患、感覚器疾患、皮膚疾患、腎・泌尿器疾患の病態と診断、治療に関して概説する。 (99 池田 安宏／1回) 心血管系の疾患の病態及び診断・治療及び血圧異常の病態及び診断・治療に関して概説する。 (94 池永 茂／1回) 心血管系の疾患および血圧異常に関する病態、診断及び治療に関して概説する。 (32 高田 隆／1回) 口腔・咽頭疾患の病態、診断及び治療に関して概説する。 (95 河岡 徹／1回) 消化器系疾患の病態、診断及び治療に関して概説する。 (98 松谷 朗／1回) 内分泌・代謝性疾患の病態、診断および治療に関して概説する。 (96 山下 浩司／2回) 血液・造血器疾患及び感染性疾患の病態、診断および治療に関して概説する。 (93 原田 有彦／1回) 中枢神経系疾患の病態、診断および治療にして概説する。 (97 加茂 健太／1回) 運動器疾患の病態、診断および治療に関して概説する。	オムニバス方式
	高齢期疾病治療論	高齢期にある人の代表的な疾患について学ぶ。本授業では、疾患に罹患した対象者の症状を正しく理解するために、各疾患の病因、病態生理、病理、症状、検査、診断、治療及び予防に関して理解する。授業を通して、患者の疾患の病態生理、症状、診断、治療に関する科学的根拠に基づく基礎的知識を修得するとともに、高齢者の生理的特徴や疾患が生活に及ぼす影響や生活が疾患に及ぼす影響を考慮して看護を行う基礎的能力を身につける。 (オムニバス方式全8回) (48 尾形 聡／5回) 高齢者の健康及び疾病の特徴、高齢者医療の課題、高齢者の生活機能の評価、高齢者の呼吸・循環器機能、腎・排泄・性機能、認知機能、神経・感覚機能の特徴及び、呼吸・循環器系患、血液疾患、自己免疫疾患、感染症、腎・泌尿器疾患の診断、治療に関するがいせつする。 (97 加茂 健太／1回) 高齢者の運動器系の生理的特徴と運動器疾患の診断、治療に関して概説する。 (98 松谷 朗／1回) 高齢者の内分泌・代謝機能の生理的特徴及び内分泌・代謝疾患の診断、治療に関して概説する。 (100 岡原 仁志／1回) 高齢者、病気やエンドオブライフにある人と家族に対する地域医療のあり方に関して概説する。	オムニバス方式

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	精神疾病治療論	本授業では、精神を病む経験、精神疾患・障害の分類およびそれらの成因、臨床症状、治療方法等について系統的に理解する。授業を通して、こころの病をもつ人々の精神的・心理的回復を支援するために必要な、精神疾患の臨床症状、診断、治療に関する科学的根拠に基づく基礎的知識を修得するとともに、疾患が生活に及ぼす影響や生活が疾患に及ぼす影響を考慮して看護を行う基礎的能力を身につける。	
	安全な患者介助	超高齢社会において日常生活に介助を必要とする高齢者数が増加し、看護職や介護職が患者介助に関わる時間が今後ますます増大する。本授業では、介助においては介助姿勢を整えること、福祉用具を活用することにより看護職や介護職の腰痛などを予防でき、かつ患者（対象者）の安全にもつながることを学ぶ。本授業を通して、安全な患者介助としてスライディングシートやリフトなどの福祉用具を活用した体位変換や車いすへの移乗などを体験し、看護師・患者（対象者）の双方にとって身体的・精神的負担が軽減する安全な介助の方法に関する知識と方法を身につける。	
	コミュニケーションスキル	これまでの生活場面や看護学実習等を通して、自分自身のコミュニケーションの特徴を振り返り、3年後期からの実習に向けて必要なコミュニケーションスキルについて学修する。 本授業では、個人ワークおよびグループワークを通して、自分自身のコミュニケーションの特徴を理解し、さらに今後の実習場面で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。  (オムニバス方式/全8回)  ① 羽生貞親/2回  対人コミュニケーションの仕組みと技法を概説し、自身のコミュニケーションスキルの状況を個人ワークにて把握する。  ② 大達亮/2回  効果的なコミュニケーションスキル、コミュニケーションエラーを引き起こす医療事故について概説する。  ① 羽生貞親・② 大達亮/4回) (共同)  自身のコミュニケーションスキルの状況に関するグループワークおよび、コミュニケーションエラーが引き起こす医療事故、倫理的課題について考察する。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	臨床遺伝学	遺伝医療やゲノム医療は、対象者とその家族の人生に関わる分野である。本授業ではがん遺伝子検査、出生前診断、神経難病などをはじめとする、あらゆる看護分野で看護職者としての役割を果たすために必要な遺伝医療やゲノム医療の基本を学ぶ。本授業では、人類遺伝学や遺伝子診断・治療に関する知識、遺伝医療に伴う倫理的・法的・社会的課題について理解する。本授業を通して、看護師として必要な遺伝情報、疾病の成り立ちと遺伝情報、家族歴と家系図、遺伝カウンセリング及び遺伝医療やゲノム医療の特性に関する基礎的知識を身につける。  (オムニバス方式/全8回)  (103 武藤 正彦/3回)  細胞の構造、ゲノム、多様性・継承性ゲノム、DNAなど人体の成り立ちと遺伝情報及び家族歴聴取、家系図作成とその評価に関する知識を修得する。  (102 山縣 芳朗/3回)  単一遺伝子疾患、多因子遺伝子疾患、染色体異常・出生前診断・先天奇形に関する遺伝カウンセリング、遺伝医療、ゲノム医療と関係職種・機関の連携協働に関する知識を修得する。  (104 二家本 優子/1回)  遺伝医療サービスと倫理的・法的・社会的問題への対応に関する知識を修得する  (105 大下 真美/1回)  現代社会における遺伝に関わる倫理的課題を考察する。	オムニバス方式

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	健康まちづくり論	<p>本科目は地域が住みやすい環境になるのために、健康に着目したまちづくりを行うことで対応すべき地域課題の解決に向けた考え方や政策手段について、事例を交えながら学修する。</p> <p>健康まちづくりは、国の健康政策を基本としながら、地域住民の健康を維持することができる地域コンテンツを見つけて福祉的ソーシャルキャピタルを活かすことが求められる。その中には、老人クラブや地域包括支援システムや地域自治組織が健康を作るコミュニティの核となることを検討する。</p> <p>まちづくりにかかわる基本概念と用語を理解し、身近な問題としてとらえるようになるとともに、地域づくしシステムを構築し多業種連携や地域連携を通して地域の福祉人材育成をすることにより、地域住民とともにまちづくりに関わることの必要性を理解し、自らが健康まちづくりに関わる力とは何かを修得する。</p>	
専門 基礎 科目	看護学概論	<p>これから学ぶ看護学へのイントロダクションとして、看護とは何かを考え、看護の本質とその役割の重要性を学ぶ科目である。看護の主要概念である「看護」、「人間」、「健康」、「環境」、看護の提供者及び看護提供の仕組みについて理解する。本授業を通して、人間、健康の捉え方、人間と環境が相互に影響しあうこと、看護職と法的根拠、看護提供の場や仕組みに関する基礎的知識を身につける。</p> <p>授業では、提示された課題について自己学習し、グループで討議しクラス全体で発表する機会を設ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 杉本吉恵/11回)</p> <p>看護とは、看護の定義を説明し、看護の本質としてナイチンゲールの看護覚え書きを、を活用し、ヘンダーソンの看護の基本となるものを用いて、看護の主要概念(人間、健康、環境)について考える。</p> <p>(3 上野和美/4回)</p> <p>看護の提供者(看護師 助産師 保健師)について理解を深め、看護職者の継続教育とキャリア開発、看護サービスの提供の場、多職種連携とチーム医療、看護をめぐる制度と政策、わが国における看護職の歴史と将来展望について概説する。</p>	オムニバス方式
専門 科目	基礎看護分野 科目	コミュニケーション論	
	基礎看護技術 I (日常生活援助)	<p>よりよい看護を実践するためには、患者との良好な人間関係の構築が前提となる。そのため、この科目では患者との人間関係の構築に必要な看護師のコミュニケーションの基本技術を学ぶ。効果的なコミュニケーションに必要な基本的態度・行動、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、傾聴や共感の技術、情報収集や説明の技術、アサーティブ行動、保健医療チームにおける看護師の役割とコミュニケーション、患者・医療者関係、患者・看護師関係について理解する。本授業を通して、患者との人間関係の構築に必要な看護師のコミュニケーションの基本技術を身につける。</p> <p>本授業では、生活者である「人間」にとっての日常生活行動の意味を理解するとともに、健康に問題をもつ対象への日常生活援助技術について学ぶ。本授業を通して、日常生活を支援する看護実践に必要な技術について、その根拠と方法を理解できる。本授業を通して、患者役・看護師役それぞれを経験することで、コミュニケーションの重要性や人間関係構築の手段、人間の尊厳とその尊重についての理解を深めるとともに、日常生活援助技術の根拠・留意点や安全・安楽に配慮した援助方法を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(14 藤井宝恵/全9回)</p> <p>看護実践における看護技術として、対象者の安全を守る援助技術、環境を整える援助技術、苦痛緩和・安楽確保の援助技術、観察の技術、食事の援助技術、活動・休息の援助技術、清潔の援助技術を修得する。</p> <p>(14 藤井宝恵・2 杉本吉恵・3 上野和美・13 堂本司・18 福森絢子・29 磯濱真理子/21回) (共同)</p> <p>対象者の安全を守る援助技術、環境を整える援助技術、苦痛緩和・安楽確保の援助技術、観察の技術、活動・休息の援助技術、清潔の援助技術についての演習をグループを編成し、日常生活援助技術を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  基 礎 看 護 分 野 科 目	基礎看護技術Ⅱ (診療に伴う技術)	<p>高度化する治療・検査における診療の補助に対応するための基本的知識や技術を学ぶ。本授業を通して処置・与薬、検査などに対応した診療における対象者とのコミュニケーションの重要性を理解するとともに、看護師の役割と安全・安楽な診療の補助技術について理解する。本授業では演習を通して、看護師、患者、観察者の役割体験を通して、対象者を尊重する態度、安全・安楽な診療の補助技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(13 堂本司/10回)</p> <p>高度化する治療・検査に伴う診療の補助技術、感染防止の技術、排泄援助技術、創傷管理技術、呼吸・循環を整える技術、経管栄養法、与薬、診察・検査・処置に関する技術を修得する。</p> <p>(14 藤井宝恵・2 杉本吉恵・3 上野和美・13 堂本司・18 福森絢子・29 磯濱真理子/20回) (共同)</p> <p>感染防止の技術、排泄援助技術、創傷管理技術、呼吸・循環を整える技術、経管栄養法、与薬、診察・検査・処置に関する技術についての演習をグループを編成し診療の補助技術を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	ヘルスアセスメント	<p>本授業では 系統別アセスメント、身体・心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実践について学ぶ。本授業を通してヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、全身および系統別フィジカルアセスメントの基本を理解する。本授業を通して、人体の形態機能を踏まえて、フィジカルイグザミネーションを正確に実施し、実際のケアに結びつけるための知識・技術・態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 福森絢子/8回)</p> <p>看護におけるヘルスアセスメントの意義と目的、フィジカルアセスメントの方法に関する基礎的知識に関する講義を行う。また、呼吸器系・循環器系・腹部・脳・神経系・筋・骨格系・乳房と腋窩及び心理社会状態のアセスメントに必要な基礎的知識、技術態度を修得する。</p> <p>(14 藤井宝恵・2 杉本吉恵・3 上野和美・15 堂本司・18 福森絢子・29 磯濱真理子/7回) (共同)</p> <p>呼吸器系・循環器系・腹部・脳・神経系・筋・骨格系・乳房と腋下および心理社会状態のアセスメントについて講義内容を想起させ、グループを編成しヘルスアセスメントを修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	看護過程	<p>本授業では対象者の全体像や看護問題を明確にし、問題解決に向けた看護過程の一連のプロセスを学ぶ。本授業を通して、看護過程の意義や目的及びヘンダーソンの看護理論を活用し、展開の思考プロセスを理解する。本授業を通して、紙上事例を用いて看護過程を展開し、今後の実習に向けて、看護過程を展開するための基礎となる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 堂本司/7回)</p> <p>ヘンダーソンの看護理論を用い、看護過程の概要、構成要素、構成要素の各段階(アセスメント、全体像、看護診断、看護計画の立案、計画の実施、実施評価、計画修正)を理解する。</p> <p>(14 藤井宝恵・2 杉本吉恵・3 上野和美・15 堂本司・18 福森絢子・29 磯濱真理子/8回) (共同)</p> <p>看護過程の構成要素及び構成要素の各段階(アセスメント、全体像、看護診断、看護計画の立案、計画の実施、実施評価、計画修正)について個人ワーク、グループワークを活用しながら看護過程を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
看護倫理	<p>医療の場で生じる看護倫理に関する基礎知識と問題解決のためのアプローチ及び医療チームにおける看護専門性を生かした倫理的な対応について学ぶ。本授業では、複雑化する医療の中で生じる様々な倫理的問題と問題へのアプローチについての基礎知識を理解する。本授業を通して、現代社会の倫理的問題について思考し、他者とディスカッションすることを通して論理的思考能力を身につける。</p>		

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎看護分野科目	看護管理学	本授業では医療の質向上・効率化を目指したチーム医療、多職種連携・協働の中で看護管理を行う上での必要な理論・制度、看護サービスの特徴、質評価と改善、サービス提供のためのマネジメントスキル、チーム医療やリーダーシップ・フォローシップの基本について学ぶ。本授業を通して、看護管理に関する基礎的知識やマネジメント理論・制度、看護サービスの質評価と質保証、看護職とキャリア、看護と経営・看護活動を取り巻く法律・制度の基本を理解する。本授業を通して、安全で質の高い看護サービスを提供するために必要な知識・技術を身につける。	
	セクシュアルリプロダクティブ看護学概論	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツは性別を問わず全ての人の生涯にわたる性と生殖に関する健康に関わる概念である。本授業では、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を基盤とした全ての人の性と生殖に関する健康の維持・増進・疾病予防及び健康の回復を支援するための主要な理論、概念及び支援の在り方と看護の役割について学ぶ。本授業を通して、セクシュアル・リプロダクティブ看護の目的、対象、性と生殖の健康の維持・増進、疾病予防及び健康の回復支援の在り方、看護の役割及び責務を理解する。本授業を通して、セクシュアル・リプロダクティブ看護の目的、対象、支援に必要な基礎的知識を身につけるとともに、セクシュアル・リプロダクティブ看護領域の健康に関する課題と支援について考察する能力を身につける。	
専門科目	セクシュアルリプロダクティブ看護方法	<p>本授業では、ライフサイクル各期のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とした健康の課題や強みに焦点を当て、対象者がより健康な生活を送るための支援を学ぶ。本授業を通して、ライフサイクル各期のセクシュアリティの多様性を踏まえたセクシュアル・リプロダクティブ看護に必要な基礎知識を理解する。また、女性のライフサイクルの中で、マタニティサイクルにある対象者の生理的、心理・社会的変化と生活への適応、健康逸脱時の看護援助を理解する。周産期の女性と子ども、そのパートナーを中心とした家族の健康とその課題に焦点を当て、対象がより健康な生活を送るための支援を学ぶ。対象の生理的、心理・社会的変化と生活への適応、健康逸脱時の看護援助を理解する。本授業を通して、心身の変化や新しい親子・家族関係が生じることによる役割の変化に適応していく過程を既習の看護実践の基盤となる理論や概念を活用し、科学的根拠に基づく看護方法の基礎的知識・技術及び態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(12 渡邊淳子/13回)</p> <p>セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ (SRHR) における、包括的教育、プレコンセプションケアに関する支援方法を修得する。また、マタニティサイクルの看護過程の特徴、ハイリスク妊婦と家族のアセスメントと看護、産婦と胎児のアセスメントと看護、産婦と家族の心理社会的特徴と看護、帝王切開における看護、新生児の子宮外生活適応のアセスメントと看護、ペリネイタルロスを経験した親・家族の支援、心理社会的に特別な配慮が必要な親子・家族の支援の方法を修得する。</p> <p>(1 大平光子/7回)</p> <p>SRHRにおけるセクシュアリティの発達と課題、中絶ケア、不妊治療を受けるカップルのケア、更年期の心身の変化と健康増進、親密な関係における暴力及び子ども虐待予防、産後ケア・子育て世代包括支援、育児支援、育児に関する社会資源活用に関する支援の方法を修得する。</p> <p>(23 百田由希子/5回)</p> <p>妊婦と胎児のアセスメントと看護、妊娠期の親子・家族になっていく過程のアセスメントと看護、産褥期のアセスメントと看護、母乳育児支援、親子関係形成の支援の方法を修得する。</p> <p>(12 渡邊淳子、23 百田由希子、1 大平光子/5回) (共同)</p> <p>事例に基づくケアシミュレーションを行い、妊婦・胎児のアセスメントと看護、産婦・胎児のアセスメントと看護、新生児のアセスメントと看護、褥婦のアセスメントと看護、母乳育児支援の方法を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
生涯発達看護分野科目			

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  生 涯 発 達 看 護 分 野 科 目	セクシュアルリプロダクティブ 看護実践	<p>本授業では、セクシュアルリプロダクティブ看護学概論及び看護方法で学んだ知識、技術を活用して実践的看護展開を模擬妊産婦と家族（妊娠期から産褥期の継続した事例）及び生体シミュレーターを通して学ぶ。本授業を通して、マタニティサイクルにある対象者の心身の変化及び新しい親子・家族関係が生じることによる役割変化に適応していく過程を支援する根拠に基づく個別的かつ対象者に最適な看護行う方法を理解する。本授業では、実践的な看護過程のシミュレーションを通して、マタニティサイクルにある対象者の心身の変化及び新しい親子・家族に対する個別的で最適な看護実践に必要な知識、技術、態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 百田由希子/4回)</p> <p>既習の知識・技術・態度を活用して、妊娠期、産褥期の看護に必要な情報収集・分析の方法を修得する。また、分娩期の女性と家族の看護の実態を理解する。</p> <p>(12 渡邊淳子、23 百田由希子、1 大平光子/11回) (共同)</p> <p>既習の知識・技術・態度を活用して妊娠期、産褥期及び新生児期の女性・胎児・子どもと家族の看護の方法を、リアルなシナリオに基づく看護過程の展開、ケアシミュレーション、看護の振り返りに関する演習によって修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	小児看護学概論	<p>子ども期の成長・発達における形態的、機能的、精神運動発達を理解し、代表的な発達理論から発達段階に応じた生活の援助について学修する。</p> <p>本授業を通して、小児看護の歴史の変遷、子どもの成長発達と小児看護の機能と役割及び子どもの健康を維持するための理論、小児保健行政の動向と対策、小児保健活動の実践について理解する。本授業を通して、小児各期の成長・発達及び発達課題と発達段階に応じた生活の援助、小児の保健衛生統計、小児保健行政の同行と対策、小児保健活動の実践に関する基礎的知識を身につける。</p>	
	小児看護方法	<p>本授業では小児期特有の健康問題や疾病や障がいをもつ子どもと家族へ看護について学ぶ。本授業を通して、小児期に特有の健康問題を理解する。本授業を通して、疾病や入院が子どもと家庭に及ぼす影響を考え、家庭や地域社会の背景をふまえ、子どもの最善の利益となるケアを実践するための基本的な方法を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 井上みゆき/13回)</p> <p>健康問題・障害が子どもと家族に与える影響、子どもによくみられる主な症状別の看護、子どもに多い不慮の事故と予防、子どもの安全、子どもの死の概念の発達とEnd of Lifeケア、子どもらしく生活するケアの協働意思決定支援、周手術期及びNICUに入院する子どもと家族への看護を修得する。</p> <p>(7 山本八千代/10回)</p> <p>急性期・慢性期にある子どもと家族への看護、心身障害のある子どもと家族への看護、子どもの虐待と看護の役割、意思決定支援のための心理的支援の方法を修得する。</p> <p>(16 半田浩美/4回)</p> <p>子どもと家族からの情報収集、アセスメント、看護計画立案の過程を修得する。</p> <p>(7 山本八千代・8 井上みゆき・16 半田浩美/全3回) (共同)</p> <p>意思決定支援のための心理的支援、子どもと家族からの情報収集・アセスメントの実態を事例による看護計画の演習により修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)



**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生涯 発達 看護 分野 科目  専 門 科 目	小児看護実践	<p>本授業では小児看護技術、小児看護過程の展開を学ぶ。本授業を通して、小児と家族の成長・発達を支えるために必要な具体的看護ケアの方法、健康障がいのある子どもの日常生活援助の技術と、診療の補助に関わる技術の具体的方法を理解する。さらに、看護過程の展開を展開し、小児と家族のアセスメントと看護目標の設定、具体的看護の立案、評価方法を理解する。本授業を通して子どもの最善の権利を中心に置いた、小児と家族に対する具体的看護の方法、倫理的看護実践に必要な知識、技術、態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 半田浩美／4回)</p> <p>小児のバイタルサイン及び身体計測・発達の観察、日常生活援助技術、小児の蘇生、輸液管理の方法について修得する。</p> <p>(7 山本八千代／3回)</p> <p>小児の日常生活援助としての遊びの支援、侵襲を伴う治療・処置における支援、小児看護技術を修得する。</p> <p>(7 山本八千代・16 半田浩美／1回) (共同)</p> <p>小児看護技術に関する概要、看護過程を展開で用いる事例について理解する。</p> <p>(8 山本八千代・16 半田浩美・8 井上みゆき／7回) (共同)</p> <p>主な看護場面における小児の看護過程の展開を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	成人看護学概論	<p>本授業は成人期にある人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、それらの特徴を踏まえたうえで、健康に及ぼす要因、健康状態が生活や社会的役割に及ぼす影響について学ぶ。本授業では成人期にある人を理解するために必要な概念や理論について基礎的な知識を理解する。本授業を通して、多様化・複雑化する人々の生活課題と健康問題に対処していく看護の役割や機能とはどのようなものか、援助に必要な知識・技術・態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 岡田純也／8回)</p> <p>成人の成長発達、成人の生活を理解する視点、成人の学習の特徴、ワークライフバランスと健康、更年期の健康障害や痛みの軌跡モデル、自己効力理論、ヘルスプロモーションとこれらに関わる看護について理解する。</p> <p>(11 松浦純平／7回)</p> <p>成人の定義、成人の身体的特徴と看護、健康観の多様性、生活習慣に関連する健康障害、セクシャリティに関連する健康障害、セルフケア及びストレスとこれらに関わる看護について理解する。</p>	オムニバス方式
	成人看護方法	<p>本授業は成人看護学概論を基に、急性期、回復期、慢性期、エンドオブライフにある対象者と家族の看護方法を学ぶ。</p> <p>(急性期) 本授業では、急性期及びクリティカルな課程にある対象者の心身の特徴、治療、回復過程が円滑に進むための看護の役割と看護援助及び看護の基礎となる主要概念や理論について理解する。本授業を通して、急性期の健康障害に関する対象者の情報を多角的に分析、判断し、最新の科学的根拠に基づく看護援助を行う基礎的能力を身につける。</p> <p>(回復期・慢性期・エンドオブライフ) 本授業では慢性期・不可逆的健康課題を有する成人・家族に対する回復期、慢性期及びエンドオブライフにある成人・家族を生活者として全人的に理解し、その人らしい豊かな健康生活を支援する看護の基本的な考え方・理論や基礎的な知識を理解する。本授業を通して慢性期・不可逆的健康課題を有する成人・家族の看護方法及びエンドオブライフケアの看護方法の基礎的知識と対象者にとってのよりよい看護を追求する態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(17 中谷信江／12回)</p> <p>慢性期看護、慢性疾患を有する人とその家族を理解し、疾患を有する人と家族への支援について理解する。また、がん患者の意思決定支援、がん集学療法、エンドオブライフケア、緩和ケアについて概説し、慢性疾患、増悪と緩和を繰り返す疾患を有する人と家族及びリハビリを必要とする人と家族への支援の方法を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	生 涯 発 達 看 護 分 野 科 目	<p>(10 岡田純也／3回)</p> <p>生活機能障害のある人と家族の理解、リハビリテーション看護に関する概念・理論、慢性・不可逆的健康課題を有する人とその家族及びエンドオブライフにある人と家族の支援や社会資源活用について理解する。</p> <p>(22 渡邊多恵／10回)</p> <p>急性期看護の総論、がん患者、周術期にある患者の看護、循環器、消化器、脳・神経、運動及び排尿に関する機能障害を有する患者と家族に対する看護について理解する。</p> <p>(28 山田裕紀／2回)</p> <p>救急看護、集中治療を受ける患者の看護について理解する。</p> <p>(11 松浦純平／1回)</p> <p>呼吸機能障害のある患者の看護について理解する。</p> <p>(22 渡邊多恵・31 高橋登志枝・2回) (共同)</p> <p>循環機能障害がある患者への援助、消化・吸収機能に障害がある患者への援助を修得する。</p>	
		<p>成人急性期看護実践</p> <p>本授業は周術期にある対象者の看護過程の展開と的確な看護援助の修得を目的とする。本授業を通して、周術期にある対象者の心身の特徴、治療、看護の役割、主要概念や理論に基づいた看護実践について理解する。本授業を通して、周術期の健康障害に関する対象の情報を多角的に分析、判断し、最新のevidenceをもとに的確な看護過程を展開する基礎的能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(22 渡邊多恵／3回)</p> <p>講義ガイダンス、実技試験のシミュレーション、シミュレーター使用方法、周術期の看護展開の概要を理解し、周術期にある患者の看護過程の展開を修得する。</p> <p>(11 松浦純平、22 渡邊多恵、28 山田裕紀／12回) (共同)</p> <p>模擬事例を用いて周術期にある患者の看護過程展開及び看護援助の方法を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		<p>成人慢性期看護実践</p> <p>本授業は既習の知識を基に、慢性・不可逆的健康課題を有する成人・家族に対する回復期、慢性期の看護実践、エンドオブライフケアの看護実践を学ぶことを目的とする。本授業を通して、慢性・不可逆的健康課題を有する及びエンドオブライフにある成人・家族に対する看護方法の知識を基に、看護過程の演習を通して、援助関係を形成しながらその人らしい豊かな健康生活を支援する看護実践を理解する。本授業を通して、健康生活を支援する基礎的な看護実践力、チームの一員としてのコミュニケーション能力、課題解決に向けて探求、学習する態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(17 中谷信江／1回)</p> <p>ゴードンの機能的健康パターンについて理解する。</p> <p>(17 中谷信江・31 高橋登志枝／3回) (共同)</p> <p>慢性・不可逆的健康課題を有する人・家族のアセスメント及び看護実践に活用できる理論の振り返りにより、看護過程展開をする能力を修得する。</p> <p>(10 岡田純也・17 中谷信江・31 高橋登志枝・28 山田裕紀／1回) (共同)</p> <p>セルフモニタリング、セルフマネジメントの方法を修得する。</p> <p>(10 岡田純也・17 中谷信江・31 高橋登志枝／全10回) (共同)</p> <p>慢性・不可逆的健康課題を有する人・家族に対する看護過程を展開する能力を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	生涯 発 達 看 護 分 野 科 目	高齢者看護学概論	高齢者看護学の学問領域を学ぶにあたって、加齢の意味や加齢に関する諸理論、加齢の特徴や一人の生活者としての高齢者など、基本的な考え方を理解する。本授業を通して、高齢者を取り巻く社会の現状、社会的課題の把握、高齢期を生きる人の理解、超高齢社会を支える高齢者ケアシステム、老年看護学領域における倫理的課題と対応に関する知識を身につける。	
		高齢者看護方法	<p>本授業では高齢者特有の健康問題、正常な範囲内の加齢変化の過程を踏まえたうえで、健康に障害がある状態を総合的にアセスメントする必要性について理解する。本授業を通して、アセスメントの方法や考え方、それに基づく高齢者へのケアの基本的な方法を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(9 田淵啓二/26回)</p> <p>高齢者看護方法の学修内容と方法を理解し、高齢者の加齢変化とアセスメント、高齢者のヘルスアセスメントの基本、高齢者とのコミュニケーション・精神的安寧を保つためのケア、高齢者の皮膚のアセスメント、施設や自宅における看護、家族に対する看護の方法を修得する。また、様々な症状のアセスメントと看護、姿勢・運動系、転倒のアセスメント、廃用症候群、転倒身体疾患および摂食・嚥下障害のある高齢者、薬物療法・検査及び入院・手術を受ける高齢者の看護、リハビリテーションを受ける高齢者への援助、エンドオブライフケア、高齢者のセクシャリティ、高齢者の社会参加、高齢者の権利擁護に関する支援方法を」修得する。</p> <p>(21 辻麻由美/2回)</p> <p>認知機能障害のある高齢者の看護の方法を修得する。</p> <p>(9 田淵啓二・21 辻麻由美・27 加茂尚子/2回) (共同)</p> <p>高齢者体験により、高齢者に対する理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		高齢者看護実践	<p>高齢者のアセスメントの方法や考え方、それに基づく高齢者へのケアの方法を学ぶ。本授業を通して、高齢者がおかれている状況や健康に障害がある状態を総合的にアセスメントする必要性について、正常な範囲内の加齢変化の過程を踏まえて理解する。本授業を通して、高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かした支援方法、高齢者の生活背景を尊重した健康の回復、維持・向上に向けた看護を実践する能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 辻麻由美/9回)</p> <p>高齢者の排泄ケアの基本・陰部の保清、排尿障害・排便障害、食生活の援助に関する看護過程を展開する能力を修得する。</p> <p>(9 田淵啓二/2回)</p> <p>高齢者の口腔ケア、高齢者と医療安全、学生の実習におけるヒヤリハットに関して理解する。</p> <p>(9 田淵啓二・21 辻麻由美・27 加茂尚子/4回) (共同)</p> <p>高齢者の排泄のアセスメントとケア及び食事の援助に関する能力を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
広 域 看 護 分 野 科 目	地域・在宅看護概論	本授業は、地域の人々の尊厳と権利を守り、生活と健康を支援するために、地域・在宅看護の基本となる理念や機能を学ぶことを目的とする。本授業では、人々の生活の基盤となる地域の理解と、そこで実践される看護活動の歴史の変遷や今日的課題を理解する。併せて、住み慣れた地域で生活する人々の特徴の理解と、QOLの向上に携わる看護職の役割や協働的支援の基礎について、実践的事例等により理解する。本授業を通して、地域での生活と健康を支えるために多様な機関から提供されている支援の概観を踏まえた上で、地域・在宅看護の理念、機能、対象、地域における看護実践の変遷や基本的な知識を身につける。		

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 看 護 分 野 科 目	<p>地域・在宅支援論</p> <p>本授業は、地域・在宅看護にて重要な健康課題を理解し、対象者の状態に応じた根拠に基づく看護援助の方法と各健康課題からみた支援を学ぶことを目的とする。本授業では、慢性疾患管理、生活不活発病予防、介護予防、認知症や難病へのケア、エンド・オブ・ライフケアならびに専門的支援が必要な精神障害者、医療的ケア児、複雑困難事例に焦点をあて、地域・在宅看護における支援について理解する。また、各健康課題における在宅療養の移行期、安定期、急性増悪期、終末期など時期別の看護支援について理解する。本授業を通して地域・在宅看護において重要な健康課題を理解し、対象者の状態に応じた根拠に基づく看護援助の方法と各健康課題からみた支援の基本を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 家根明子／6回)</p> <p>授業のガイダンスを行い、地域・在宅看護に関する制度として介護保険制度、障害者支援制度について概説する。地域・在宅看護における家族支援、認知症への社会資源を活用した支援、医療的ケア児とその家族への支援、多重の健康課題を持つ療養者とその家族への看護について理解する。</p> <p>(24 久乗エミ／4回)</p> <p>地域・在宅看護に関する制度として医療保険制度、訪問看護の制度と機能、生活不活発病の予防と支援ケアマネジメントの展開、終末期にある療養者のエンド・オブ・ライフケアの理解と実際について理解する。</p> <p>(① 羽生貞親／1回)</p> <p>地域・在宅看護における精神障害者とその家族への支援について理解する。</p> <p>(5 家根明子・26 堀井利江／4回) (共同)</p> <p>地域・在宅看護におけるケアマネジメントの展開、慢性疾患を有する療養者の在宅移行に向けた支援、難病療養者とその家族への支援、介護予防・フレイルの予防に必要な看護と社会資源、難病療養者とその家族の支援実際について考察する。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>
		<p>地域包括支援論</p> <p>人々の暮らす地域の多様性を理解するとともに、住み慣れた地域での生活の継続を目指す地域包括支援について理解することを目的とする。本授業ではを通して、地域の特徴を理解する必要性と地域共生社会の構築に携わる多様な社会資源を基盤にした地域包括支援を理解する。本授業を通して、地域の実情に応じたケアシステムを構築するという地域・在宅看護の基盤となる考え方を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(5 家根明子／3回)</p> <p>本授業のガイダンスにより、地域包括ケアシステム構築の背景とそのプロセス及び地域包括ケアシステム構築への取り組み、地域包括支援における看護職の役割に関する考察を深める。</p> <p>(24 久乗エミ／1回)</p> <p>地域連携室の地域包括支援に関わる機関の役割と活動に関する知識を修得する。</p> <p>(5 家根明子・24 久乗エミ・26 堀井利江／3回) (共同)</p> <p>在宅療養者が暮らす地域の理解、地域共生社会の構築につながる住民と専門職の協働、地域の課題から考える看護実践について考察する。</p> <p>(5 家根明子・26 堀井利江／1回) (共同)</p> <p>地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の地域包括支援に関わる機関の役割と活動に関する知識を修得する。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同 (一部)</p>

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 看 護 分 野 科 目	地 域 ・ 在 宅 看 護 実 践	オ ム ニ バ ス 方 式 ・ 共 同 （ 一 部 ）
	精 神 看 護 学 概 論	精 神 看 護 の 基 本 概 念 を 理 解 し、 精 神 障 害 を 持 つ 個 人 と そ の 家 族 へ の 看 護 に 必 要 な 基 礎 的 知 識 お よ び 技 術 を 学 修 す る。 本 授 業 を 通 し て、 精 神 医 療 お よ び 看 護 の 変 遷 と 動 向、 精 神 看 護 を 実 践 す る 上 で 基 盤 と な る 人 間 関 係 論、 看 護 者 の 倫 理 お よ び 精 神 障 害 者 の 人 権 に 関 し て 理 解 す る。 本 授 業 を 通 し て、 精 神 看 護 に 必 要 な 理 論 や 基 礎 的 知 識、 技 術 を 身 に つ け る。  (オムニバス方式／全30回)  (5 家根明子／5回)  授業のガイダンスにより、療養者の特徴を踏まえ訪問することの意味と配慮、在宅への訪問時の留意点と行動、「生活者」である療養者や家族の捉え方、在宅療養者への看護過程を展開する能力を修得する。  (24 久乗エミ／3回)  摂食嚥下障害を有する療養者への食の援助、呼吸機能障害を持つ療養者への援助-人工呼吸療法を概説し、在宅療養者への効果的な保健指導の方法を修得する。  (5 家根明子・26 堀井利江／5回) (共同)  福祉用具を活用した運動機能障害を持つ療養者への移動及び清潔の援助、運動機能障害を持つ療養者への援助、長期臥床状態にある療養者への援助、慢性閉塞性肺疾患を持つ療養者、がんによる排泄障害を持つ療養者への支援の方法を修得する。  (5 家根明子・24 久乗エミ・26 堀井利江／17回) (共同)  演習により、運動機能障害を持つ療養者への援助、摂食嚥下障害を持つ療養者への援助、長期臥床状態にある療養者への援助、慢性閉塞性肺疾患を持つ療養者、がんによる排泄障害を持つ療養者への支援、対象者の価値観や強みを踏まえた療養計画、QOL向上とセルフケア実践を目指した療養計画を立案する能力を修得する。また、在宅療養者が暮らす地域での看護活動の展開及び看護活動の創造、生活の場で提供される支援に関する基礎的能力を修得し、看護職の役割について考察する。	オ ム ニ バ ス 方 式 ・ 共 同 （ 一 部 ）

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 看 護 分 野 科 目	<p>精神看護方法</p> <p>本授業では、精神看護学概論での学びを基に、精神障害を持つ個人とその家族への看護に必要な基礎的知識および技術について学修する。本授業を通して、対象の持つ看護上の問題をアセスメントし問題解決のための必要な援助について、セルフケアモデルを活用し、看護過程の展開に関して、その基本的な考え方および基本的な知識を理解する。本授業を通して、精神障害を持つ対象およびその家族への看護の基礎的知識、技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(① 羽生貞親／8回)</p> <p>精神看護における対象理解とアセスメント、セルフケア、薬物療法を受ける対象への看護、精神科リハビリテーション、を修得する。</p> <p>(② 大達亮／16回)</p> <p>種々の問題状況にある患者への対応、対象理解と治療を受ける対象への看護、精神障害者を取り巻く法制度、統合失調症、気分障害、不安障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害患者への看護および精神看護における家族支援の方法でんかん患者の看護及び地域精神保健福祉、精神科訪問看護について修得する。</p> <p>(① 羽生貞親・② 大達亮／6回) (共同)</p> <p>模擬事例の分析、統合失調症急性期、慢性期および回復期の看護の展開及び、気分障害、不安障害の看護過程に関する演習を共同で行う。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	統 合 分 野 科 目	<p>精神看護実践</p> <p>本授業では、精神看護学概論および精神看護方法での学びを基に、精神に障害を持つ個人およびその家族を対象として、必要な援助方法の実践について、学内演習を通して学修する。本授業を通して、対象の持つ看護上の問題を解決するために必要な援助の実践について、看護援助の演習を通して理解する。また、精神科領域における多職種間の連携について理解する。本授業を通して、さまざまな対象の持つ看護上の問題を解決するために必要な援助方法に関して、シミュレーションを通して身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 羽生貞親／3回)</p> <p>精神看護実践の概要、自殺の現状と対策について理解する。</p> <p>(② 大達亮／2回)</p> <p>精神領域の地域における多職種協働の実際を理解する。</p> <p>(① 羽生貞親・② 大達亮／10回) (共同)</p> <p>精神疾患患者へのコミュニケーション、生活援助、幻覚妄想、拒薬への援助、治療的技術 (SST)、精神科訪問看護技術を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	統 合 分 野 科 目	<p>災害看護論</p> <p>看護職が予期しない出来事による生命や生活の脅威に対して立ち向かうべき課題の1つが災害看護である。本授業では、災害によりもたらす人間の生活や社会、健康にどのような影響を及ぼすのか現象や事象を通して考え、災害から人々の生命・健康・生活を守るために必要な看護支援と看護の役割について理解する。本授業を通して、災害前から中・長期にわたる看護支援活動に必要な知識、技術及び国内外の災害に対し災害看護支援者として看護実践を行う基礎的能力を身につける。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	統 合 分 野 科 目	へき地・地域医療	住み慣れた地域に暮らすの住民のヘルスプロモーションの向上、疾病や障がいを持ちながらその地域内で生活を継続し保健医療を完結させるためには、地域内の関係機関との連携、他業種を含めたチームネットワークが不可欠である。特に保健・医療・福祉のアクセスに一定の制限のある離島へき地などでは、そこに暮らし続けるために、関係者間のつながりを強め、限られた社会資源を最大限活用することが重要である。本授業では、疾病や障がいの有無にかかわらず住民の生活機能の課題や強みを理解し、ICTを用いた情報共有も含め、ヘルスプロモーション、疾病の早期発見、疾病や障がいがある人々の生活機能の再建、QOL向上、well-beingの実現に向け、地域の特徴を踏まえた保健医療福祉チームの連携、地域のニーズに即したチームネットワーク、チームアプローチの在り方を理解する。本授業ではへき地・地域医療などの事例を通じて、地域や住民の生活の特徴を踏まえた「地域共生社会」の実現に向けた支援に必要な基礎的知識及び保健医療福祉チームの連携、チームアプローチに関する基礎的知識を身につける。	
		多職種連携	<p>本授業は、保健・医療・福祉における対象者を中心とした多職種連携を実践するための基礎的知識とスキルの修得を目的とする。本授業では、多職種連携の概要と実際、多職種連携に関わる専門職の役割、看護専門職として多職種連携に必要なスキルを学理解する。本授業を通して、保健・医療・福祉それぞれの場面において、対象者及び家族の意思、他の専門職を尊重し合いながら連携するための基礎的能力を身につける。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(16 半田 浩美／3回)</p> <p>多職種連携協働の概要、保健・医療・福祉チームの専門職の役割と成長過程、チームアプローチの構造と対応について理解する。</p> <p>(22 渡邊 多恵／3回)</p> <p>多職種連携の実際、多職種連携に必要なコミュニケーション、多職種連携の実践方法について理解する。</p> <p>(16 半田 浩美・22 渡邊 多恵、1 大平光子／全9回) (共同)</p> <p>入院時、入院中の急変時、退院調整及び地域医療、地域包括支援システムにおける多職種連携のシミュレーションを通して、多職種連携のための基礎的知識・技術・態度を修得する。災害時のシミュレーションにより、多職種連携に関して考察する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		研究方法論	<p>看護現象を客観的に捉え、その中に存在する疑問あるいは問題を科学的に探求する能力を養い、看護現象を探求し、看護の質を向上させるための看護研究方法論の基礎を学ぶ。本授業を通して、研究の基本的プロセス、量的研究、質的研究、研究課題の明確化のプロセス、社会の動向を踏まえた文献検討の方法を理解する。本授業を通して、文献検討のスキル、研究的な視点及び態度を身につける。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(8 井上 みゆき／1回)</p> <p>研究の概念と基本的ステップの知識、技術、態度を理解する。</p> <p>(12 渡邊 淳子／3回)</p> <p>質的研究方法の基礎的知識を修得する。</p> <p>(5 家根 明子／3回)</p> <p>文献研究の方法やアクションリサーチ、研究テーマの絞り込み、文献レビューとその目的について理解する。</p> <p>(9 田淵 啓二／3回)</p> <p>量的研究方法の基礎的知識を修得する。</p> <p>(8 井上 みゆき、12 渡邊 淳子、5 家根 明子、9 田淵 啓二／5回) (共同)</p> <p>文献検討の基礎知識を理解し、文献検討の方法及び文献検討の成果をプレゼンテーションする基礎的能力を修得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	卒業研究	本授業では、研究方法論での学修を基盤とし、自身が関心を持つ看護学領域における課題・問題を発見し、課題解決のために取り組む方法及び看護学が社会に貢献していくための方法を見出す過程を学ぶ。 本授業を通して、研究課題や問題発見のプロセス、課題解決のための研究計画立案、研究計画の遂行及び研究成果を他者に伝えるようにまとめて発表する一連の研究活動のプロセスを理解する。また、看護学における研究の重要性と意義を理解する。本授業を通して、看護専門職者として生涯にわたる継続的かつ主体的に学習する能力及び自己の学習方法を修得する。	共同
	家族看護学	家族看護とは家族の健康を支援することを目標とした看護職者による実践である。本授業では、健康な家族のあり方、家族生活に健康的な変化をもたらす実践について、家族看護過程の基礎を理解する。本授業を通して、看護の対象としての家族の捉え方、発達する家族の家族、システムとしての家族、家族像の形成に関する基礎的知識と家族看護過程の展開に必要な考え方や理論の基礎を身につける。  (オムニバス形式／全8回)  (107 山崎あけみ／5回)  家族の理解、家族看護実践の代表的な家族理論を理解する。  (108 津村明美／3回)  成人期のがん患者と家族への看護、コミュニティにおいて多職種で展開する家族看護実践について理解する。	オムニバス方式
	国際保健	国際協力活動に参加する看護職は増え続け、また、在日外国人および訪日外国人数は急増し、医療機関での外国人対応の必要性が高まっている。本授業では、持続可能な開発目標 (SDGs) を念頭に置きながら国際保健・看護及び国際協力の組織や機能、多様な文化背景をもつ人々の支援について理解する。本授業を通して、国際保健、国際看護に関する基礎的知識を修得し、国際社会における健康課題と戦略において今後、看護職に求められる役割や責任、貢献について探究する能力を身につける。	
	看護政策論	看護に関わる政策や制度などについて、現代の課題を明確にししながら概要を学ぶ。本授業を通して、制度が創られてきた政策過程や制度の現状及び課題を理解する、本授業を通して、看護に関わる政策や制度に関する知識および政策的な思考過程を修得する。	
	看護教育	看護学教育とは何かを明確にし、その目的を達成するための看護教育制度の現状と課題を理解する。また看護教育方法の基礎的な考え方を学び、看護学への教育的関心を高め、自身が成長するために必要な力について分析する。さらに日本の看護教育制度について、看護教育の歴史、諸外国の看護教育制度からその特徴と課題について考察する。	
	医療経済学	保健医療システムをサービスの市場としても理解するうえでは、医療や看護サービスを経済的側面から評価する視点が必要である。本授業では、保健医療において、経済評価を行う上での医療経済学の理論や枠組みを知り、医療保険、医療・看護サービスの経済的な分析の視点や方法を理解する。本授業を通して、医療・看護サービスを経済学的な視点で考察する能力を身につける。	
	well-being実習 I (地域の成人・高齢者)	本実習は、職域や地域で活動する成人期・高齢期の人びととのふれあいを通して、生活者としての人間を知り、生活者の健康の捉え方や健康と環境について考えることを目的とする。本実習では、職域やコミュニティでの活動の場で成人期・高齢期にある人びとのふれあいを通して、就労やコミュニティでの活動、生活及び健康の捉え方を知る。本実習を通して、地域に暮らす人々がその人らしく豊かに生きるとはどのようなことか、また、看護の対象者を生活者として捉える視点を身につける。	共同



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目  専門科目	well-being実習Ⅱ (地域の幼児・学童期)	本実習で保育園・学童クラブでの子どもとのふれあいを通して、生活者としての子どもを知り、子どもの生活、子どもが生活する環境と健康について考えることを目的とする。本実習を通して、保育園や学童クラブでの子どもの遊びや生活の観察や子ども及び子どもの周囲の人とのふれあいを通して、子どもの生活の実際(遊びを含む)を知る。本実習を通して、一人ひとりの子どもが、その子らしく豊かに生きることはどういうことか、また、看護の対象者を生活者として捉える視点を身につける。	共同
	well-being実習Ⅲ (地域の健康課題)	本実習は、既習の知識・技術を統合し、地域に暮らす人びとの健康にかかわる場の実習を通して、生活者の健康を総合的に捉え、地域の特徴も含めて個々の生活者の強みと健康課題を見出し、あらゆる健康状態にある人びとが、生涯その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護実践活動について学ぶ。本実習を通して、地域や住民の生活の特徴を踏まえた、生活者の健康を地域の健康課題や強みを基盤として理解する方法、個人及び地域のヘルスプロモーション、住民が住み慣れた地域で生活を継続し保健医療を受けるための、地域内の関係機関との連携・他業種を含めた連携協働の必要性を体験的に理解する。本実習を通して、地域や住民の生活の特徴を踏まえて、地域の健康の強みや課題を見出し、地域の住民、関係機関及び多職種・他業種との連携協働により、地域住民が生涯その人らしくより豊かに生きる力を引きだす看護活動に必要な基礎的能力を身につけ、地域及び地域住民のwell-beingにおける看護の役割や機能について考察する。	共同
	基礎看護実習Ⅰ	本実習では、看護のメタパラダイム(人間、環境、健康、看護)への理解を深めることを目指す。 看護の対象の療養生活の場である環境(病棟・外来・他の部門)の特徴と機能を知る。 病院内での看護活動に参加して、看護の対象や環境を理解し、臨床現場における看護実践の実際を学ぶ。 対象に向き合う看護者としてのコミュニケーションのあり方を学び、看護の対象に対する人間理解を深める。	共同
	基礎看護実習Ⅱ	講義や演習で学んだ理論や専門知識や技術を基に、病院で療養生活を送る患者に対してヘンダーソンの理論を活用し、基本的ニーズの充足を焦点に、科学的根拠に基づいた系統的看護過程を展開し適切な日常生活援助を実践する。実際の援助体験を通して、対人関係の成立、対象を全人的に捉える視点、健康上のニーズの把握とその解決のプロセスの重要性、理論と実践の統合を意識しながら、看護実践能力の基礎を培う。病院において、1名の患者を受け持ち、患者の日常生活援助を主とした看護過程の展開を行う。あわせて看護職に必要となる態度を養う。	共同
	地域・在宅看護実習	本授業は、療養者と家族が暮らす地域や生活の場で行われる看護の実際を通して、在宅療養者のwell-beingを考えると共に、地域・在宅看護の特徴と看護職が果たす役割の理解を目的とする。本授業では、訪問看護ステーション・地域包括支援センター・地域連携室にて実習を行う。訪問看護ステーションでは受持ち療養者への訪問を通して療養計画の展開と基礎的な看護技術を修得する。地域包括支援センターや地域連携室では看護師や他の専門職に同行し、相談・訪問・事業を通して、対象の様々なニーズを踏まえた看護職等の支援を学ぶ。本授業を通して、療養者と家族が暮らす地域や生活の場で行われる看護の実際から、地域・在宅看護の特徴と看護職の役割を理解し、地域・在宅看護実践における基礎的能力を身につける。	共同
	成人急性期看護実習	急性期・周術期の状況にある成人期の患者・家族の手術侵襲による急激な変化及び治療が対象者に及ぼす状況を身体的・心理的・社会的側面から包括的かつ全人的に捉え、手術侵襲による生体反応や危機的状況から回復へ至る対象者の過程の特徴に応じた看護を実践する能力を修得する。また、入院時の段階から退院後の生活を見据えた継続看護の重要性を理解して退院支援を実践する能力を養う。	共同
	成人慢性期看護実習	本授業は、慢性的な健康問題をもつ成人期の患者を受け持ち、その疾病・治療過程を踏まえながら患者の全人的理解に努め、健康レベルに応じた看護過程を展開しながら、その人らしい生活を送るための看護について学ぶ。本授業では慢性的な健康問題をもつ成人期にある患者や家族の生活の再構築に向けた支援方法を目指した看護を理解する。本授業を通して、対象者とその家族が慢性疾患とともに生きることを支えるための看護の在り方や他の保健医療福祉チームと協働し、対象の快適な療養生活に向けての援助を学ぶために必要な基礎的能力を身につける。	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	高齢者看護実習	本授業は、介護保険の施設サービスを利用している高齢者と関わり、疾病を持って生活している高齢者とその家族への看護ケア実践に必要な知識や態度・技術を統合的に身につける。現場で実施されている看護を学び、高齢者のための国連原則（自立、参加、ケア、自己実現、尊厳）を基盤とし、高齢者のSOLを尊重し、QOLを高める看護と看護者の役割を理解する。	共同
	小児看護実習	小児病棟、小児科外来、子ども医療福祉センター、保育所において、成長過程にある小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について理解を深め、小児看護実践に必要な知識・技術・態度を身につける。子どもと家族への看護のための多職種連携を学び、小児チーム医療の看護師の役割を理解する。	共同
	母性看護実習	マタニティサイクルにある親子・家族を全人的に捉えウェルネスの視点を中心とした看護実践を学ぶ。本実習では対象者を身体的・心理的および生活状況から全人的に捉え、社会とのつながりの中で親になっていく過程及び次世代を育てる家族全体の力を引き出す看護実践過程を理解する。また、親・家族とともに次世代の育成をささえる地域社会における資源や地域社会の役割を理解する。本実習を通して、ウェルネスの視点で対象者を捉え、正常な経過を促進し、正常から逸脱することを予防する看護及び親になっていく過程に対する看護を実践する基礎的能力を修得する。	共同
	精神看護実習	本授業では、精神に障害を持つ人をひとりの人間として理解し、治療的な患者看護者関係を活用しながら、セルフケア拡大に向けた援助を展開する。受け持ち患者への援助や社会資源の見学を通して、精神看護のあり方や今後の課題について考察する。 本授業では、精神医療の現場で実際に行われている必要な援助について理解し、さらに援助の実践を通して、精神看護の実際と役割について理解する。 本授業を通して、これまでの講義や演習で学んだ知識・技術・態度を統合して、精神を病む対象への看護を実践する基礎能力を身につける。	共同
	統合実習	本実習では、個々の学生がこれまでの自身の学習到達度を評価し、自己の専門性および看護課題を追求するために選択した看護領域や分野において、自身でテーマを設定したうえで実習を行う。本実習を通して、看護が提供されるそれぞれの場の特徴や課題に応じて、既習の知識・技術を統合し、科学的根拠に基づく看護実践を追求する基礎的能力を身につける。また、看護者としての自覚を持って行動し、対象者とのパートナーシップ、チームアプローチを基盤とした保健医療福祉分野及び他業種との連携協働や看護の役割についての理解を深める。	共同
専門科目	公衆衛生看護学概論	地域で生活する人々の生命と暮らしをまもる公衆衛生看護の基本理念、活動の対象及び活動の場、活動の特性について学ぶ。公衆衛生看護活動の対象と人々の健康生活の保持増進、疾病予防、健康の回復のために必要な社会資源や制度について理解する。本授業を通して、保健・医療・福祉チームの一員としての看護職の役割と地域住民との協働に関する基礎的知識を身につける。  (オムニバス方式／全8回)  (4 鶴田来美／全5回)  公衆衛生看護の理念、公衆衛生看護の対象、公衆衛生看護活動の展開の基盤、公衆衛生の歴史、公衆衛生看護管理に関する知識を修得する。  (19 田川紀美子／全2回)  公衆衛生看護活動の場（職場・学校・その他）及び公衆衛生看護活動の展開方法に関する基礎的知識を修得する。  (25 木倉悠子／全1回)  公衆衛生看護活動の場（行政機関）に関する地域を修得する。	オムニバス方式
保健師課程科目			

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	保 健 師 課 程 科 目	<p>公衆衛生看護活動Ⅰ</p> <p>本授業では、地域で生活する人々の健康課題とその支援について学ぶ。本授業を通して、対象者の発達段階や健康レベルに応じた、健康状態を評価する能力を養う。さらに人々が健康課題を自主的に解決するための施策や社会資源の活用について理解する。本授業を通して、対象者の発達段階に応じた健康課題を支援する保健活動に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 鶴田来美／全3回)</p> <p>保健活動の変遷、対象者理解を含めた活動の特徴、高齢者の保健医療福祉と動向と健康課題と支援に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(19 田川紀美子／全6回)</p> <p>母子保健福祉医療の動向、子どもの健康課題と支援、成人保健福祉医療の動向、成人期の健康課題と支援、歯科保健、地域保健活動における保健師の役割に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(25 木倉悠子／全6回)</p> <p>精神保健医療福祉の動向、地域で暮らす精神疾患をもつ対象者の理解と支援、障がい者(児)、難病、感染症に対する保健活動に関する基礎的知識を修得する。</p>	オムニバス方式
		<p>公衆衛生看護活動Ⅱ</p> <p>産業保健は、行政・産業・学校を含む公衆衛生看護学を基盤とした、産業保健の1つの専門分野であり、学校保健は、学校を場とした公衆衛生看護活動の1つの専門分野である。</p> <p>本授業を通して、産業保健・学校保健それぞれの機能と活動内容及び、さまざまな健康課題を抱える対象者の健康の維持増進のための看護支援の方法について理解する。さらに、本授業を通して、それぞれの組織における産業保健師、養護教諭の役割についての基礎的知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 鶴田来美／全2回)</p> <p>産業や学校での公衆衛生看護活動の概要と看護活動に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(112 後藤慶／全4回)</p> <p>産業保健活動の理念と背景、労働衛生の現状と課題、産業保健の制度、労働安全、職場のメンタルヘルス対策に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(113 椎木文／全4回)</p> <p>産業看護活動の基本、活動の実際に関する知識を修得し、ヘルスプロモーションにおける保健師の役割、保健活動のあり方について考察する。</p> <p>(114 松本由希子／全5回)</p> <p>学校保健の目的と養護教諭の役割、社会背景と学校保健の動向、制度、学校保健活動に関する知識を修得する。</p>	オムニバス方式

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部看護学科)

区科 分目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	保 健 師 課 程 科 目	<p>公衆衛生看護方法</p> <p>本授業では地域で生活する人々の主体的な健康課題解決を支援するために必要となる公衆衛生看護活動の方法を学ぶ。公衆衛生看護を実践する上で必要とされる家庭訪問、健康教育、健康相談等、個人/家族への支援方法・技術を理解する。本授業を通して、地域社会での最小単位としての個人/家族について理解し、個人/家族への支援に必要な基礎的知識と技術を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(4 鶴田来美/全3回)</p> <p>公衆衛生看護における機能と技術、公衆衛生看護の基盤となる理論に関する基本的知識と技術を修得し、公衆衛生看護方法を総括する。</p> <p>(25 木倉悠子/全3回)</p> <p>健康相談・健康診査の意義と方法、管理栄養士および保健師による特定保健指導に関する基本的知識を修得する。</p> <p>(19 田川紀美子/全1回)</p> <p>健康教育の意義と方法について基本知識を修得し、演習につなげる。</p> <p>(4 鶴田来美・19 田川紀美子・25 木倉悠子/全23回) (共同)</p> <p>健康度測定と健康診査、特定健康診査の意義と方法、健康課題のアセスメント、特定保健指導の実際、乳幼児健康相談・健康診査、家庭訪問の実際、健康教育指導案の作成、健康教育の実際に関する基本的な知識と技術を修得する。</p>	オムニバス方式
		<p>地区活動論</p> <p>保健師が効果的な地域保健活動を実践するために、対象となるそれぞれの地域が持っている個性や特徴を把握する必要がある。本授業では、人々の生活の基盤である地区/コミュニティ/小地域概念、地区を担当することの意義について学び、地域診断の基本を理解する。本授業を通して、地域の潜在的な健康課題、地域の強みを明らかにし、地区活動計画の作成や評価に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 鶴田来美/5回)</p> <p>地域診断の目的と意義、地区の把握と地区情報、GISを用いた地区情報分析に関する基礎的知識を修得する。また、GISを用いた地区情報分析に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(25 木倉悠子/3回)</p> <p>地区診断の理論と方法、地区活動計画の作成方法、地区活動計画の評価方法に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(19 田川紀美子/全4回)</p> <p>周南市の歴史を知り、その上で周南市の地形・地質的特徴の理解を深め、住民組織活動やまちづくり対策に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(4 鶴田来美・25 木倉悠子/3回) (共同)</p> <p>潜在的な健康課題を明確化する過程、地区活動計画の作成と評価に関する基礎的知識を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		<p>疫学演習</p> <p>保健師は、地域住民の健康に関するさまざまなデータを有している。これらのデータを公衆衛生看護活動に活用できる情報とするために必要な、統計学の基礎、分析方法を理解する。本授業を通して、公衆衛生看護の基盤となる疫学概念と方法、健康を評価し健康課題を解決するために必要な基礎的知識を身につける。</p>	講義：14時間 演習：32時間
		<p>地域保健活動展開論</p> <p>その人らしいより豊かな健康生活を支援するためには、住民組織、地域組織の育成や支援が必要である。本授業では、保健師による地域組織活動の育成及び支援の目的と方法を理解する。本授業を通して、住民の多様な価値や文化を尊重し合い、その人らしい豊かな健康生活を実現するための仲間づくりや自助や互助を基盤とする地域組織活動に関する基礎的知識を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部看護学科)

区 科 分 目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  保 健 師 課 程 科 目	公衆衛生看護管理論	<p>本授業は、地域で生活している人々の健康と生活をよりよい状態に維持・向上させるという公衆衛生看護管理の機能を理解することを目的とする。本授業を通して、組織運営、人事・労務管理、業務管理、事例管理、情報管理、予算管理等、基本的な管理機能を理解する。また、地域ケアの質保証に必要な多職種・他業種連携や施策化において必要な基礎的な知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 鶴田来美/全6回)</p> <p>公衆衛生看護管理の目的と機能、組織運営と人事・労務管理、業務予算と予算管理、公衆衛生活動における情報管理、地域ケアの質保証と管理機能、健康危機管理に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(25 木倉悠子/全2回)</p> <p>健康危機発生時の保健活動、感染症の集団発生予防に関する基礎的知識を修得する。</p>	オムニバス方式
	保健医療福祉行政論	<p>本授業では公衆衛生看護を实践するうえで必要な保健医療福祉行政の仕組みや制度を理解する。さらに保健師に求められている施策化能力の育成に必要な保健福祉計画の策定から評価までの基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 鶴田来美/1回)</p> <p>社会保障、公衆衛生政策の理念と背景、保健医療福祉制度の変遷について理解する。</p> <p>(19 田川紀美子/4回)</p> <p>地域保健に関する公的機関、関係機関との連携、社会保障制度の理念と仕組み、医療制度・介護保険制度、社会保障・社会福祉の制度に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>(25 木倉悠子/3回)</p> <p>保健医療福祉行政、財政の理念と仕組み、保健医療福祉計画の推策定・推進・実施・評価保健医療福祉計画への住民参画に関する基礎的知識を修得する。</p>	オムニバス方式
	保健活動評価	<p>保健師が行っている保健活動には目的があり、実施後は必ず評価が必要である。本授業では、公衆衛生看護学実習を通して学習した様々な保健福祉活動や事業の評価方法を理解する。</p> <p>本授業を通して、地域保健活動における事業化・施策化の必要性と継続性や公平性を評価する基礎的知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 鶴田来美/3回)</p> <p>事業の位置づけと法的根拠、事業の評価の視点について基本的知識を修得する。</p> <p>(4 鶴田来美・19 田川紀美子・25 木倉悠子/5回) (共同)</p> <p>親子保健事業、成人保健事業、難病・障害者対策、感染症保健対策、高齢者対策事業の評価の方法を修得する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	公衆衛生看護実習Ⅰ	<p>本実習では地域の健康課題と保健所および市町村保健センターにおける保健事業や地域活動の実際について学び、行政保健師の機能と役割について理解する。さらに、地域で生活する個人・家族・集団・組織を対象とする公衆衛生看護活動の展開に必要な基礎的能力を修得する。</p>	共同
	公衆衛生看護実習Ⅱ	<p>本実習では産業保健や地域包括支援センター等、多様な場における保健師の役割や、青年期・壮年期・老年期といった特定世代に対する支援、関係職種との連携・協働の実際について理解する。さらに、地域で生活する個人・家族・集団・組織を対象とする公衆衛生看護活動の展開に必要な基礎的能力を修得する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(人間健康科学部福祉学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	人間 形成 と 個性 伸長 の ため の 科目 群	周南Well-being創生入門	本講義では「Well-beingとは何か？」について基礎的な知識の習得を目的とする。Well-beingとは身体、心、社会的に良好な状態を意味し、健康・幸福・福祉などと表されている。Well-beingは、単に病気がないことや、経済的な豊かさだけでなく、心の状態が良好であることが影響する。このことから具体的には、Well-beingに関係する様々な要因を挙げ、それらのメカニズムや高め方について、周南地域を事例としながら講義する。その際、EQ（心の知能指数）も要因の1つとして取り上げる。本講義を受けることにより、基礎的なWell-beingに関する知識を習得し、Well-beingの創生と課題についての視点をもつことができ、のちに展開される各論や応用の学習の準備とすることができる。

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	人間 形成 と 個性 伸長 の ため の 科目 群	<p>周南Well-being創生論</p> <p>『周南Well-being創生入門』で総論的に学んだことを受けて、本講義では各論的なWell-beingを扱う。経済経営、スポーツ、福祉、看護、情報などの学内の多様な分野の教員がそれぞれの立場から自身の研究分野についてWell-beingの観点から論じる。全回を通じて、学部学科横断的な視野で個人、地域、社会全体のWell-beingについての認識を深めるとともに、各学科の専門分野におけるWell-beingの重要性を改めて確認していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(27 渡部明/3回) 本講義のオリエンテーション、Well-being創生について総括的に論じるとともに、講義全体を俯瞰して概説する。また、周南地域におけるWell-beingについて、経済経営、スポーツ、福祉、看護、情報、まちづくりの視点から概説する。最後に全体のまとめと総括。</p> <p>(42 田島正士/1回) 経済的な豊かさと幸福(幸福度)の関係を考える。経済成長に対する定常経済、GDPに対する包括的福祉指標など、豊かさと幸福度の考え方やその意味を説明する。</p> <p>(16 木全晃/1回) 地球環境、社会環境の一部である企業、そして経営層や従業員がその役割や存在意義を認識、実践するうえで求められることを、SDGsやCSR等をもとに考える。</p> <p>(26 土屋敏夫/2回) ①ポジティブコンピューティングとは：概要およびDX、UX/UI、感性工学との関係について概説する。 ②ポジティブコンピューティングの実践：ミニワークショップによる地域課題へのアプローチ。</p> <p>(13 中嶋健/1回) 「スポーツのWell-being」：スポーツの高潔性を保ち、その価値や意義をより一層良い状態にするためには何が必要なのか？スポーツ健康科学の多様な視点から説明する。</p> <p>(18 清原泰治/1回) 「スポーツによるWell-being」：スポーツには、人と人、地域と地域の交流を促進し、地域社会の一体感や活力を醸成する力がある。このようなスポーツの力を高めるためには何が重要なのかについて考える。</p> <p>(15 大平光子/1回) 対象者のもつ価値や信念に寄り添う、看護学分野におけるその人らしいより豊かな健康生活の考え方について概説する。</p> <p>(21 鶴田来美/1回) 公衆衛生看護学の視点における、すべての人が健康に暮らせる社会の創生に関する考え方について概説する。</p> <p>(7 脇野幸太郎/3回) ①Well-beingの基盤となる「地域」のあり方について、現在国が推進している「地域共生社会の実現」を手がかりに考える。 ②個々人のWell-beingに大きく関わる「住宅」や「居住」のあり方について、現在進められている「居住支援」の観点から考える。 ③同様の犯罪を複数回にわたって繰り返す「累犯高齢者」や「累犯障害者」に対する社会復帰支援の取り組みの検討を通じて、改めてWell-beingの意義について考える。</p> <p>(43 赤木真由/1回) 住民のWell-beingを目指すまちづくりの事例を学んだうえで、周南地域らしさを活かして実践していきたいことを考える。</p>	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目	人間 形成 と 個性 伸長 の た め の 科 目 群	<p>持続可能な社会とダイバーシティ</p> <p>本科目は、持続可能な社会作りのために学生各自が現在どのような課題があり、その課題解決に向けて何ができるのかを考えられるようにすることが目的である。持続可能な社会というと、環境問題や経済的な格差問題に目が向きがちであるが、本科目はそれだけではなく、例えば男女共同参画における女性の地位、障がいをもった人々、LGBTQの人々などマイノリティに置かれている、社会参加の側面において「弱い」立場に立たされている人々の人権を福祉の立場から論じてみたり、スポーツの立場から、あるいは言語学の立場からも論じていく。本科目を通して、社会の持続的成長に向けて、学生は自分たちは何ができるのかを考え、行動に移す手段を考えていく力を育むとともに、社会の中では多様な生き方を選択する人々がいることを認めることができる豊かな教養やマインドを養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(29 呉賞/1回) 持続可能な社会とダイバーシティの概念、目標、相互関係について説明し、本講義のオリエンテーションを行う。</p> <p>(31 田尾真一/1回) 環境と経済の両立を目指す国際的な取り組みの歴史的な経緯や現状について、主に地球温暖化(気候変動)問題を中心に講義する。</p> <p>(30 小林啓祐/1回) 男性と女性がおかれた社会的状況について学んだうえで、その問題点について考える。</p> <p>(28 田中数恵/1回) 言語と性[ジェンダー]と社会との関係を究明しようとする新しい分野の研究から、現代の英語や日本語に見られる女性と男性の姿を紹介し、言語を意識的に変えることで社会を変えることの可能性について考える。</p> <p>(3 井上浩/5回) 障がいとは何か、なぜ障がいがあるというだけで差別が生じてきたのかについて考える。また、ゲスト講師を迎え、子どもの貧困問題、企業の発展と社会的責任、経済と持続可能な社会作りについて講義を行い、まちつくりと持続可能な社会の観点から最後に全体でワークショップを行う。</p> <p>(46 水崎佑毅/1回) 「すべての人に健康と福祉を」をテーマに、現状と課題を学び、今後何が必要かについて議論をしていく。また、スポーツとテーマの関係についても議論を行う。</p> <p>(10 金子幸/1回) 子どもの健やかな成長に影響を及ぼす諸問題について取り上げ、問題解決のための方策について考える。</p> <p>(22 渡邊淳子/2回) セクシュアリティとジェンダー役割、性の多様性について考える。</p> <p>(43 赤木真由/1回) 持続可能な社会につながる地域デザインを実現するための多様性の活かし方や創造性の発揮について取り上げる。</p> <p>(48 寺田篤史/1回) ゼミや部活を含むこれまでの大学での取り組みを紹介する。大学として、大学生としてどのようなことができるか考える。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義 28時間 演習 2時間</p>



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 人間形成と個性伸長のための科目群	異文化コミュニケーション	<p>多様化が認められつつある社会の中で他者との違いを受け入れつつうまくコミュニケーションをとる能力は、ビジネス・教育・医療・福祉・行政サービス・地域活動など様々な場で求められる。この科目では複数教員によるオムニバス形式で、様々な観点から異文化コミュニケーションの重要性や問題点を学び、多文化共生社会に必要な異なる考えや価値観を受容できる力を身につけることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 田中教恵・49 西村浩子/7回) (共同) 異国間・異言語圏間はもとより同国内・同母語間の事例も含めた行事・マナー・コミュニケーションを成立させる方法などを題材とした多様な文化背景を知る機会を創出する。また障害の有無などにも焦点を当てた講義を、外部講師を巻き込みより広い範囲での異文化間について学ぶ機会を創出する。</p> <p>(41 山本晋也/4回) 上記の理解をもとに実際に、同じ国、地域でどのように多文化共生が進められているのかを実例をもとにしたディスカッションなどを行い、理解を深める。また外部講師を招き、多文化共生社会の実践を行っている実際例などについても学ぶ機会を創出する。</p> <p>(37 立部文崇/4回) 大きな文化の違いだけでなくダイバーシティに代表されるような性差の問題、地域性、年齢差・世代差から生じる問題などに言葉の側面からスポットを当てるほか、これらが文化にどのように関わるのかについても外部講師を招き、機会を創出する。</p> <p>これらのオムニバス講義により、多文化共生社会の実現について理解が深められるよう多様な機会の創出を目的とする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	教養スポーツ実習 I	生涯にわたって健康的な生活を主体的に送るために、スポーツ活動を通じた健康づくりの基礎知識、実践力の修得を目指す。また身体的な健康だけでなく、精神的な健康および社会的な健康づくりのために、スポーツ活動を通じた多種多様な交流を行い、言語的・非言語的コミュニケーションスキルの向上を目指す。	共同  実習 20時間 講義 10時間
	健康とスポーツ	「健康とは何か？」という問いは、これからの未来社会を生きる私たちにとって今後切っても切れない課題である。IT 普及社会における子どもの体力低下抑止、社会保障負担の軽減などが喫緊の課題とされる一方、遺伝子工学の発展やトップスポーツの興隆が目覚しいこの時代の中でこの問いへの答えを見つけるためには、幅広い「教養としての健康・スポーツ」の知識が必須となる。本講義では、運動・栄養・休養の3つの観点から健康・スポーツに関する教養の幅と深さを広げ、主体的に課題解決に取り組むための基盤を築くことを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 人間形成と個性伸長のための科目群	人の健康生活	<p>病気や障がいの有無にかかわらず、あらゆる健康状態にある人びとの健康を身体的、精神的、社会的側面から捉えることは、一人ひとりの人間の、その人らしくより豊かな生活健康を考える重要な視点である。本授業では人の健康生活について、人間を全人的に理解し、健康を身体的側面、精神的側面、社会的側面から理解することを通して、人の健康生活のための知識とスキルを理解する。本授業を通して、人の健康に影響を及ぼす環境や要因、人の健康に関する価値、その人らしいより豊かな健康生活に関する考え方の基礎的知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(15 大平光子/4回) 人の健康の捉え方、多様性を尊重しあう社会における健康生活の捉え方、セクシュアルリプロダクティブヘルス/ライツ (SRHR)、セルフケア、ヘルスプロモーション及び暴力が健康に及ぼす影響と暴力防止に関する基礎的知識を概説する。また、総括として、地球規模での健康課題解決に関して考察する。</p> <p>(23 山本八千代/2回) 子どもの健康と成長発達の関係、病気や障がいがある子どものより豊かな生活の実現に関わる社会環境や子どもの健康状態が親、家族に及ぼす影響を概説する。</p> <p>(24 岡田純也/1回) □ 病気や障がいがある人の健康生活の考え方や健康生活とソーシャルサポートについて概説する。</p> <p>(36 大達亮/1回) 人の生活におけるストレスとストレスが健康に及ぼす影響及びストレスコーピングについて概説する。</p>	オムニバス方式
	健康と福祉	<p>本授業の目的は、誰もが健康で安心して暮らせるために、あらゆる年齢のすべての人々の健康について学び、それを支える福祉について理解を深めることである。そのために授業では、健康な生活について日本や諸外国の現状について学び、人々の健康な生活に関心をよせながら疾病や介護予防、さらに、地域で安心して暮らすための福祉の増進について理解を深める。</p> <p>主に講義形式で授業を進めていくが、学生の主体的な学びも重視して演習を取り入れながら授業を進める。身近な生活課題について学生自身が疑問を抱いたことを調べ、授業内で共有しながら進めることで、健康と福祉についての理解を深めていく。</p>	講義 28時間 演習 2時間
	メンタルヘルス入門	<p>現代社会は多くのストレスにさらされ、メンタルヘルスの危機に直面しやすい。本授業では、こころの健康、こころの健康の維持、こころの病気の予防、日々の生活とストレス、ストレス因子と対処法、主なこころの病気等、精神保健にかかわる問題解決に必要な基礎的知識を理解する。本授業を通して、現代社会における精神的健康にかかわる諸課題、こころの健康の維持、ストレス対処に関する基礎的知識を身につける。</p>	講義 13時間 演習 3時間
	自然災害と防災	<p>自然災害に関する様々なリスクに対して、自治体、学校・企業は防災や減災の対策を講じる必要がある。本授業では、自然災害の種類や災害リスクの種類及び災害の影響を減じるための対策及び被災者の心理について理解する。</p> <p>講義を通じて組織における防災、減災のためのリスクマネジメントの基礎的知識やリスクコミュニケーションの手法を身につける。</p>	
	地域ゼミ	<p>課題解決型学習 (PBL; Project/Problem Based Learning) の入門編として、地域が抱える課題の発見・解決に取組み、課題対応能力の伸長を目指す。各ゼミはそれぞれのテーマに応じて、また連携相手となる地域のニーズに応じて、取組むべき課題を見出し、まちづくり、ボランティア、イベント企画・開催、商品づくり、コンテンツ制作、情報発信など課題解決活動を行う。ゼミの実施にあたっては、多様なゼミ活動に共通する課題解決プロセス (現状認識、問題発見、課題解決、結論・総括) を意識し、課題解決の方法論の習得を目指す。また、他者との協働を通じてEQ力の伸長も図る。</p>	共同 講義 2時間 演習 28時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目 地域の持続的発展と価値創造のための科目群	地域づくり論	「超高齢化社会の到来」、「人生100年時代」と言われるように、日本では、長く生きながらえることが可能になった。他方、近年急速な少子・高齢化、生産年齢人口の減少による地域社会の構造変化や地域経済の停滞など、生活する場としての地域社会、共助の基盤としてのコミュニティの力は低下している。近年では、東日本大震災、そして新型コロナウイルス感染症拡大等の予測できない大規模な災害によって、再び「地域」の在りようへの関心が高まっている。本授業では、こうした社会環境の変化を踏まえながら、私たちが暮らしている地域社会の現状を把握するとともに、地域を維持・創造する主体としての自覚を持つこと、さらに具体的事例を元に、諸問題や実践への理解を深める。地域コミュニティの果たしうる役割やこれからの時代や社会において、なぜこうした連帯や関わり合いが必要なのか、地域の構造変容の過程と持続的な地域の在りようについて、複眼的に探求する。	
	周南地域文化講座	本学は、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての活動する「地(知)の拠点」(COC)構想を展開している。本授業では、この趣旨を理解し、その一員として学生が活動できるようになるために、自治体と連携し、学生が主体的に教育・研究・地域貢献を進めるための基礎的な知識を教授することを目的とする。とりわけ、周南地域について深い見識を有する、歴史博物館の関係者や学校関係者などを講師に招き、「周南地域の地理的特色と防災」「周防の国を治めた武将たち」「明治維新と周南地域」「周南をはじめとする周防の国にゆかりの文化人たち」といったテーマについて理解を深める。	
	周南地域と産業	本学は、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての活動する「地(知)の拠点」(COC)構想を展開している。本授業では、この趣旨を理解し、その一員として学生が活動できるようになるために、本学が存在する「周南」という地域について注目し、深く広く学ぶ。具体的には、周南の地域の産業について深い見識を有する本学教職員や外部講師を講師に招き、周南地域の産業の歴史、主要産業の内容、都市計画、地域とコミュニティー等について学び、地域の抱える問題や課題を取り上げその解決策と将来の発展の構図についても取り上げる。この科目の受講により、ゼミ等での地域課題解決活動に向けた基礎的知識を身につけるとともに、周南地域での就職や産業のあり方について見識を深めたいと考える学生に必要な情報と知識を身につける。	
	ワークショップデザインⅠ	本講義では、ワークショップデザインの基礎を学び、チームビルディングのアクティビティを計画、実践する。具体的には新1年生を対象にした「EQスタートアップ」にて、自己理解と他者理解を深めるためにチームで実施するアクティビティをデザインする。トライアルを経て、アクティビティをブラッシュアップし、チームで自律的にワークショップをデザインできるようになることを目指す。	共同  講義 2.5時間 演習 12.5時間
	ワークショップデザインⅡ	本講義では、ワークショップのデザインとファシリテーション、プロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。体系的にワークショップデザインの手法を学んだうえで、学生同士で企画したワークショップのトライアルを繰り返し実施する。トライアルを経て、ワークショップをブラッシュアップし、チームで自律的にワークショップをデザインできるようになることを目指す。その後、自治体、地域の企業や団体が参加する「周南リビングラボ」におけるワークショップを教員と共にデザインする。	共同
	ワークショップデザインⅢ	本講義では、ワークショップのデザインとファシリテーション、プロジェクトマネジメントを一年を通して実践的に学ぶ。後期は前期でデザインした「周南リビングラボ」の開催に向けて準備し、当日のマネジメントまで実行する。リビングラボで生まれたコミュニティの持続的活動に伴走し、実際に地域の方々とアイデアの実現に向けて取り組む。デザインしたワークショップを参加者などの状況により柔軟に組み換えながら、チームで実践的なワークショップがデザイン、実践できるようになることを目指す。	共同

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目  リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目 群	倫理学Ⅰ	「幸福」を鍵概念として倫理学の基本的な考え方を概論的に学ぶ。幸福は古代より倫理学の重要な対象であり、多くの思想家が扱ってきた。この授業では幸福を軸に倫理学説の通史的な講義を行うとともに、講義で得た知識をもとに現代の社会問題について「倫理的に考える」活動を行う。ディスカッションを通じて学生はそれぞれの思考を深め、レポートの形でアウトプットする。こうした一連の活動を通じて、学生各人の生き方の見直し倫理観の涵養を目指す。	
	倫理学Ⅱ	「正義」を鍵概念として、倫理学の基本的学説に基づいた応用的な考え方を概論的に学ぶ。授業では倫理学の主要な学説である功利主義、義務論、徳倫理学や現代の正義論について学ぶ。こうした倫理学の基本的な学説を、権利を含む財のあるべき配分、すなわち正義をめぐる問題として捉え返し、その講義を踏まえて現代の社会問題、とりわけ生命倫理をめぐる諸問題を応用場面として「倫理的に考える」活動を行う。ディスカッションを通じて学生はそれぞれの思考を深め、レポートの形でアウトプットする。こうした一連の活動を通じ、学生は社会問題を扱う倫理的な思考を概括的かつ体系的に学習し、それぞれの倫理観・社会観の涵養を目指す。	
	哲学	日常において常識的に前提とされていることを問い直し、その意味をあらためて説き明かそうとするのが哲学である。本講義では論理的思考力を培い、多様かつ柔軟な視点を持ち、ひいては現代の諸問題にも対処できる力をつけることを目指し、6つのテーマで講義を行う。すなわち「人間らしさとは何か」、「私」の身体、「生と死の接点」、「心の問題」、「言語と論理」、「責任と自由」である。	
	生活と経済経営	本講義では、経済学や経営学を専門としていない学生でも日常生活を送るうえで必要となる経済学や経営学に関する知識をオムニバス形式で教授する。また、学んだことを踏まえて、最終的にアウトプットする手法についても学び、今後の生活にも活かせるようにする。  (オムニバス方式／全15回)  (31 田尾真一／3回) 社会生活をするうえで我々は様々な公共サービスを利用し、その財源としての税を負担している。本講義ではそうした身近にある公共部門の役割やそれが抱える問題について概説し、自分事としてそれらの問題について考察する。  (42 田島正士／3回) 本講義では経済学の想定する合理的な人間像と実際の人間行動を比較し、経済学の長所と短所を考える。その合理性に基づく経済活動から外れた人間性や、合理性では考慮されない周辺への影響を考慮する意味を考察する。  (17 長澤賢一／3回) 金融は、我々が生活していくうえで極めて重要な役割を担っている。本講義では、貨幣における基礎的な概念に加え、法定通貨と仮想通貨(暗号資産)の違いを説明し、貨幣の役割について考察する。  (45 百武仁志／3回) 企業の中には地域に密着した企業がある。この企業は人々の暮らしに必要不可欠な存在であるが、どのような特徴があり、また、どのような問題を抱えているのか理解する。  (43 赤木真由／3回) これまでの講義で学んだ経済学、経営学の知識を活用して、どのように自分自身や地域社会の生活を豊かにするか考える。具体的には、実際の事例やアイデア創出の手法を学び、ワークを通じて自分の考えをアウトプットする。	オムニバス方式

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目 リベラル アーツ 科目群	日本国憲法	この講義では、憲法にかかわる身近な問題を提示しながら、憲法の意味や歴史、さらには人権や統治機構の諸問題について学習し、「日本国憲法」の基礎知識を身につけることをねらいとしている。具体的には、幸福追求・プライバシーをめぐる問題、法の下での平等をめぐる問題、思想・良心の自由をめぐる問題、表現の自由をめぐる問題、信教の自由・政教分離をめぐる問題、経済的自由をめぐる問題、生存権をめぐる問題、民主主義を実現するための制度（選挙権と選挙制度）をめぐる問題、憲法をめぐる新しい問題などについて取り扱う。	
	中国語 I	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、中国語習得の基礎を築く。文字と音の対応規則を学び、ピンインで平易な文を正しく読んだり書いたりできるようになる。日常会話でよく使われる表現や単語を学び、あいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができるようになる。また、中国語圏の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	中国語 II	中国語 Iに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、中国語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、話す・聞く・読む・書くの四技能を高める。また、中国語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	韓国語 I	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、韓国語習得の基礎を築く。文字と音の対応規則を学び、平易な文を正しく音読できるようになる。日常会話でよく使われる表現や単語を学び、あいさつや自己紹介程度の簡単な会話ができるようになる。また、韓国の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	韓国語 II	韓国語 Iに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、韓国語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、辞書を使いながら短いエッセイや手紙文などを読んだり書いたりできるようになる。また、韓国の文化・習慣などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	ドイツ語 I	初級レベルの語彙・文法・表現を学び、ドイツ語習得の基礎を築く。日常会話でよく使われるあいさつ表現や文字と音の対応規則を学び、平易な文を聞き取ったり書いたりできる。また、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
	ドイツ語 II	ドイツ語 Iに引き続き、初級レベルの語彙・文法・表現を学び、ドイツ語習得の基礎を築く。基本文法を体系的に学びながら語彙力・表現力を増し、辞書を使いながら平易な文を読んだり書いたり話したりできる。また、ドイツ語圏の社会・文化・歴史などにも触れ、幅広い教養、知識の獲得を目指す。	講義 20時間 演習 40時間
リテラシー 科目群	教養ゼミ	この授業は、本学が推進するEQ教育をベースとして、大学での学びに必要な基本的な技術・作法（アカデミックスキル）の修得・向上を目指す。大学での学びをスタートさせるにあたって自己開示やコミュニケーションの意義・方法を学ぶとともに、自身の考えを表現するレポートの作成法やグループ活動を通じてのプレゼンテーションの技術を学ぶ。こうした力は2年次以降のPBL（課題発見・解決型の学習）による学びの基礎となるのみならず、EQ力を涵養することを目指す本学での4年間の学生生活の基盤となる。	共同
	情報リテラシー	現代の情報化社会では ICT活用能力は必須である。情報ネットワークに接続しそこにある有用な情報を余すことなく活用して生きていく、基本的な技術と習慣を身につけておく必要がある。情報教育システム活用への導入編となる講義科目が「情報リテラシー」である。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 科目 群	データサイエンス入門	今後の情報を基盤とした社会においては、データサイエンスの基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となってくる。そのためデータサイエンスを基盤的リテラシーと捉え、全員が身に付けていくことが重要である。 この科目はデータサイエンスの入門科目として位置づけられる科目である。データサイエンスが、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかを理解し、社会の実データ・実課題を適切に読み解き、判断できることを念頭に置きながら、そのための基礎的な分析手法を、表計算ソフトを用いながら学んでいく。 この講義により、受講者は、データサイエンスの基礎を修得することができ、社会で活用されるデータサイエンスの基礎知識、データサイエンスの基礎的な分析手法を身に付けることができる。	共同
	情報倫理	今日の社会では、Facebook、Twitter、LineといったSNSや情報サービスを抜きにして我々の日常生活は語れないほど情報技術が進展し、浸透しており、またコミュニケーション形態も変化している。しかし、その一方で今までの常識を覆すような、さまざまな問題が生起している。今までの常識を吟味しなおす時期にきているのかもしれない。ともあれ、情報化社会における基本的人権であるプライバシー、情報化社会における情報流通の基本ルールである著作権、この二つのテーマが情報倫理の柱である。我々にとって、著作権(知的財産)やプライバシーを守る意識(コンプライアンス)が、今ほど求められている時はないことも事実である。この講義では、情報倫理の根本的問題から、具体的な現象まで詳説する。	
	Python入門	Python入門はプログラミング言語Pythonを用いてコンピュータプログラミングにおける基本的な考え方と初級的なプログラミング技術について修得する。Pythonは人工知能やデータサイエンス等の分野で広く使用されている一方で、文法は他の言語と比較して簡単なものである。この授業では、プログラミング言語の基本的な概念として、基本的処理、変数、演算子、アルゴリズムなどを理解し、手続き型プログラミング技法を用いた基本的なソフトウェア開発をできるようにすることを目標とする。	講義 15時間 演習 15時間
	総合英語初級 I	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力の基礎を固める。リスニングでは、連結、同化、脱落などの音声変化を理解して、自然なスピードで話されるあいさつや簡単な問いかけを聞き取る訓練をし、身近な話題についての易しい会話を聞いて話の主旨がある程度理解できるようになる。また、日常のコミュニケーションでよく使用される依頼や提案など基礎的な会話表現を学ぶ。 リーディングでは、英語の語順(文型)と語の働き(品詞)を学んで、簡単な語彙、よく使用される句で書かれた短い英文を読んで理解したり書いたりできるようになる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初級 II	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力の基礎を固める。リスニングでは、写真・イラストを見ながらそれについての平易な文構造の短い記述を聞いたり話したりする練習を通して、日常生活の中でよく見られる人々の行動等について簡単な語彙で表現できるようになる。また、やや長い聴解文を聞く練習を通して、情報の繰り返しや言い換えがあれば話の詳細が一部理解できるようになる。リーディングでは、文構造が単純な英文を後戻りなしで意味のまともりごとに読む練習を繰り返し、短い簡単なEメールなどをより速く、全体の意味をより正確に理解しながら読めるようになる。学期の終わりにTOEIC L&R IPテストを受験して、学習の進捗をはかる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語初中級 I	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を向上させる。事実に基づく情報を同じ単語や句を使わずに表現する訓練をして、長い英文の聴解や読解で言い換えられた情報に気づき、話の主旨や基本的な文脈をより理解できるようになる。文中に難しい語彙が使用されている場合でも、推測をしながらその意味を理解できるようになる。	講義 10時間 演習 20時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 科目	リ テ ラ シ ー 科 目 群	総合英語初中級Ⅱ	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を向上させる。 短い会話で、間接語法や否定構文など難しい構文や語彙が使用されている場合でも、ある程度理解できるように訓練する。 やや長めの英文読解で、一つの情報を他の情報と関連付けながら読むことができるようになる。 学期の終わりにTOEIC L&R IPテストを受験して、学習の進捗をはかる。	講義 10時間 演習 20時間
	総合英語中上級Ⅰ	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を実践的にさらに高める。 短い会話で、応答が婉曲的であったり予想外の内容であったりする場合でも、話の主旨がある程度理解できるようになる。 手紙文・Eメール・広告文・記事など様々なジャンルの英文を読んで、それらの内容構成を理解したうえで読むことができるようになる。 規則に基づいた文法構造を理解して、文中に難しい語彙が使われていても文法的な構造が理解できるようになる。 学期の終わりに、希望者にはTOEIC L&R IPテストの受験を推奨する。	講義 10時間 演習 20時間	
	総合英語中上級Ⅱ	語彙・聴解・読解・文法の総合的な英語運用能力を実践的にさらに高める。 短い会話や長い文の聴解において、語彙・構文が難しくない場合は、話の主旨や基本的な文脈を推測しながら聞くことができるようになる。 複数の関連ある文書の読解練習で、二つ以上の文にわたって述べられている情報を関連付けて読むことができるようになる。 接続詞や文と文をつなぐ表現の意味を理解して、話の展開を予測しながら読むことができるようになる。 学期の終わりに、希望者にはTOEIC L&R IPテストの受験を推奨する。	講義 10時間 演習 20時間	
	英会話初級Ⅰ	ネイティブスピーカーが話す英語の音声への抵抗感をなくし言葉のリズムに慣れるとともに、日常生活に根ざした場面でよく使われる単語や表現を学び、身近な話題について臆さずに英語で発話できるようになることを目指す。	講義 10時間 演習 20時間	
	英会話初級Ⅱ	英会話初級Ⅰに引き続き、ネイティブスピーカーと共に英語を用いて自分の考えを表現し、意思疎通が図れるよう訓練する。相手の質問に答えるだけでなく、自ら不明点や疑問点などを問いかけることを意識しながら英語を聞き話す経験を積み、自信をつけることを目的とする。	講義 10時間 演習 20時間	
専 門 基 礎 科 目	社 会 福 祉 の 基 礎	医学概論	本科目では、ライフステージごとの心身の変化と健康課題や、健康及び疾病の捉え方を学ぶ。そして身体構造や心身機能、疾病と障害の成り立ち及び回復過程についても学習する。さらに制度としての公衆衛生も学ぶ。 授業目標は以下のとおりである。 ①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②人の身体構造と心身機能について理解する。 ③健康・疾病の捉え方について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。 この授業を通して、ソーシャルワークの対象となる人の特性としての健康について理解を深め、それらの人の生活課題を解決する制度としての公衆衛生を理解し活用できる力を身に付ける。	
		心理学と心理的支援	ソーシャルワーク支援を行うためには、人の理解として例えば人の発達や認知の仕方など、心理的な理解が必ず求められる。本科目は、心理学の中でも最も基本的な視点を身に付けることを目的としている。内容としては、心理学の視点を身につけ、人の心の基本的な仕組みと機能、人の心の発達過程、日常生活と心の健康について理解し、心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本を学ぶ。このことにより、学生はその人の健康に影響を与えるさまざまな問題を整理する際に役立たせることができ、支援の必要性について根拠を持ち、ニーズを明確化していくことにつながる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	社会学と社会システム	社会福祉は、単に「福祉」を学ぶことではなく、「社会」との関係性を理解した上での学びで成り立っている。本科目では、「社会」との関わりを考えていく上で、社会学の基礎知識を学び、直接触れることのできない「社会」について考えていく。具体的には、社会構造と変動について理解し、また市民社会と公共性、生活と人生、自己と他者など社会学の視点を学ぶ。このことにより、学生は現代社会の複合化・複雑化している生活課題を社会学の知見から整理することで、現にある社会資源がなぜ必要なのか、何が不足しているのかが見極められる力を養う。	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	<p>社会福祉の歴史的な展開と社会福祉理論を踏まえ、日本の社会福祉の特性を理解する。そのために、社会福祉の原理(思想や哲学)を学び、社会問題がなぜ生じているのか、社会構造から理解できるようにする。</p> <p>具体的には、以下の内容で学びを進めていく。</p> <p>①社会福祉の歴史、特に日本と欧米との歴史的な展開について。 ②社会福祉の原理。これについては、社会福祉の思想や哲学について学ぶ。 ③社会福祉の哲学・思想・理論について。これには社会正義や人間の尊厳、平和主義などが含まれる。また、社会福祉に関わる政策論や技術論、運動論について学ぶ。さらに、社会福祉の論点として普遍主義と選別主義、自己決定とパターナリズム、社会福祉の対象について説明する。</p> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである</p> <p>①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論の概要を説明することができる。 ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を説明することができる。 ③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題の特徴を説明することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 輪倉一広/10回) 社会福祉の歴史、社会福祉の原理、社会福祉の哲学・思想・理論 【日本・海外】</p> <p>(1 難波利光/5回) 社会福祉の論点、社会問題と構造的背景</p>	オムニバス方式
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	<p>この授業では福祉サービスを支える理論を学ぶことを目的としている。まず、福祉政策を支える視点としてその概念や理念を理解し、人々が生活していく上でのニーズと福祉政策の過程を結びつける。また、福祉政策の動向と課題を理解し、社会福祉関連施策や包括的支援について述べる。次に、福祉サービスがどのように供給されているのか、その利用の過程について学ぶ。最後に、福祉施策を国際比較し、日本の特性について学んでいく。</p> <p>具体的には、次の項目で学習を進める。</p> <p>①社会問題と社会構造、②福祉政策の基本的な視点、③福祉政策におけるニーズと資源、④福祉政策の構成要素と過程、⑤福祉政策の動向と課題、⑥福祉政策と関連施策、⑦福祉サービスの供給と利用過程、⑧福祉政策の国際比較。</p> <p>この授業を通して、学生は現代社会の特質と福祉政策の動向を結び付けて考える能力が身に付くとともに、現状に対する批判的視点を養うこともできる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 竹下徹/2回) 社会問題と社会構造を説明し、福祉政策の基本的な視点について考える。</p> <p>(8 輪倉一広/5回) 福祉政策におけるニーズと資源について考え、福祉政策の構成要素と過程を学ぶ</p> <p>(1 難波利光/4回) 福祉政策の動向と課題を説明し、福祉政策と関連施策について考える</p> <p>(6 守本友美/4回) 福祉サービスの供給と利用過程について説明し、福祉政策の国際比較をすることで日本の特性について考える。</p>	オムニバス方式



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	社会福祉の基礎	<p>社会保障Ⅰ</p> <p>本科目は現代社会における社会保障制度の現状について学び、社会保障の概念をはじめ理念や対象、そして社会保障制度の果たす意義や役割について学ぶ科目である。</p> <p>授業内容については以下の通りである。</p> <p>①現代社会における社会保障制度の現状（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について</p> <p>②社会保障の概念や対象及びその理念について</p> <p>③社会保障と財政について</p> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <p>①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて説明できる。</p> <p>②現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題を説明できる。</p> <p>③わが国における社会保障制度の財政の状況や仕組みについて説明できる。</p>	
	社会保障Ⅱ	<p>本科目は、社会保険と社会扶助の関係並びに公的保険制度と民間保険制度の関係について理解を深め、わが国の社会保障制度の体系について学ぶ。さらに、諸外国における社会保障制度についても学修する。</p> <p>授業内容については以下の通りである。</p> <p>①社会保険と社会扶助の関係について</p> <p>②公的保険制度と民間保険制度の関係について</p> <p>③社会保障制度の体系について</p> <p>④諸外国における社会保障制度について</p> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <p>①公的保険制度と民間保険制度の関係について説明できる。</p> <p>②社会保障制度の体系と概要について説明できる。</p> <p>③諸外国における社会保障制度の概要について説明できる。</p>	
	権利擁護を支える法制度	<p>本科目では、福祉サービス利用者（高齢者、障害者、児童等）における権利擁護の考え方や意義について学修するとともに、権利擁護を実践するための法制度について、成年後見制度の仕組みや内容を中心に学修する。また、利用者本人の権利擁護や意思決定支援に関わる法律の各分野（日本国憲法、行政法、民法等）の基礎について学修し、「法的なものの考え方（リーガル・マインド）」の基礎を涵養するとともに、それを踏まえた権利擁護実践の視点を獲得することを旨とする。</p>	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	<p>本科目は、地域社会で発生する問題に向き合うために、包括的支援体制と地域福祉の考え方及福祉行財政を学ぶ科目である。</p> <p>授業では、地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について解説する。また、地域福祉における主体と対象について並びに住民の主体形成の概念を説明する。さらに、地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制と果たす役割について解説する。</p> <p>この授業を通して学生は以下の力を身に付ける。</p> <p>①地域社会で発生する問題の構造や背景について理解する力</p> <p>②それらの問題に対応するための包括的支援体制を考察する力</p> <p>③地域住民の主体形成に関わるソーシャルワークのスキル</p>	講義 26時間 演習 4時間
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	<p>本科目は、地域福祉推進のために、地域社会の問題を発生させている構造を変化させるための働きかけ、地域社会の内側そして外側の人々や組織、機関を繋ぎ、地域社会が持っている問題解決の力を掘り起こす方法について学ぶ科目である。</p> <p>授業では、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開について解説する。また、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について説明する。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を提示する。</p> <p>この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <p>①福祉計画の策定プロセスを実践できる力</p> <p>②多職種及び多機関協働の中でソーシャルワーカーとして実践できる力</p> <p>③地域住民一人ひとりのウェルビーイングを実現する実践を想像できる力</p>	講義 24時間 演習 6時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	社会福祉の基礎	<p>本科目では、高齢者の定義と特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、高齢者福祉の歴史、高齢者に対する法制度、高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割を理解するなかで、高齢者と家族に対する支援の実際を構築できるよう学修をする。</p> <p>授業目標は以下のとおりである。</p> <p>①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。</p> <p>③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。</p> <p>④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>この授業を通して、これからの超高齢社会における社会的問題・課題を理解し、問題解決する専門職としての行動を取ることができるよう力を身に付ける。</p>	講義 29時間 演習 1時間
	障害者福祉	<p>本科目では、障害者福祉の基礎知識やその背景にある理念や概念を理解することにより、障害者に対する支援を行う際の基本的な考え方や基盤を作ることを学習の目的とする。本科目の内容は次の通りである。①障害の概念と特性について理解する、②障害者とその家族の生活実態と社会環境について理解する、③障害者福祉の歴史について理解する。④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。学生は、一人一人が豊かで、かつ幸福を実感できる生活環境を生み出すために、保健・福祉・医療分野等の多職種連携を図ること、人間の健康に影響を及ぼす課題について考察し、支援ニーズを明確にしていくことができる。</p>	講義 29時間 演習 1時間
	児童・家庭福祉	<p>本科目は児童・家庭の生活とそれをとりまく社会環境について知り、児童・家庭が抱える生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について学修する科目である。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <p>①児童・家庭及び妊産婦の生活とこれを取り巻く社会環境                      ②児童の育ちとそれに影響を及ぼす諸問題                      ③児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程                      ④児童や家庭福祉に係る法制度                      ⑤児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法                      ⑥児童・家庭福祉における関係機関と専門職の役割</p> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <p>①児童・家庭が抱える多様な生活課題とそれを解決に結びつける児童家庭福祉に係る法制度を中心とした社会資源について理解する力。</p> <p>②生活課題を抱える児童・家庭に対する支援を提供する専門職の役割について理解する力。</p> <p>③複合的な生活課題を抱える児童・家庭の支援のあり方を考察する力。</p>	
	貧困に対する支援	<p>本科目は貧困状態にある人の生活実態について知り、貧困に係る法制度や支援の仕組みに関する理解を通じ、ソーシャルワーカーとしての適切な支援のあり方について学修する科目である。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <p>①貧困の概念                      ②貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境                      ③貧困の歴史                      ④貧困に対する法制度と支援に係る専門職の役割                      ⑤貧困に対する支援の実際</p> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <p>①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する力。</p> <p>②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する力。</p> <p>③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する力。</p> <p>④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を考察する力。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	社会 福 祉 の 基 礎	<p>保健医療と福祉</p> <p>本科目は、ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向及び保健医療に関わる制度政策・サービス並びに保健医療分野におけるソーシャルワーカーの役割について理解する科目である。授業では、近年の動向としてコロナ禍における生活習慣病への対応などを取り上げる。また、医療保険や診療報酬制度、地域医療計画について説明する。さらに、倫理的課題としてインフォームド・コンセントや出生前診断などを取り上げ、説明する。そして、ソーシャルワーカーの実践として、地域連携バスでの医療ソーシャルワーカーの役割などを取り上げ説明する。最後に、支援の実際として医療ソーシャルワーカーの業務指針や多職種連携のあり方について説明する。</p> <p>授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <p>①患者本人・家族の生活課題の背景について理解する力 ②保健医療分野で求められる倫理観をもって実践する力 ③多職種・他業種と連携して患者や家族のウェルビーイングを実現する力</p>	講義 26時間 演習 4時間
	刑事司法と福祉	<p>本科目では、刑事司法の概要について学ぶとともに、罪や非行を犯した者に対して、その再犯を防ぎ、更生を図るための制度やその仕組み、支援のあり方などについて、社会福祉との連携を考慮に入れながら学修する。そのうえで、地域生活定着支援センターや刑務所、検察庁などにおける社会福祉士の役割について、実践的に学修し、福祉と司法の連携のあり方について理解を深める。</p>	
	社会福祉調査の基礎	<p>多職種協働で問題解決を行う社会福祉の現場では、多職種と共通理解を図るためデータでの情報共有が必要になってきている。本科目では、ソーシャルワーク実践におけるEBP (Evidence Based Practice) の前提となる調査方法及び調査結果の解釈方法を学ぶ。そのうえで社会福祉調査を実践できるように学ぶ。</p> <p>そのために以下の内容を学ぶ。</p> <p>①社会福祉調査の意義と目的 ②社会福祉に関する調査の歴史 ③社会福祉調査における倫理と個人情報保護 ④社会福祉調査のデザイン ⑤量的調査の方法 ⑥質的調査の方法 ⑦ソーシャルワークにおける評価</p> <p>この授業を通して、社会福祉調査を計画し実践できる能力を獲得する。また自らの実践を評価しPDCAサイクルを回しながら、より良い実践を志向する力を得る。さらに連携する多職種に自らの実践を説明できる能力を身に付ける。</p>	
	福祉サービスの組織と経営	<p>本科目は、ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要や経営の視点と方法及び組織と運営に係る基礎理論について学ぶ科目である。</p> <p>講義内容については、社会福祉法人その他の法人の社会福祉施設の現状について概説する。また組織運営に関する基礎理論をはじめ、チームやリーダーシップの機能と構成、組織の経営における実際を教授する。他に、福祉人材のマネジメントの側面から育成や労働環境の整備についても触れる。</p> <p>この授業を通じて、①ソーシャルワークにおいて必要となる福祉サービスを提供する組織や団体の概要、②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法、③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利、④福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントの取り組む力を身に付ける。</p>	
	社会福祉法制	<p>本科目では、社会福祉に関する法制度の仕組みと理念について学修し、利用者の立場に立った福祉サービスのあり方や理念について理解したうえで、福祉の実践者としてこれらの制度を利用者の自立生活のために活用できる視点を獲得することを目指す。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	社 会 福 祉 の 基 礎	<p>人間と健康</p> <p>人の健康の概念は社会環境に即して変化する。本授業では胎児期から生の終焉まで、発達し続ける生活者である人間の健康とは何かについて、スポーツ健康科学、看護学、福祉学の視点から捉え、どのような健康状態であっても自身の持てる力を発揮して、その人らしいより豊かな健康生活 (Well-being) を支援する方略について考察する。本授業を通して、人間の健康及びその人らしいより豊かな健康生活を支援および探究していく基礎的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 大平光子/5回) 人間、健康、環境、看護の概念について概説し、人間の健康に関する看護学分野の捉え方 (ウェルネス理論、エンパワメント、セルフケアなど) について考え、環境 (自然・物理化学的・社会・文化・価値) が健康に及ぼす影響について概説する。さらにあらゆる健康状態にある人々のWell-beingについて概説する。</p> <p>(14 江崎和希/1回) 予防医学の観点から、多様な年齢・健康状態にある人々の健康増進、生活の質向上と運動について概説する。</p> <p>(34 小野高志/1回) スポーツや運動による外傷・傷害の予防・回復に必要な医学的基礎知識及びスポーツ医学について説明する。</p> <p>(13 中嶋健/1回) スポーツによって地域社会の健康を向上させるために必要なスポーツの社会科学的基础理論について概説する。</p> <p>(33 瀬尾賢一郎/1回) あらゆる年齢、発育発達段階にある子ども達の健康の維持・増進に必要なスポーツ教育学の基礎理論について概説する。</p> <p>(11 北村光子/1回) シニアの健康について、高齢者がもつ健康意識の現状を踏まえ、介護施設などの健康プログラムについて述べる。</p> <p>(4 梅田勝利/1回) 社会福祉法人活動と健康について、企業が取り組んでいる健康管理のあり方について法制度と現状について述べる。</p> <p>(1 難波利光/1回) 地域の中で健康について考えるシステムについて、民間組織、行政機関、地域自治組織などの事例を挙げて述べる。</p> <p>(10 金子 幸/1回) 乳幼児期にふさわしい生活を通して心身ともに健康に育つための必要なかわりについて概説する。</p> <p>(13 中嶋健、15 大平光子、1 難波利光/2回) (共同) 看護学とスポーツ健康科学、社会福祉学の学問分野が協働融合して人間の健康を追究する理由を概説し、人間と健康に関して総括する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	NPO・ボランティア論	<p>本科目は、市民セクターであるNPOやボランティア団体が、地域共生社会の構築にどのようにかかわっているのかを学び、その課題を考察する科目である。また社会福祉士として地域の福祉問題の解決のための市民セクターとの連携・協働の方法を理解することも目指す。</p> <p>授業では、ボランティア活動とNPOの概念及び現状を説明する。また、行政とNPOの協働のあり方について解説する。さらに、市民活動の組織化・事業化について説明する。</p> <p>授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <p>①社会問題や地域の生活課題について我が事として捉える力 ②自分が地域に貢献できることは何かを考え、実践に移すことができる力 ③地域の生活課題に対応するための方策を企画する力</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	社会 福祉 の 基礎	<p>地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰ</p> <p>地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰは、1年次春期休暇に実施する地域福祉キャリア形成活動指導Ⅰの事前学習を行う科目である。事前学習では、次の4点を学修する。</p> <p>①学外である社会福祉施設で実習を行う意義の理解 ②社会人としての態度・行動の理解 ③地域福祉インターンシップⅠを行う社会福祉施設の特性の理解 ④社会福祉施設の福祉サービス利用者とコミュニケーション方法の理解</p> <p>この授業を通して、学生は社会福祉施設で活動する地域福祉キャリア形成活動Ⅰの準備を行い、福祉サービス利用者とコミュニケーションを行う能力を身に付ける。</p>	共同
		<p>地域福祉キャリア形成活動指導Ⅱ</p> <p>地域福祉キャリア形成活動指導Ⅱは、1年次春期休暇に実施した地域福祉キャリア形成活動Ⅰの事後学習と、2年次夏期休暇に実施する地域福祉キャリア形成活動Ⅱの事前学習を行う科目である。</p> <p>①地域福祉キャリア形成活動Ⅰで実施したプログラムをグループで共有し振り返る。特に福祉サービス利用者とのコミュニケーションでの困難について焦点を当てる。②地域福祉キャリア形成活動Ⅱの学習目標である福祉サービス利用者への個別アセスメントの方法を演習で学ぶ。</p> <p>この授業を通して、地域福祉キャリア形成活動Ⅱの学習目標である、福祉サービス利用者とのコミュニケーションを通じて利用者の生活課題をアセスメントを行うことができる能力を身に付ける。</p>	共同
		<p>地域福祉キャリア形成活動Ⅰ</p> <p>地域福祉キャリア形成活動Ⅰは、1年次春期休暇中に10日間90時間の日程で、圏域の社会福祉施設（高齢者施設、障害者施設を中心とする）で実施する。</p> <p>地域福祉キャリア形成活動Ⅰでは、社会人基礎力の育成、社会人としての職業観の涵養、社会福祉事業・施設の理解、福祉サービス利用者との関係構築を学習目標として、インターンシップを行う施設の職員、学生、担当教員の三者で協議したプログラムを実施・体験していく。</p> <p>学生はこの科目を通して、①社会人としてのソーシャルスキルの獲得、②今後のキャリア選択を考えること、③福祉サービス利用者とのコミュニケーションを行う能力、以上3点を身に付ける。</p>	共同
		<p>地域福祉キャリア形成活動Ⅱ</p> <p>地域福祉キャリア形成活動Ⅱは、2年次夏期休暇中に10日間90時間の日程で、圏域の社会福祉施設（高齢者施設、障害者施設を中心とする）で実施する。</p> <p>地域福祉キャリア形成活動Ⅱでは、地域福祉キャリア形成活動Ⅰの学習課題を踏まえ、子どもや保護者、高齢者や障害のある方と個別的な関わりから、福祉ニーズを捉える力を身に付けることを学習目標として、活動を行う施設の職員、学生、担当教員の三者で協議したプログラムを実施・体験していく。</p> <p>学生はこの科目を通して、①子どもや保護者、高齢者や障害のある方個々に合わせたコミュニケーションを実践し関係を構築する力 ②子どもや保護者、高齢者や障害のある方の理解に基づいて個々の福祉ニーズを捉える力、以上2点を身に付ける。</p>	共同
専門 科目	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 系 科 目	<p>多職種協働演習</p> <p>チームアプローチや多職種協働のメンバーであるために必要なことは、チームを組む他職種に対する深い理解である。他職種を理解して初めて、相互の協働作業である「チームアプローチ」を円滑に進めることができる。この科目では、社会福祉士が連携・協働する多くの職種について、それぞれどのような内容を含み、どのような仕事をし、各職種がチームの中でどのような役割を担うかについて、事例検討やロールプレイングを通して、社会福祉士と他職種のつながりを理解するとともに、チームの中で協働するための行動や態度を身に付ける。</p>	講義 2時間 演習 28時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	<p>本科目はソーシャルワークの概念をはじめ、ソーシャルワークの基盤となる原理や理念といった考え方を学ぶ科目である。またソーシャルワークに求められるソーシャルワークの形成過程や倫理について学ぶ科目である。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ</li> <li>②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程</li> <li>③ソーシャルワークの概念</li> <li>④ソーシャルワークの倫理</li> </ol> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ソーシャルワークの基盤となる考え方を説明できる力</li> <li>②ソーシャルワークの倫理内容を説明できる力</li> <li>③ソーシャルワーク実践活動においてソーシャルワーク倫理が求められる理由を考察する力</li> </ol>	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	<p>本科目は、社会福祉士の職域と求められる役割について、またミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、さらには総合的かつ包括的な支援と多職種連携について学ぶ科目である。</p> <p>授業では、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明する。また、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について解説する。さらに、総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について説明する。</p> <p>授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉士が活躍するそれぞれの場面において求められる役割を果たす力</li> <li>②地域共生社会の実現に貢献するジェネラリストとしての役割を遂行する力</li> <li>③地域社会の中で多職種・他業種と連携・協働できる力</li> </ol>	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	<p>本科目はソーシャルワーク実践の基盤となる人と環境との交互作用に関する理論やソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチの特徴とソーシャルワーク実践における活用方法を学ぶ科目である。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</li> <li>②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ</li> <li>③ソーシャルワークにおける実践モデル・アプローチの活用方法と留意点</li> </ol> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人と環境の交互作用に関する理論について理解する力</li> <li>②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践の考え方と関連について理解する力</li> <li>③ソーシャルワークの多様な実践モデル・アプローチの機能と活用方法について理解する力</li> </ol>	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	<p>本科目はソーシャルワークの実践の基本として、面接の方法や記録について学び、特にメゾからマクロ支援の考え方としてコミュニティワーク、アドミニストレーション、ソーシャルアクションの考え方を学ぶ。またグループを用いた技法と、新人職員においては支援者が支援の進め方について戸惑いを感じるがあることから、スーパービジョンやコンサルテーションの必要性についても論じていく。学生は、人間のウェルビーイング実現のために、人や集団・地域社会が持っている課題解決力に気づき、個人から地域に働きかけていくための知識と知識に裏付けされた技術を身に付ける力を養う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 系 科 目	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク の 理 論 と 方 法 Ⅲ	<p>本科目は、社会福祉士の実践の基礎となる援助関係の形成やニーズ把握のための知識と技術について、また地域における社会資源の開発について学ぶ科目である。</p> <p>授業では、援助関係の意義と概念について説明し、援助関係形成のための技術について解説する。また、地域社会における社会資源の活用・意義・開発について説明し、方法としてのソーシャルアクションについて解説する。さらに、地域社会におけるつながりを創るための方法であるネットワーキングについて解説する。</p> <p>この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <p>①複雑化・多様化する問題をかかえた人々と援助関係を形成する力 ②社会福祉士として人々のウェルビーイングを実現するための社会資源を開発する力 ③地域社会における関係機関とのつながりの場を創造する力</p>	講義 18時間 演習 12時間
	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク の 理 論 と 方 法 Ⅳ	<p>本科目は、社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を学修し、ソーシャルワークの理論と方法を活用しながら、事例分析の方法を修得するための科目である。</p> <p>授業では、現代社会における課題解決に活用するソーシャルワークに関連する方法について説明し、事例分析を通して、ソーシャルワークの方法の実際について解説する。また事例分析を通じてソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際を説明する。</p> <p>この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <p>①現代社会におけるソーシャルワークの理論と方法を説明できる力 ②事例分析の意義や方法を説明できる力 ③ソーシャルワークの支援の実際を考察できる力</p>	講義 29時間 演習 1時間	
	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 Ⅰ	<p>本演習では、ソーシャルワーク専門職に求められる基本的な知識と技術について、実践的に修得することを目的とする。そのために、個別並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習を行う。学生は、このことで①ソーシャルワークの知識と技術の結びつきを他科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を築いていく力、②ソーシャルワークの価値と倫理を実践的に理解する力、③ソーシャルワークを行う際の基本的なコミュニケーション能力、④ソーシャルワークを展開する際に、知識と技術を結び付けられる力を身に付ける。</p>	共同	
	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 Ⅱ	<p>本演習は、ソーシャルワーク演習Ⅲとともに、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前指導として行われる演習である。実習事前指導として行われる演習なので、実習中で想定される虐待・引きこもり・貧困状態にある人々などの事例に対し、どのように支援が組み立てられるのかを机上で行うことが学生には求められる。事例には、当然個人に対する支援から地域に対する支援までが含まれている。本演習は以下の内容を個別指導並びに集団指導を通して、厚生労働省が示している教育内容に基づき、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。学生はこのことにより、①複合化・複雑化する人々の生活課題に対応するために、今ある社会資源を調整したり、新たな社会資源を作り出したりしていく力を身につける。②自己の省察を通して他者と話し合い、課題解決に向けた協働する力を身に付ける。</p>	共同	
	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 Ⅲ	<p>本演習は、ソーシャルワーク演習Ⅱに引き続いて行われる、ソーシャルワーク実習Ⅰに向けた事前指導として行われる演習である。実習事前指導として行われる演習なので、実習中で想定される危機状態にある人々に対する支援事例と、地域課題をいかに解決していくかという地域支援で支援が組み立てられるのかを机上で行う。本演習は以上の内容を個別指導並びに集団指導を通して、厚生労働省が示している教育内容に基づき、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。学生はこのことにより、①複合化・複雑化する人々の生活課題に対応するために、今ある社会資源を調整したり、新たな社会資源を作り出したりしていくことを身に付ける。②自己の省察を通して他者と話し合い、課題解決に向けた協働していく力を身に付ける。</p>	共同	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 系 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅳ	本演習は、ソーシャルワーク実習Ⅰの事後に行う指導（ソーシャルワーク支援技術としての演習）である。ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として修得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。本演習では、「現場の特異性」から「ソーシャルワーカー一般としての支援」に変換した支援技術の修得を目指す。学生はこのことにより、①複合化・複雑化する人々の生活課題に対応するために、今ある社会資源を調整したり、新たな社会資源を作り出したりしていくことを身に付ける。②自己の省察を通して他者と話し合い、課題解決に向けた協働する力を身に付ける。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	本科目は三つの内容を含む。一つめはソーシャルワーク実習Ⅱの事後指導である。二つめは、地域に対する支援をどのように具体化するかについてである。三つめは、社会正義についてである。一つめの、ソーシャルワーク実習Ⅱの事後指導については、グループ学習を通じて実習の振り返りを行う。二つめの、地域に対する支援をどのように組み立てるかについては、地域共生社会の実現という観点から、地域支援をいかに行うかを考える。三つめは、社会正義についてである。学生は、個人への視点から地域までの視点をもつ力を養うことで、①多角的に生活課題をとらえる力を持てる。②人と環境の関係性から人の生活課題をとられることで、地域住民や多職種と協働してその人らしい環境のデザインができる力を養う。③人がどのような健康状態にあっても、その人が住み慣れた地域で安心した暮らしを送ることができる支援を導くことが考えられるようになる。	共同
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	本科目は、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前指導として組み立てられた科目である。実習に関わる最初の科目なので、ソーシャルワーク実習の意義の理解や実習先の基本的な理解に結びつけられるようにする。具体的な内容は、施設見学や利用者理解、実習先の理解や地域社会の基本的な理解、施設で働く専門職者の役割を理解などが含まれる。このことで、学生は自らがソーシャルワーカーとしてこの社会で何をしていかなければならないのかを理解し、他専門職や他者と協働した連携力・主体力を身に付けていけるようになる。	共同  演習 18時間 講義 12時間
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	ソーシャルワーク実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク実習Ⅰ内に行われる、施設見学の事後学習並びにソーシャルワーク実習Ⅰの事前学習として位置づけられる。そのために実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範や倫理・知識及び技術に関する理解を進め、実習生一人ひとりの実習計画書を作成することが最終的な目標となる。学生はこのことにより、①多面的な視点から人間の健康保持・増進に関わる諸問題を発見し、社会資源の活用や開発を通じて問題解決を促進し、人間のウェルビーイングに寄与できる考え方を身に付ける。②人と環境の関係性から人間の生活課題を捉え、地域住民や多職種と協働して、その人らしい生活環境をデザインする力を身に付ける。③ソーシャルワークを基盤に保育や介護といったケアワークの専門知識や技能を備え、どのような健康状態にあっても、誰もが、住み慣れた地域で、安心して豊かな暮らしを支える福祉支援を考えられるようになる。	共同  演習 22時間 講義 8時間
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、一つめの内容はソーシャルワーク実習Ⅰの事後指導・実習の振り返りであり、もう一つの内容はソーシャルワーク実習Ⅱの事前指導である。具体的には、最初の内容については、ソーシャルワーク実習Ⅰにおいて、厚労省シラバスに提示されている10項目でどの部分が達成できたのかを整理し、実習報告会を行う。後半の内容については、厚労省シラバスに提示されている10項目で未実施の部分について実習計画書を作成し、実習先と協議し、実習で学ぶべき事らについて不足している点はないかを確認する。学生はこのことで、①多面的な視点から人間の健康保持・増進に関わる諸問題を発見し、社会資源の活用や開発を通じて問題解決を促進し、人間のウェルビーイングに寄与できる力を養う。②人と環境の関係性から人間の生活課題を捉え、地域住民や多職種と協働して、その人らしい生活環境をデザインできる考え方を持つ。③ソーシャルワークを基盤に保育や介護といったケアワークの専門知識や技能を備え、どのような健康状態にあっても、誰もが、住み慣れた地域で、安心して豊かな暮らしを支える福祉支援を提供できる力を養う。	共同  演習 26時間 講義 4時間



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 習 科 目	ソーシャルワーク実習Ⅰ	ソーシャルワーク実習Ⅰは、まず施設の役割や利用者像を確立させるために15時間(2日間から3日間)見学を行う。その後同じ実習先で180時間実習を行う。具体的には、厚生労働省から提示されている「教育に含むべき事項」10項目(利用者やその関係者との関係構築・援助関係の形成など)が含まれる。ただし、どの項目を取り扱うかについては、実習先との調整となる。ソーシャルワーク実習は学生が学んできたソーシャルワークに関する知識・技術・価値を統合させ、それを実践の場で活用してみる過程である。したがって、学生にとっては学びの集大成となる要素を含んでいる。	共同
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	本学のソーシャルワーク実習Ⅱは、ソーシャルワーク実習Ⅰを修了しかつソーシャルワーク実習指導Ⅲを修了した学生が実施することができる。ソーシャルワーク実習Ⅰとは別実習先で45時間実習を行い、ソーシャルワーク実習Ⅰで積み残した内容を実習課題とする。ソーシャルワーク実習Ⅰで積み残した内容を実施するため、目標や内容は実習生ごとにこととなる。ソーシャルワーク実習は学生が学んできたソーシャルワークに関する知識・技術・価値を統合させ、それを実践の場で活用してみる過程である。したがって、学生にとっては学びの集大成となる要素を含んでいる。	共同
	卒業研究Ⅰ	<p>本科目は、学生が主体的に取り組む研究過程を通じて、卒業研究における研究課題の明確化、科学的アプローチの方法の理解、論理的思考、研究的な視点や態度を習得するものである。</p> <p>授業では、研究テーマを決定するために必要な文献収集の方法、研究課題の設定の方法、調査方法、データ分析の方法について解説し、研究計画書を作成する。また、研究倫理についても説明し、責任ある学術研究活動に取り組む。</p> <p>この授業を通して学生は以下の力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉領域で解決すべき課題を特定する力</li> <li>②研究課題に関し文献を収集する力</li> <li>③科学的根拠を導くための調査方法を理解する力</li> <li>④研究計画を文章化する力</li> <li>⑤研究活動における倫理を理解する力</li> </ul>	共同
	卒業研究Ⅱ	<p>本科目は、社会福祉領域に関する課題に対し、論理的な志向を展開し、研究課題を分析、考察実践能力を修得し、卒業論文にまとめるものである。</p> <p>授業では、卒業研究Ⅰで作成した研究計画書にもとづいて研究をすすめ、結果を分析、考察し卒業論文の執筆の流れについて説明をする。また、執筆した研究論文の成果発表に向けて、プレゼンテーションの方法、パワーポイント等を用いた資料の作成方法について説明する。</p> <p>この授業を通して学生は以下の力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①研究結果を分析し、考察する力</li> <li>②研究目的に対する結果、分析、考察したものを研究論文として整理する力</li> <li>③研究成果を他者へ説明し内容が伝わるプレゼンテーション力</li> </ul>	共同
子 ど も 系 科 目	保育原理	<p>本科目は、子どもの育ちとそれにまつわる制度や政策の基本を学び、子どもの発達を支えている保育士の役割について理解を深める科目である。</p> <p>授業では、児童福祉法を基に、子どもや子育てについて整備されている制度や政策について学ぶ。さらに、子どもの発達に応じた保育内容・環境構成、保育の方法について学び、現代社会における保育の役割・意義、保育士の役割について理解を深めていく。</p> <p>この授業を通して、①子どもや子育てに関する制度・政策、②子どもの発達、③保育所保育の社会的責任、④保育士の役割、について学び、子どもの育ちや子育てについての専門性を身に付ける。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  子 ど も 系 科 目	保育ソーシャルワーク論	<p>本授業は育児不安をはじめとする子育て課題を抱える保護者への援助方法論である保育ソーシャルワーク実践モデルの考え方と活用方法について学ぶ科目である。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子育て家庭が抱える多様な子育て課題</li> <li>②保育ソーシャルワークの概念</li> <li>③保育ソーシャルワークの目的・主体・支援対象について</li> <li>④保育ソーシャルワークの機能</li> <li>⑤保育ソーシャルワークの展開プロセス</li> <li>⑥保育ソーシャルワーク展開における多職種・他機関連携</li> </ol> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育ソーシャルワークの基盤となる考え方を説明できる力</li> <li>②子育て課題に応じた保育ソーシャルワークの活用方法について考察する力</li> </ol>	
	保育ソーシャルワーク演習	<p>本授業は、保育ソーシャルワークの考え方を踏まえ、子育て課題を抱える家庭の多様な事例を通して、保護者支援のあり方について学ぶ科目である。</p> <p>マルトリートメントや子ども虐待が疑われる家庭の事例、育児課題を抱えるひとり親家庭の事例、発達障害が疑われる子どもを養育する家庭の事例等、多様な事例を通じて保育ソーシャルワークの実際の活用方法について検討することを主たる内容とする。</p> <p>多様な子育て課題を抱える保護者への適切な理解とあわせ、実際の支援を展開するためのアセスメント、支援計画の作成、支援の実践モニタリング、事後評価、終結に関する知識を修得する。</p>	
	社会的養護	<p>本科目は社会的養護の理念と制度について学び、児童の利益に資する支援について実践場面を想定しながら学びを深める科目である。</p> <p>授業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①社会的養護の理念</li> <li>②社会的養護の歴史の変遷</li> <li>③社会的養護の仕組みと実施体系</li> <li>④家庭養護と施設養護</li> <li>⑤社会的養護の基本原則</li> <li>⑥社会的養護に関わる専門職としてのソーシャルワーカーとしての役割</li> </ol> <p>本授業を通して学生が身に付ける能力は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①社会的養護の概念とその理念について説明できる力</li> <li>②社会的養護における子どもの自立支援に求められる支援原則について説明できる力</li> <li>③社会的養護におけるソーシャルワーク専門職の役割について考察する力</li> </ol>	
	子どもの理解	<p>本科目は、子ども一人一人に応じた援助に必要な視点を身に付ける科目である。</p> <p>授業では、乳幼児期の子どもの発達過程について学び、子どもの発達に沿った支援のあり方について理解を深める。さらに、子どもの内面理解を基にした支援のあり方について事例を活用しながら検討する。事例検討を通して、子どもの言動の背景には何があるかを考え、一人一人の子どもについて深く考察し、子どもを理解する視点を養う。</p> <p>この授業を通して、①子どもの発達過程、②一人一人に応じた支援のあり方、③子どもの内面理解の重要性、について学び、子どもの成長を支える専門的な援助の視点を身に付ける。</p>	
	子どもの遊びと援助	<p>本科目は、養護と教育が一体となって展開する保育や遊びを通じた総合的な指導について理解し、一人一人に応じた支援の在り方学ぶ科目である。</p> <p>授業では、保育の基本である養護と教育を一体的に展開するための環境について理解を深め、遊びを通して子どもの成長発達を援助する方法について学ぶ。さらに、子どもの育ちを保護者とともに支えていくために、家庭との連携のあり方について検討する。</p> <p>この授業を通して、①養護と教育を一体的に展開する保育、②子どもの遊びの重要性、③家庭との連携、について学び、子どもの成長を支える専門的な援助の方法を身に付ける。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	子ども系科目 子どもの保健	<p>本科目は、子どもの心身の健康増進を図る保健活動について理解し、子どもの発育・発達を支援する方法を学ぶ科目である。</p> <p>授業では、子どもの心身の健康と保健活動の意義、子どもの身体的発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握方法、子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解を深めていく。</p> <p>この授業を通して、子どもの心身の健康増進に向けた①保健活動の意義、②身体的な発育・発達と保健との関連、③心身の健康状態とその把握方法、④疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応、について学び、保育における保健活動の意義について理解する。</p>	
	幼児体育	<p>本科目は、子どもの健康な心と体を育てるための知識・技能を学び、子どもの発達過程に応じた運動遊びについて理解を深める科目である。</p> <p>授業では、健康的で安全な生活をつくりだす基本となる保育について理解を深め、運動遊びを中心とした指導案を作成し、模擬保育等にも取り組む。</p> <p>この授業を通して、①子どもの心と体の関連性、②発達過程に応じた運動遊び、③保育計画の立案、について学び、子どもの健康と安全について遊びを通じた支援のあり方を身に付ける。</p>	演習 18時間 講義 12時間
	音楽理論	<p>本科目は、子どもの音楽遊びで必要とされる演奏の基礎を身に付けるために、音楽の基礎理論や譜読力を学ぶ科目である。</p> <p>授業では、楽譜の読み方や音楽記号について学び、簡易伴奏付けができる基礎を理解する。加えて保育現場で歌われている子どもの歌についても理解を深め、子どもと音楽表現の活動ができる力の修得を目指す。</p> <p>この授業を通して、①音楽理論、②簡易伴奏付け、③子どもの音楽遊び、について学び、音楽を通じた援助技術を身に付ける。</p>	
	子どもの遊びと造形	<p>本科目では、子どもとかわる際に必要な援助技術のうち、造形遊びを中心に学ぶ科目である。</p> <p>授業では、保育活動で用いられる多様な造形技法について学び、子どもの発達と造形技法の関係性について理解する。また、発達に応じた造形遊びの展開方法の修得を目指す。</p> <p>この授業を通して、①多様な造形技法、②子どもの発達と造形技法の関係、③造形遊びの展開、について学び、造形遊びを通じた援助技術を身に付ける。</p>	演習 24時間 講義 6時間
	子どもの遊びと言葉	<p>本科目は、子どもとかわる際に必要な援助技術のうち、ことば遊びを中心に学ぶ科目である。</p> <p>授業では、言葉の獲得が著しい乳幼児期にふさわしいことば遊びについて学び、子どもをひきつける方法や技術について身に付ける。また、子どもの興味関心に沿った教材の制作を行い、模擬保育等を通して具体的な援助技術の修得を目指す。</p> <p>この授業を通して、①言葉の発達過程、②ことば遊び、③子どもをひきつける多様な教材、について学び、ことば遊びを通じた子どもへの支援のあり方を身に付ける。</p>	演習 23時間 講義 7時間
シ ニ ア 系 科 目	介護基礎理論 I	<p>本授業では、介護を必要とする利用者を支援する上で理解する必要がある基本的事項（①介護職の職務内容、②利用者の尊厳の保持と自立支援の考え方、③介護による支援の法的根拠）について学修する。</p> <p>具体的な学修目標は以下の通りである。</p> <p>①介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのかについて理解する。</p> <p>②自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点について理解する。</p> <p>③介護職が支援をするうえで理解する必要がある法律を理解する。</p> <p>この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <p>①介護を通じて支援するうえで自らの役割を考察できる力</p> <p>②利用者の尊厳を保持する方法やQOL向上する方法を考察できる力</p> <p>③介護保険制度や障害者総合支援制度を理解できる力</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	シ ニ ア 系 科 目	<p>介護基礎理論Ⅱ</p> <p>本授業では、介護を必要とする利用者を支援する上で必要となる利用者理解、支援の全体像の理解、利用者や支援者とのコミュニケーション技術に関わる内容（①老化の理解、②介護・福祉サービスの理解と医療との連携、③介護におけるコミュニケーション技術、）を学修する。 具体的な学修目標は以下の通りである。 ①利用者の加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解する。 ②制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解する。 ③高齢者や障害者のコミュニケーション能力に応じたコミュニケーション技術や介護におけるチームのコミュニケーション技術の実践について理解する。 この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。 ①利用者の加齢・老化が生活にどのような影響があるかを説明できる力 ②介護による支援の法的根拠と支援に関わる他の専門職の役割等を説明できる力 ③利用者に対するコミュニケーションや多専門職とのコミュニケーションにおける留意点を説明できる力</p>	
	こころとからだのしくみ	<p>本授業では、介護を必要とする利用者を支援する際に必要となる知識と技術（①介護の基本的な考え方、②認知症の理解、③障害の理解、④医療との連携とリハビリテーション、⑤死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護）について学修する。 具体的な学修内容は以下の通りである。 ①介護の基本的な考え方と、介護に関するこころのしくみとからだのしくみ ②認知症の理解と、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則 ③障害の概念と I C F、障害福祉の基本的な考え方 ④医療職と介護職の連携における留意点 ⑤終末期介護における留意点 この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。 ①介護の基本的な考え方と、介護に関するこころのしくみとからだのしくみの特徴を説明することができる。 ②認知症の特徴と、認知症の利用者を介護する際の支援原則について説明することができる。 ③障害の概念と I C F の基本的な考え方について説明することができる。 ④医療職と介護職の連携における留意点について説明することができる。 ⑤終末期介護における留意点について説明することができる。</p> <p style="text-align: center;">(オムニバス方式／全15回)</p> <p style="text-align: center;">(65 光武きよみ／13回)</p> <p>①介護の基本的な考え方と、介護に関するこころのしくみとからだのしくみ、②認知症の理解と、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則、③障害の概念と I C F、障害福祉の基本的な考え方、④医療職と介護職の連携における留意点を担当する。</p> <p style="text-align: center;">(68 原田昌範／2回)</p> <p>⑤終末期介護における留意点を担当する。</p>	オムニバス方式
	介護演習Ⅰ	<p>本科目は介護職に求められる生活支援技術を学ぶ科目である。 授業内容について以下の通りである。 ・生活と家事：家事援助（掃除・洗濯・料理）と介護の関係 ・快適な居住環境整備と介護 ・整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 授業を通して学生たちは支援対象者に対する介護に関する基礎的知識や生活支援技術を修得を目指す。</p>	<p>演習 17時間 講義 13時間</p>

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	シ ニ ア 系 科 目	介護演習Ⅱ	<p>本科目は介護職に就いて求められる生活支援技術を学ぶ科目である。授業内容について以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> <li>・睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</li> </ul> <p>授業を通して学生たちは支援対象者の生活場面に対応した介護に関する基礎的知識や生活支援技術を修得を目指す。</p>	<p>演習 18時間 講義 12時間</p>
	介護演習Ⅲ	<p>本科目は介護職に求められる生活支援技術や介護過程の展開について学ぶ科目である。最後に事例に基づく総合的な演習を行い、介護演習全体の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護</li> <li>・介護過程の基礎的理解</li> <li>・総合生活支援技術演習</li> <li>・介護演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの振り返り</li> </ul> <p>授業を通して支援対象者の生活場面に応じた生活支援サービス提供のための介護過程に関する知識と生活支援技術について修得する。</p>	<p>演習 16時間 講義 14時間</p>	
	福祉的ターミナルケア	<p>本科目は、社会福祉士がターミナルケアにおいてどのような役割を担い、どのような支援を行うのかについてを学修する科目である。</p> <p>具体的な学習内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ターミナルケアを実践する上での価値観・倫理観</li> <li>②ターミナルケアにおける支援の留意点</li> </ol> <p>この授業を通して学生が身に付ける力は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ターミナルケアを実践する上での価値観・倫理観を説明できる力</li> <li>②ターミナルケアにおける支援体制を考察できる力</li> <li>③ターミナルケアにおける支援を展開できる力</li> </ol>		
	ケアマネジメント論	<p>本科目は、ケアマネジメントの基本理論や目的を理解し、現在のソーシャルワークの技法として多く活用されるケアマネジメントの実践的な方法を学ぶことである。</p> <p>具体的には、地域において生活する利用者が持つ潜在的能力を引き出して自立支援を行うケアマネジメントの、インテークから終結までのプロセスを解説し、それぞれの段階におけるポイント・留意事項を考え実践に反映できるようにする。特にケアマネジメントにおけるコーディネーション、社会資源開発、多職種・多業種連携については介護保険制度における事例を通じて理解を促進する。</p> <p>この授業を通して①地域自立生活を支える技法としてのケアマネジメントを理解し、②ケアマネジメントの支援過程を展開できる力、具体的にはコーディネーション、社会資源開発、多職種・多業種連携を行う力を身に付ける。</p>		
地 域 系 科 目	地域観光まちづくり論	<p>本科目は地域が住みやすい環境になるのために、観光によるまちづくりを行うことで対応すべき地域課題の解決に向けた考え方や政策手段について、事例を交えながら学修する。</p> <p>観光は、人的資源が物質的な資源と共に必要である。地域の観光は、その地元に由来した歴史的な社会資源の活用により交流人口や関係人口を増やすことができる。このような観光資源は、まちづくりの基盤になる。住民にとって地域を支える人材を発掘し育成することは重要である。地域を作ってきた人と観光客との融合でのまちづくりについて検討する。</p> <p>まちづくりにかかわる基本概念と用語を理解し、身近な問題としてとらえるようになるとともに、観光が地域住民とともにまちづくりに関わることの必要性を理解し、自らが観光まちづくりに関わる力とは何かを修得する。</p>		

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  地 域 系 科 目	健康まちづくり論	<p>本科目は地域が住みやすい環境になるのために、健康に着目したまちづくりを行うことで対応すべき地域課題の解決に向けた考え方や政策手段について、事例を交えながら学修する。</p> <p>健康まちづくりは、国の健康政策を基本としながら、地域住民の健康を維持することができる地域コンテンツを見つけて福祉的ソーシャルキャピタルを活かすことが求められる。その中には、老人クラブや地域包括支援システムや地域自治組織が健康を作るコミュニティの核となることを検討する。</p> <p>まちづくりにかかわる基本概念と用語を理解し、身近な問題としてとらえるようになるとともに、地域づくしシステムを構築し多業種連携や地域連携を通して地域の福祉人材育成をすることにより、地域住民とともにまちづくりに関わることの必要性を理解し、自らが健康まちづくりに関わる力とは何かを修得する。</p>	
	やまぐち地域福祉発達史	<p>本科目は、日本における社会福祉の形成過程について、その源流や地域における歴史的背景、地域的特徴を相互に関連付けながら理解することを目標とする。</p> <p>社会福祉の歴史は、国の法律や制度に規定される一方で、地域独自の歴史や社会経済的背景と密接に関連しながら発達してきた。山口県において、対外戦争や産業革命など国内外の事象に影響を受けつつ、明治期以降の慈善事業や社会事業はどのように実践され、戦時下の厚生事業と戦後の社会福祉にはどのような連続と断絶がみられたのか。現代の地域福祉をめぐる諸問題は、こうした歴史的過程への理解を前提として検討される必要がある。</p> <p>授業は主に講義形式で進めていくが、現地見学や歴史資料の実見を通じ、地域の歴史を受講者が身近に感じられる機会も設ける予定である。</p>	
	福祉自治論	<p>この授業では、地方における「福祉」を、いわゆる社会福祉と介護や保健、コミュニティ政策などを含む住民の生活の豊かさや幸せを支える公共政策の領域と広く捉えて、福祉について地方自治論や行政学の知見・視点から考えながら学ぶ。</p> <p>「東京一極集中」が加速し人口減少社会・「縮減社会」に突入した現在の日本で、福祉を取りまく制度と政策が変化するなかで、「公」（政府）だけでなく、「公共」（地域コミュニティやNPO）や「私」（市場）の役割が拡大して、公共性のあり方が構造的に転換しつつある。そのような転換期における「福祉自治」に関する基本的な知識と事例、理論を検討する。地方における保健福祉・介護や地方自治を取り巻く状況を理解しながら、自治体とコミュニティやNPO、民間企業が相互に関係するローカル・ガバナンスのあり方、政府や市場の役割・機能と公共性について分析的・批判的に学修する。</p> <p>授業では、レジュメを配布して講義形式で進めるが、学生との議論も重視したい。私たちの生活と「福祉」のあり方を批判的に考えるための素材と機会を提供しながら、学んだことを反復学習し、学生自身が知識を確実に身に付けることができるようにする。</p>	
	地域公共政策論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のwell being向上のために、公共的に対応すべき地域課題の解決に向けた考え方や政策手段について、事例を交えながら学修する。</li> <li>・「市場の失敗」があるからこそ政府介入が必要である半面、「政府の失敗」も起こることを認識したうえで、集約的意思決定の方法と課題、地域経済の維持・振興方策、地域経済活性化による税収の安定化の課題などについて学ぶとともに、人口減少局面での地域公共政策の方向について検討する。</li> <li>・地域公共政策にかかわる基本概念と用語を理解し、身近な問題としてとらえるようになるとともに、報道などで関連情報に接したとき、自分で考え、自分で評価できる能力の増進をめざす。</li> </ul>	
	地域マネジメント論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガバメント（政府）とガバナンス（統治）の基本概念をふまえ、さらに企業経営の手法や関係主体による協働の観点を加えたうえで、地域のwell being向上をめざした地域マネジメント（経営）の考え方について、事例を交えながら学修する。</li> <li>・地域の実情に応じた「公共投資と行政サービス→家計と企業の経済活動の促進→地方税収の安定→公共投資と行政サービス…」という好循環を確保するための方策や課題について学ぶとともに、これらを推進するためのPPP（Public Private Partnership）、PFI（Private Finance Initiative）、Concession方式、指定管理者制度、公会計システムなどの仕組みについて理解する。</li> <li>・地域マネジメントの基本概念や考え方を理解して、身近な問題としてとらえるようになるとともに、地域の実態を把握するための基本的スキルを修得する。</li> </ul>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間健康科学部福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  地 域 系 科 目	地域福祉経済論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域経済の成り立ちや構造を確認するとともに、地域経済の一角を担う地域福祉について、well being向上に向けた特徴や課題を学修する。</li> <li>・ 地域の人口構成、就業構造・産業構造とその変化、地方財政への影響などを概観したうえで、地域福祉関連の雇用と経済の規模、公共事業と比較した経済効果、地方財政の課題などについて学ぶとともに、生活扶助、公的介護保険制度、国民健康保険などの仕組みと課題について理解する。</li> <li>・ 地域福祉と地域経済に関する基本概念を理解し、身近な問題としてとらえるようになるとともに、報道などで関連情報に接したとき、自分で考え、自分で評価できる能力の修得をめざす。</li> </ul>	
	政策評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国・都道府県・市町村においては政策の効果を検証したうえで、政策の見直しや計画立案に反映させていくことが求められているため、特に地域福祉政策に重点を置いて、身近な事例を交えながら、政策の点検・評価のための手法を学修する。</li> <li>・ EBPM (Evidence Based Policy Making)、PDCA (Plan, Do, Check, Action)、KPI (Key Performance Indicators)、OutputとOutcomeの違いなどの基本概念を理解するとともに、効率性、有効性、経済性などの観点から、事務・事業や施策を点検・評価するための手法と課題について学ぶ。</li> <li>・ 何らかの地域福祉事業を見たり聞いたり関係したりしたとき、その効果や課題を自ら点検・評価し、よりよい成果を実現するための考え方や基本的スキルを修得する。</li> </ul>	
	地域企業会計	<p>本講義では、地域活性化の担い手となる地域企業、福祉や観光などの地域未来牽引企業などが、自身にとって有用な財務情報の数値を把握し、現状分析を行い、会計的視点から経営力向上のための方法について考察できるようになることを目的とする。具体的には、「複式簿記の構造」を主なテーマとし、企業会計制度の動向の把握、複式簿記・発生主義会計の意義と会計基準に従った会計処理方法の理解、会計基準に従って作成した計算書類の見方などを修得する。また、本講義を基礎に、社会福祉法人会計基準に従った会計処理方法の理解、財務分析手法を用いた経営状況の把握、外部への情報提供に資する手法の習得などへと展開することができるようにする。</p>	
	社会福祉法人会計	<p>本講義では、社会福祉法人による社会福祉事業の円滑な遂行について、会計的視点から考察できるようになることを目的とする。具体的には、「社会福祉法人の経営力強化」を主なテーマとし、社会福祉法人会計基準に従った会計処理方法の理解から、同基準に従って作成する計算書類、すなわち、資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表の作成方法までを修得する。また、その計算書類について、財務分析手法を用いて経営状況の現状把握を可能にするとともに、外部への情報提供に資する手法の習得も目的とする。加えて、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化など社会福祉法人制度改革に対応できる能力の向上を図る。</p>	
	地域企業分析	<p>本講義では、時時刻刻と変化する経営環境の分析、業界の特性と動向の把握、企業価値向上を目的とした経営戦略の策定、経営目的を実現するための経営管理体制の整備といった、高度化・多様化・複雑化した諸課題を解決するための基礎的な分析手法の修得を目的とし、エビデンスにもとづいて経営現象を論理的に分析・解明する能力の向上を図る。具体的には、会計・ファイナンスに関する基礎的理論やフレームワークを用いて、体系的に学修し、それらに即した財務分析手法を修得する。それを踏まえて、地域活性化の担い手となる地域企業、福祉や観光などの地域未来牽引企業、地域運営組織などを対象として、比較可能性の観点から財務分析を行っていく。</p>	
	地域企業運営	<p>本講義では、地域活性化の担い手となる地域企業や地域運営組織におけるSDGs経営の導入やバックキャスト思考の涵養などについて、会計的視点から考察できるようになることを目的とする。具体的には、「持続可能な経営」を主なテーマとし、各会計基準に従って作成された計算書類などについて、財務分析手法を用いて経営状況の現状を把握すると同時に、経営課題を発見し、その解決策を提案できるようにする。また、資金調達の円滑化を目的とした外部への情報提供に資する手法の修得も目的とする。加えて、持続的・長期的な企業価値向上、マルチステークホルダー・プロセスの導入といったSDGs経営の実現に対応できる能力の向上を図る。</p>	